

【「本石灰町乙名本山家文書」史料調査要領】

一、調査方針

本要領は、令和二年度の東京大学史料編纂所一般共同研究の一つとして採択を受けた「長崎市中「本石灰町乙名本山家文書」の研究資源化に向けた調査研究」の遂行にあたり、総合目録の作成が必要となる「本石灰町乙名本山家文書」（東京大学史料編纂所及び長崎歴史文化博物館収蔵）のうち、古文書史料を対象に適用されるものとする。

整理した史料については、いずれも「本石灰町乙名本山家文書」史料調査目録（別紙様式参照）にまとめるものとする。

二、史料調査目録

（一）収蔵機関

「東京大学史料編纂所（購入分）」、「東京大学史料編纂所（寄託分）」、「長崎歴史文化博物館（長崎県立長崎図書館寄贈分）」、「長崎歴史文化博物館（長崎市長崎学研究所購入分）」の別とし、総合目録においては、それぞれ「東大史料（購）」、「東大史料（託）」、「長崎歴博（県）」、「長崎歴博（市）」と略記する。

（二）収蔵番号

整理済史料を目録化する場合は、既存の収蔵番号に基づいて番号を付す。

未整理史料を新規に調査する場合、史料の内容、保管状況、保存場所の状況などを鑑みた上で、通番にて収蔵番号を付す。未整理史

料のうち、同一の包紙、袋内に複数の史料が含まれる場合については、収蔵番号以下に枝番を付す。

なお、包紙、袋内に含まれる史料が一点のみの場合には、枝番は付さず（八）形態に「袋・堅帳」などとして記す。

（三）表題

史料に表題が付されている場合は、そのまま記す。

表題が付されていない場合には、史料の内容を勘案した上で「」内に表題を記す。断簡でかつ内容が読み取れない史料については「断簡」と記す。

整理済史料を目録化する場合は、原則として既存の表題に従うが、誤字及び脱字等が確認された場合は適宜補う。

（四）概要

史料本文に記された内容や史料そのものの性質について、概要を記す。概要の把握が困難な場合においては、参考情報として史料本文の冒頭一〇文字程度を翻刻する。

（五）成立時期

史料成立時期について、年月日の記載がある場合はそれに従う。

表記については、原則として和暦を用いることとし、算用数字で統一する。

年月日の記載がない場合、推定が可能なものについては（ ）内に年月日を記し、未詳のものについては打消線（―）を記す。

(六) 作成・差出

作成若しくは差出について、記載がある場合はそれに従う。
姓名が推定できるものについては（ ）にて補う。

未詳のものについては打消線を記す。

印及び花押については「人名（花押）」などとして記す。

(七) 宛先

右に同じ。

(八) 形態

「状」、「縦帳」、「横帳」、「小横帳」、「綴」、「古写真」、「絵図」、「軸」、「包紙」、「袋」などの別とする。

(九) 寸法

縦長、横長の寸法を記し、基準単位はセンチメートルとする。

同一綴の各紙については総体を採寸する。

計測不能のものについては打消線を記す。

(一〇) 備考

端裏書、史料の損傷状況、他の調査史料との関係性、参考文献、史料文中に登場する人物についての概況、その他注記が必要な事項について、可能な範囲で補う。

(一一) 分類項目

各収蔵機関の史料番号順に配列することとし、分類は行わない。

三、表記等

目録上の表記については人名、地名、史料本文をそのまま引用する場合を除いて、原則として現代仮名遣いを用いる。

ただし、変体仮名「江（え）」、「而（て）」、「与（と）」、「者（は）」、「茂（も）」、合字「メ（して）」、「メ（しめ）」、「方（より）」についてはそのまま表記する。

判読不明の文字については、字数分を□で記す。史料の損傷等が原因で判読不明となっているものについては、同じく字数分を■で記す。

闕字及び平出箇所については、当該部分に（闕字）、（平出）などと記す。

「本石灰町乙名本山家文書」史料調査目録

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要		作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
1	長崎歴博（県）	3 202-7	凱歌之図	(1) 船頭平田加津美ほか対馬藩士の名前が列挙されている る陣立表		—	年	— 月 — 日	—	—	絵図	43.0 × 33.0	「長崎県立長崎図書館受贈之印52」
				(2) 対馬藩士の名前が列挙されている陣立表		—	年	— 月 — 日	—	—	絵図	52.0 × 62.0	
				(3) (4) から切り抜かれたと思われる陣立表の紙片		—	年	— 月 — 日	—	—	絵図	15.5 × 14.5	
				(4) 対馬藩士の名前が列挙されている陣立表。中央部 (3) か) が切り抜かれている。		—	年	— 月 — 日	—	—	絵図	51.0 × 51.0	
				本石灰町乙名の本山家による安政2年（1855）正月から安 政3年（1856）正月にかけての業務日記。本石灰町の町政の様 子を知る上で好個となる基礎史料である。当時乙名職を 務めていたのは本山美郷（1808～1862）であった。		自安政2 至安政3	年	正 月 27 日	—	—	小横帳	20.0 × 13.7	「長崎県立長崎図書館受贈之印61」
2	長崎歴博（県）	13 594	日用雑記（安政2年）	本石灰町乙名の本山家による安政5年（1858）正月から同年 12月にかけての業務日記。本石灰町の町政の様子を知る上 で好個となる基礎史料である。当時乙名職を務めていたのは 本山美郷（1808～1862）であった。		自安政5 至安政5	年	正 月 隔 元 日	—	—	小横帳	20.0 × 13.5	「長崎県立長崎図書館受贈之印62」
3	長崎歴博（県）	13 595	日用雑記（安政5年）	本石灰町乙名の本山家による嘉永4年（1851）正月から嘉永 5年（1852）閏2月にかけての業務日記。本石灰町の町政の 様子を知る上で好個となる基礎史料である。作成者として 記されている「美郷」とは、当時乙名職にあった本山美郷 （1808～1862）のことと考えられる。		自嘉永4 至嘉永5	年	12 月 28 日 閏2	—	—	小横帳	17.9 × 12.5	抜込文書1点 「長崎県立長崎図書館受贈之印65」
4	長崎歴博（県）	13 596	日記手控 （嘉永5子正月改）	本石灰町乙名の本山家による万延元年（1860）8月から明治 17年（1884）10月にかけての業務日記。本石灰町の町政の 様子を知る上で好個となる基礎史料である。明治期以降の 記述については商品取引などの勘定差引帳として使用され ていた形跡がある。		自万延元 至明治17	年	8 月 10 期 日	花山亭	—	小横帳	17.0 × 12.1	「長崎県立長崎図書館受贈之印68」
5	長崎歴博（県）	13 597	雑記（万延元年）	本山重兵衛が文化11年（1814）に「新田方用向」のため天草 に出張した際の業務日記。重兵衛は長崎奉行支配として 同年3月と8月の両度にわたり天草を訪問し、崎津村などで 田畑の縄打を実施している。		自文化11 至文化11	年	3 月 9 日 19	本山 （重兵衛）	—	小横帳	19.7 × 13.6	「長崎県立長崎図書館受贈之印67」
6	長崎歴博（県）	13 598	手覚（文化11年）	本石灰町乙名の本山家による安政4年（1857）正月から安政 5年（1858）8月にかけての業務日記。本石灰町の町政の様 子を知る上で好個となる基礎史料である。当時乙名職を 務めていたのは本山勝之丞美郷（1808～1862）であった。		自安政4 至安政5	年	正 月 8 元 日 13	—	—	小横帳	20.0 × 13.5	「長崎県立長崎図書館受贈之印60」
7	長崎歴博（県）	13 599	日用雑記（安政4年）	本石灰町乙名の本山家による宝暦10年（1760）3月から宝暦 12年（1762）5月にかけての業務日記。本石灰町の町政の様 子を知る上で好個となる基礎史料である。当時乙名職を 務めていたのは本山倫由（1697～1773）であった。なお、表紙 には以下の項目が記されている。		自宝暦10 至宝暦12	年	3 月 2 日	—	—	小横帳	20.3 × 13.9	「長崎県立長崎図書館受贈之印58」
8	長崎歴博（県）	13 600	日用雑記 （宝暦10辰年より）	一、綾右衛門塗子養子一件 一、町内善右衛門油屋町文右衛門喧嘩一件 一、町内松五郎唐入屋敷6付出候二付一件 一、唐入屋敷小使広東人参一件 一、唐入屋敷時絵道具和国屋一件		自宝暦10 至宝暦12	年	3 月 2 日	—	—	小横帳	20.3 × 13.9	「長崎県立長崎図書館受贈之印58」
9	長崎歴博（県）	13 601	赤穂浪士討入模様 写	赤穂浪士による吉良義典邸討入りの顛末について、討入側 の原惣右衛門が書き残したとされる記録を又写ししたも の。本文末尾には「天保2年丑2月写之尻嶋保政所藏」とあ るが、本山家に引き継がれるまでの来歴は不明である。		天保12	年	2 月 — 日	—	—	軸	17.3 × 109.4	「長崎県立長崎図書館受贈之印48」

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
10	長崎歴博 (県)	13 602-1	寄場方掛之節人代久摩表格買入二罷越候一件	(0) 申間三月寄場方掛の節肥後/八代久摩表格買入并格苗買入として大村送罷越候一件	—	年	閏3月—日	(本山) 美利	—	包紙	23.9 × 29.6	「長崎県立長崎図書館受贈之印4」
				(1) 格苗買入として大村送仕役仕候諸雑用之儀申上候書付	—	年	閏3月—日	本山勝之丞	—	竖帳	24.2 × 16.3	
				(2) 仕切寛	—	年	一月—日	—	—	横帳	12.2 × 34.5	
				(3) 格斤数請取寛帳	—	年	一月—日	—	—	横帳	12.2 × 36.0	
				(4) 白格買入詰勘定帳	安政7	年	閏3月—日	(本山) 美利	—	横帳	12.5 × 34.4	
				(5) 寛 (白格赤渡につき)	—	年	閏3月12日	岡文助 (印)	倉本松助様、吉田屋伊八様	状	27.0 × 38.9	
				(6) 寛 (格代銀受領につき)	—	年	閏3月12日	岡文助 (印)	倉本松助様、吉田屋伊八様	状	27.0 × 33.0	
				(7) 寛 (格代銀の内銀5貫目受取につき)	—	年	閏3月11日	文助 (印)	慶藏様、松助様	状	27.0 × 21.0	
				(8) [御普請方御扶持米勘定書付]	—	年	一月—日	—	—	状	15.7 × 26.1	
				(9) [格代銀書付]	—	年	一月—日	—	—	状	17.7 × 27.0	
				(10) 寛 (格代其外雑用として)	—	年	一月—日	—	—	状	16.6 × 26.2	ほか「寛」4点合綴
				(11) [代銀差引勘定書付]	—	年	一月—日	—	—	状	23.9 × 31.4	
				(12) [出役中代銀差引勘定書付]	—	年	一月—日	—	—	状	17.7 × 23.5	
				(13) 仕切	—	年	閏3月14日	都倉屋松助 (印)	仁左衛門様	状	13.6 × 33.6	
				(14) [格代銀差引勘定書付]	—	年	一月—日	—	—	状	17.8 × 43.5	
				(15) [廻船ごとの格斤数量書付]	—	年	一月—日	—	—	状	25.4 × 34.4	
				(16) [格代銀勘定書付]	—	年	一月—日	—	—	状	27.0 × 38.2	
				(17) [格斤数量書付]	—	年	一月—日	—	—	状	24.0 × 35.6	
				(18) 寛 (旅籠料につき)	—	年	閏3月17日	三國屋弥三 (印)	吉田伊左衛門様	綴	26.0 × 36.0	
				(19) [格代銀書付帳]	—	年	一月—日	—	—	竖帳	24.1 × 17.3	
				(20) [格代銀書付帳]	—	年	一月—日	—	—	竖帳	24.7 × 17.2	
				本山美利 (1837～1911、当時勝之丞) が肥後国に出張した際に下げ渡された金110両の出入りに関する書付	安政6	年	3月29日	本山美利	—	横帳	39.6 × 13.6	
				本山は球磨や熊本に滞在し、球磨では猪の買入、熊本では長崎からの書状の受取などを行っている								
				本山勝之丞が安政7年3月に出張した際の旅籠料の受領証 (3日分) の書付	安政7	年	3月—日	長崎奉行支配 本山勝之丞 (印)	—	横帳	39.4 × 13.7	
				出張先については、関連史料 (収蔵番号: 13 602-4) に本山勝之丞が同月に肥後国に出張したことが記されている。また、2泊目の領収印には「大湊」という印字が確認できる								
				本山勝之丞が安政7年3月に出張した際の船賃及び人足賃の書付								
				島原から肥後/小幡までの船賃と、滞在地から小川までの人足賃の合計2件を記録している	安政7	年	3月—日	長崎奉行支配 本山勝之丞 (印)	—	横帳	39.0 × 13.6	
				他町の乙名から本石灰町乙名の本山重左衛門宛に発給された人別送り手形14通と差紙1通を含む計15通を編綴	文政4	年	12月—日	今頼町乙名 本山重左衛門 (印) ほか13件	本石灰町乙名 本山重左衛門殿	竖帳	27.4 × 19.8	
				本石灰町町人のみさが自宅で総死した事件に関して、町役人一同による検分の結果報告や近所の住民への聞き取りの作成など、一連の手続きについて記録した簿冊	自丑至丑	年	10月18日	本石灰町	—	竖帳	24.3 × 16.4	
15	長崎歴博 (県)	14 264-3	町内みさ於自宅総死致候一件 (丑10月)									「長崎県立長崎図書館受贈之印1125」
14	長崎歴博 (県)	13 4814-9	差紙入15通 (文政4巳)									
13	長崎歴博 (県)	13 602-4	人馬船賃請取帳 (安政7年申3月)									
12	長崎歴博 (県)	13 602-3	旅籠料請取帳 (安政7年申3月)									
11	長崎歴博 (県)	13 602-2	書簡届寛帳 金銭諸違私寛帳並注文寛帳 (安政5年、同6年申3月29日より)									

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
16	長崎県博 (県)	14 265-5	本郷町組申請書「文化17年6月」、同役申請書之号 (文化10年9月)	「本郷町組申請書」について、本下町では日行司の計助らが町内諸人用銀の勘定不取締を理由として町内の住人から訴訟を起こされ罷免される騒動が起こった。当時本下町2名の西郷魯次郎は幼年であったことから、同町と同じ本郷町組に所属する本石灰町、油屋町、船大工町、本郷町で本下町の乙名職務の補佐などについて取り決めたもの。この責任を取る形で本下町の乙名は西郷から清田正十郎に交替した 「同役申請書之号」は、文化10年9月に田口惣右衛門密で行われた、乙名職の人事案件に関する手続や、乙名田緒書の更新などに関する組合筆頭密合での決議事項をまとめたもの	自明和6 至文化10	年	8 月 1 日	本山控	—	竖帳	25.3 × 16.2	「長崎県立長崎図書館受贈之印 1133」
17	長崎県博 (県)	14 267-2	盗賊吟味方在溜之者手業余額納帳 (戌11月)	溜に収容されている者の手業 (手作業での労務従事) によって得られた余銀を、盗賊吟味方から払方年番宛に預けた際の銀高書付	自子 至戌	年	10 月 19 日	盗賊吟味方	—	竖帳	25.1 × 17.0	「長崎県立長崎図書館受贈之印 1132」
18	長崎県博 (県)	14 268-2	願書控 (安政5年)	重三郎が次兵衛から借銀を返済させることを求めた訴訟の趣意書の控え 本石灰町の重三郎は御勝手小使を務める藩十郎のもとに養子入りした。藩十郎にはちよという奥がいたが、ちよには堀次兵衛という間男がいた。養父藩十郎の死後、次兵衛は跡を継いだ重三郎が幼年である事を良いことに、重三郎の職務を御勝手小使から会所小使に変更する、役職変更にもなう余剰金や重三郎宛の褒美金を掠め取るなどの行為に及び、最終的に重三郎の名前で借銀をするようになったことから、重三郎が次兵衛を相手取り長崎奉行所に訴訟に及んだもの	安政5	年	12 月 1 日	隔人 重三郎	—	竖帳	26.2 × 16.3	「長崎県立長崎図書館受贈之印 1130」
19	長崎県博 (県)	14 269-5	家門改諸願 (安永9年12月、天明6年12月、寛政元年12月)	本石灰町町人の改名、檀家替え、引越などの事項を箇条書きにした簿冊	自安永9 至寛政元	年	12 月 1 日	—	—	竖帳	25.0 × 17.2	「長崎県立長崎図書館受贈之印 1137」
20	長崎県博 (県)	14 270-3	惣町乙名組頭番者日行役無役之者分限帳	長崎地役人の名前、職名、役料高について各職種ごとに分類して記した分限帳。当時の本石灰町乙名は藤田重左衛門という人物が務めており、改正場番船作手方を加役として担っていた	西	年	3 月 1 日	船手岡手月役	—	竖帳	25.7 × 18.4	「長崎県立長崎図書館受贈之印 1127」
21	長崎県博 (県)	14 271-5 1	町遣方勘定帳 (自戊正月至同12月)	前半部は本石灰町で支出した経費について、筆墨紙代、蠟燭代、炭代等を月毎に書き付た簿冊。報告者として乙名本山重野右衛門、組頭平田新兵衛、同佐藤彦兵衛の名が挙げられている。後半部は安永7年7月と12月に支給された箇所銀を本山重野右衛門らが会所役人立会いのもと本石灰町町人に配分した際に、各配当額及び名前を書付けたものとなっている	安永7	年	12 月 1 日	本石灰町	—	竖帳	25.3 × 17.6	「長崎県立長崎図書館受贈之印 1123」
22	長崎県博 (県)	14 271-5 2	町遣方勘定帳 (自辰正月至同6月、自午正月至同6月)	前半部は本石灰町で支出した経費について、筆墨紙代、蠟燭代、炭代等を月毎に書き付た簿冊。報告者として乙名本山重野右衛門、組頭平田新兵衛、同佐藤彦兵衛の名が挙げられている。後半部は支給された箇所銀を本山勝之丞らが会所役人立会いのもと本石灰町町人に配分した際、各配当額及び名前を書付けたものとなっている。本史料は天明6年前半期分と寛政8年前半期分の2部を合冊したものである	天明6 寛政8	年	7 月 1 日	本石灰町	—	竖帳	25.0 × 17.0	「長崎県立長崎図書館受贈之印 1131」

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
23	長崎県博（県）	14 272-2	水野若茂守様御在勤之 節被仰出候御書出し (天明8年11月)	天明8年11月に長崎奉行水野若茂守忠通のもとで発令され た奢侈禁止令の遵守を本石灰町内で周知した書札。水野 忠通は天明6年(1786)2月から寛政4年(1792)7月の間、長 崎奉行として勤務し、松平定信のもと寛政の改革を推し進 めた人物である	天明8	年	11月14日	贈取、年番、 月役	—	縦帳	24.2 × 16.3	「長崎県立長 崎図書館受 贈之印 1150J」
24	長崎県博（県）	14 273-2	月々町連方勘定帳 (自未正月至同閏12月)	前半部は本石灰町で支出した経費について、筆墨紙代、 蠟燭代、炭代等を月毎に書き付た簿冊。報告者として乙名 本山重野右衛門、組頭平田新兵衛、同松本貞助の名が挙 げられている。史料表紙には正月から閏12月までと記され ているが、本文中に記載されているのは正月から6月まで の期間である。後半部は安永4年7月に支給された箇所帳 を本山重野右衛門らが会所役人立会いのもと本石灰町町 人に配分した際に、各配当額及び名前を書付けたものと なっている	安永4	年	7月1日	本石灰町	—	縦帳	24.4 × 16.5	「長崎県立長 崎図書館受 贈之印 1124J」
25	長崎県博（県）	14 274-2	秘薬録	明治17年以降の本山家当主による日記帳。作者として挙げ られている「花山亭」とは本山美利(1837～1911)と考えら れる	自明治17 至明治17	年	1月28日	花山亭用	—	縦帳	21.4 × 14.4	「長崎県立長 崎図書館受 贈之印 1120J」
26	長崎県博（県）	14 275-3	表勘定下組	本石灰町において、戊辰11月25日から亥年7月分までの期 間にわたり支出した経費について、筆墨紙代、蠟燭代、炭 代等を月毎に書き付た簿冊。	戊辰	年	11月25日	—	—	縦帳	25.0 × 16.8	「長崎県立長 崎図書館受 贈之印 1126J」
27	長崎県博（県）	14 276-2	居酒屋徳之助勘定書、 梅本屋弥平勘定書、 權樂弥平立勘定控	東上町の梅本屋弥平が、壺原三余町の居酒屋徳之助を相 手に、滞っていた金銭の返済を求めて起こした訴訟に關す る記録。弥平と徳之助が主張する返済額に相違があったこ とから、徳之助から異議申し立てが行われており、徳之助 提出の勘定書と弥平提出の勘定書とが引き合わされている。	—	年	1月1日	居酒屋 徳之 助	—	縦帳	27.5 × 19.2	「長崎県立長 崎図書館受 贈之印 1134J」
28	長崎県博（県）	14 277-4	御書付御請印形帳 (西閏6月)	訴訟の際に陪陪の授受や担当役人への便宜供与といっ た「不持之手段」を行うことを禁じた御書付が長崎市中に 発令されたことともない、本石灰町乙名の本山重野右衛 門らが趣旨を諒み聞かされた上で、これらを遵守する旨、町 人一同に誓約させた史料。	西	年	閏6月1日	本石灰町	—	横帳	40.3 × 14.0	「長崎県立長 崎図書館受 贈之印 1141J」
29	長崎県博（県）	14 278-5	諸願並諸屋引替帳 (文化12年正月)	文化12年に本石灰町の町人から届出のあった住民異動や 船の出入などを項目ごとに書き留めた上で、処理状況を記 した帳面	自文化12 至文化12	年	正月15日	本石灰町	—	横帳	37.0 × 13.7	「長崎県立長 崎図書館受 贈之印 1140J」
30	長崎県博（県）	14 279-1	長崎村畑御地子上納帳	本石灰町町人が長崎村内に所有する畑地について所在地、 石盛、所有者、地子銀高等を記した帳面。帳面の後半部 には長崎村庄屋の森田周蔵から本石灰町乙名の本山重野右 衛門宛に提出された地子銀の受取額が貼付されている。	—	年	1月1日	本石灰町	—	横帳	40.1 × 13.5	採文文書3点 「長崎県立長 崎図書館受 贈之印 1139J」
31	長崎県博（県）	14 280-1	箇所割勘定控 (甲7月、12月、西7月、 12月、戊7月、12月、 亥7月、12月、子7月)	本石灰町町人が町内に所有する箇所に応じて、箇所銀高を 割り付けした帳面。当時の本石灰町では竹谷家が6箇所所 有で最も多く、乙名の本山家などが5箇所所有でそれに続 いている	自甲 至子	年	7月2日	本石灰町	—	横帳	39.9 × 13.7	「長崎県立長 崎図書館受 贈之印 1149J」
32	長崎県博（県）	14 281-4	旅人改方当分助勘蒙仰 候諸書留 (天保11年4月)	本石灰町乙名の本山重之丞美郷が乙名加役として旅人改 方助勤への就任を命じられた際の辞令書の写しや拝命時 の關係先への挨拶・贈答、祝宴の開催など、一連の手続き について記したもの	自天保11 至天保11	年	4月13日	本山美郷	—	横帳	39.3 × 13.5	「長崎県立長 崎図書館受 贈之印 1142J」

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
33	長崎歴博 (県)	14 282-1	中村道具類改控 (明治7年11月改)	茶碗、膳部、掛物などの道具類の品名・数量を記した帳面。本文冒頭に「明治八年十九日再改、七月本江山預ケ」とある	明治7	年	11 月 1 日	—	—	横帳	39.9 × 13.5	「長崎県立長崎図書館受贈之印」 1144j
34	長崎歴博 (県)	14 283-3	薩州大賀方駆引并姉妹 出立諸事之控 (文化7年11月以来)	本石灰町乙名の本山家と薩摩国の大賀健助との往来に関する記録。大賀は元々本石灰町人で井福常安と名乗り、長崎では口中御役医として勤務していたが、薩摩藩に召し抱えられた。関連史料 (収蔵番号 : 13 1658) によると、同町乙名の本山重野右衛門は井福家の出身であるなど親類関係にあった。本山家の出身者と思われる「姉妹」と大賀健助の長崎薩摩間の往来が記されている	自文化7 至文化10	年	10 月 23 日	—	—	横帳	3.8 × 12.5	「長崎県立長崎図書館受贈之印」 1145j
35	長崎歴博 (県)	14 284-1	町方遣仏覚帳 (天保7年7月)	本石灰町の町払銀の出入を項目ごとに書き留めた帳面。本石灰町の町人と思われる人物からの借用銀やハ崩銀、竈貫銀、寺社への寄付銀が多く記載されている	自天保7	年	7 月 1 日	本石灰町	—	横帳	40.0 × 13.6	「長崎県立長崎図書館受贈之印」 1146j
36	長崎歴博 (県)	14 285-1	市中取締方助勤蒙仰候 筋諸書留 (天保9年2月、6月)	本石灰町乙名の本山重之丞美郷が乙名加役として市中取締方助勤への就任を命じられた際の辞令書の写しや拜命時の関係先への挨拶・贈答、祝宴の開催など、一連の手続きについて記したもの 史料後半部には「市中取締方本勤蒙仰候筋書留」という簿冊も合冊されている	自天保9 至天保9	年	2 月 18 日	(本山) 美郷	—	横帳	33.7 × 12.7	「長崎県立長崎図書館受贈之印」 1147j
37	長崎歴博 (県)	14 286-2	勘定帳 (自天保2年至同10年)	本石灰町の町払銀の出入を項目ごとに書き留めた帳面。ハ崩銀、竈貫銀、農書銀、町給銀、寺社への寄付銀などが定例の項目として記されている	自天保2 至天保10	年	7 月 2 日	本石灰町	—	横帳	40.9 × 13.8	「長崎県立長崎図書館受贈之印」 1148j
38	長崎歴博 (県)	14 287-3	役料控 (享和元年)	本石灰町の組頭や小使らに支給された役料の勘定控。享和元年 (1801) から慶応2年 (1866) までおよそ65年間の長期にわたり記述が残されており、本石灰町組頭の名前や役料の変遷が分かる内容となっている	自享和元 至慶応2	年	7 月 2 日	本石灰町	—	横帳	39.0 × 13.9	「長崎県立長崎図書館受贈之印」 1138j
39	長崎歴博 (県)	14 288-3	本石灰町町方非常道員 拵払方勘定帳 (文久3年4月)	町方非常道員として火消道員14種を金15両で仕立てた際の支出総費を記した勘定帳	文久3	年	4 月 1 日	本石灰町	—	横帳	40.5 × 13.7	「長崎県立長崎図書館受贈之印」 1137j
40	長崎歴博 (県)	14 289-4	本石灰町箇所除並新古 畑御拝領地架作御地子 銀取立帳 (明和5年12月)	本石灰町町人が長崎村内に所有する畑地について所在地、石蔵、所有者、地子銀高等を記した帳面。帳面の末尾には文12月作成 (作成年次不明) の長崎村庄屋の森田周蔵から本石灰町乙名の本山重野右衛門宛に提出された地子銀の受取寛が抜き込まれている。	明和5	年	12 月 1 日	本石灰町	—	横帳	39.9 × 14.5	「長崎県立長崎図書館受贈之印」 1136j
41	長崎歴博 (県)	14 290-5	本石灰町出水ニ付御牧 銭割渡帳 (自寛政8年辰6月至7月)	本石灰町において洪水が起きた際に被害を受けた住民に対し御牧銀を支給した際の銭配分帳。6月には26軒48人に銭12匁900文を支給し、7月には68人の借家人に銀6両6分ずつ支給している	自寛政8 至寛政8	年	6 月 2 日	本石灰町	—	横帳	35.4 × 12.5	「長崎県立長崎図書館受贈之印」 1135j
42	長崎歴博 (県)	14 330-2	人別御改書出 (慶応3年)	沢渡重太夫の家来として挙げられている、住吉村の助十郎家8人と五社村の六弥家3人の名前及び家歴に関する書付	慶応3	年	2 月 15 日	沢渡重太夫	人別御改所	縦帳	24.3 × 16.7	「長崎県立長崎図書館受贈之印」 1156j
43	長崎歴博 (県)	17 112	波止場立合ニ付到来並 諸書留 (天保7年3月21日)	長崎奉行久世伊勢守広正が二度目に長崎に赴任した際に長崎地役人との間で行われた「進物之寛」、「到来之寛」、「献立」を記したもの	天保7	年	3 月 21 日	—	—	横帳	33.7 × 12.6	「長崎県立長崎図書館受贈之印」 1143j

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年 月 日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
44	長崎歴博 (県)	17 150-1	書翰	(1) [御舎兄出勤の件、元三郎全快の件、白米小売相場価格通知につき消息連絡]	— 年 4 月 8 日	神戸元町通 松尾元吉	長崎県下長崎 区浦五島町新橋通り 梅本榮太郎様	包紙 状	17.6 × 12.2 115.6 × 16.4	「長崎県立長崎図書館受贈之印39」
				(2) 寛 (金八両二朱槌二請取申候)	亥 年 2 月 4 日	山本保助、 井手山喜三郎	池田様	包紙 状	18.0 × 26.5 16.3 × 20.5	
				(3) [商売方繁盛の件など消息連絡]	— 年 11 月 18 日	八幡町嶋谷利 右衛門重手二 而 松尾元吉	長崎浦五島町 新橋通り 梅 本榮太郎様	状	24.6 × 36.0	
				(4) [病氣のため嶋崎延期、天保山中にて蒸気船事故につき消息連絡]	— 年 7 月 20 日	井筒屋次郎八 方二而 松尾 元吉	長崎浦五島町 ち新橋通り二 而 梅本榮太郎様	包紙 状	18.0 × 31.5 24.3 × 34.5	
				(5) [書状]	— 年 9 月 29 日	神戸より ま つ尾元輔	長崎浦五島町 におゐて 梅 本榮太郎様	包紙 状	19.0 × 9.7 16.8 × 計測不能	
				(1) 寛 (銀屋町豊蔵及び家族3人に関する人別証文)	戌 年 11 月 1 日	銀屋町 (印)	本石灰町	状	16.0 × 29.8	「長崎県立長崎図書館受贈之印38」
45	長崎歴博 (県)	17 151-1	寛	(2) 寛 (今石灰町山形謙碩及び家族7人に関する人別証文)	戌 年 11 月 1 日	今石灰町 (印)	本石灰町	状	16.0 × 26.6	
				(3) [家主藤三郎から野菜根売萌豊蔵及び家族3人に関する転居伺]	— 年 11 月 15 日	家主 藤三郎 (印)	本山勝之丞殿	状	26.9 × 38.0	
				(4) 寛 (縁頭製作及び定紋彫代金書付)	安政3 年 12 月 1 日	野田吟作	—	状	16.0 × 28.9	
				(5) 寛 (縁頭製作及び定紋彫代金書付)	寛 年 10 月 1 日	錦屋吟作 (印)	—	状	13.5 × 23.9	
				(6) 寛 (縁頭製作及び定紋彫代金書付)	亥 年 6 月 20 日	彫刻師 貞一	早田御氏様御 台所	状	15.7 × 30.6	
				(7) 寛 (葉種代錢書付)	亥 年 7 月 1 日	安川店	銀屋町 益太郎様	状	16.0 × 13.7	
				(8) 寛 (縁頭製作及び定紋彫代金書付)	寛 年 10 月 12 日	鐸師 長太郎 (印)	—	状	13.0 × 36.4	
				(9) 寛 (本石灰町卯三郎家屋敷売渡証文)	戊 年 閏8 月 1 日	本石灰町乙名 本山勝之丞、 東濱町乙名 田口親兵衛、 船大工町乙名 荒木良太郎、 本籍町乙名 田口寛太郎、 出承鍛冶屋町乙名 中屋政之進、泊屋町乙名 村尾恵三二	久松善兵衛 殿、高嶋作兵衛殿	状	26.5 × 65.0	
				(10) [受用銀明細書]	自 亥 年 7 月 二 日 至 亥	長崎会所	本山勝之丞	状	23.5 × 180.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
46	長崎歴博 (県)	17 156-1	雑用書類	(0) 雑用類	—	年	— 月 — 日	—	—	包紙	25.0 × 33.0	「長崎県立長崎図書館安贈之印49」
				(1) 水月楼江遊女買差引	—	年	— 月 — 日	中居中	勘定屋御客様	状	16.6 × 55.6	
				(2) 「大はしか快氣いっかい敵立」	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.5 × 159.3	
				(3) 「石丸虎五郎罪状書」	—	年	— 月 — 日	赤主 柳川庄右衛門 (印)、 受人橋本屋佐助 (印)	—	状	26.8 × 37.2	
				(4) 寛 (油代受取につき書状)	午	年	10 月 18 日	油屋方御衆中	状	27.9 × 22.1		
				(5) 「改年の御告慶など消息連絡」	—	年	正 月 3 日	松尾元輔 梅本御親父様、同采太郎様	状	33.0 × 57.0		
				(6) 「帰崎につき消息連絡」	—	年	正 月 13 日	(松尾)元輔 梅本栄太郎様	状	16.5 × 57.0		
				(7) 寛 (鯉一足送付依頼)	—	年	— 月 — 日	本山 (印) 片口町 高口御店	状	16.7 × 25.9		
				(8) 寒夜小集	—	年	— 月 — 日	—	—	状	15.8 × 35.0	
				(9) といつ	—	年	— 月 — 日	—	—	状	17.2 × 37.4	
				(10) 上 (寄合町にて口論、廉之助風邪相煩等消息連絡)	—	年	— 月 — 日	—	—	綴	16.2 × 44.2	
				(11) 相撲取組表 (2日目、7日目、8日目、10日目)	—	年	— 月 — 日	—	—	状	23.7 × 32.6	
				(12) 「寄合町にて提燈につき出役、親父下痢につき薬服用の件など消息連絡」	—	年	— 月 — 日	—	—	状	24.5 × 33.1	
				(13) 急廻状 (鍛術稽古相始りにつき出席案内)	—	年	10 月 28 日	鍛術世話役 本山膳之丞様、若杉健作様、小嶋三郎様、前園勝次郎様、若杉常重郎様、吉野久蔵様	状	15.7 × 39.5		
				(14) 例書 (御館入につき御役服拝領願)	文政2	年	— 月 — 日	—	—	状	17.0 × 30.6	
				(15) 一札之事 (宿代借銀証文)	文政10	年	7 月 — 日	井手要助 (印)	中村屋吉五郎殿	状	31.8 × 44.2	
				(16) 「八幡町神事町のため馬場造手伝の件につき書状」	—	年	閏8 月 12 日	安川吉左衛門	本山膳之丞様	包紙 状	26.0 × 37.0 16.4 × 126.5	
				(17) 「べにめの受領にともなう返礼、近況消息連絡」	—	年	4 月 25 日	本山御母堂様	昌太郎	封筒 状	16.2 × 4.5 16.0 × 88.7	
				(18) [仮名書付]	—	年	— 月 — 日	—	—	状	17.7 × 21.8	
				(19) 「本石炭町町人印形持参につき乙名会所へ運出の旨書付」	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.3 × 28.5	
				(20) 式三番叟	—	年	— 月 — 日	—	—	状	15.4 × 70.3	
				(21) 上 (礼拝印実書)	—	年	— 月 — 日	—	—	包紙 状	24.5 × 22.0 25.0 × 33.4	
				(22) 「興国商人と丸山女御屋に関する書付」	—	年	— 月 — 日	—	—	状	24.3 × 32.2	
				(23) 「大塩平八郎・格之助召捕方に関する書付」	天保8	年	3 月 27 日	—	—	状	15.9 × 69.8	
				(24) 「勤方助動願」	—	年	10 月 28 日	本山	清内様	状	16.5 × 26.2	
				(25) 「寄合町にて口論、病病相煩につき書付」	—	年	9 月 — 日	—	—	状	16.6 × 97.4	
				(26) 「書状断簡」 (親死云につき上坂の継父安川吉左衛門呼寄)	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.5 × 30.1	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
46	長崎歴博 (県)	17 156-1	雑用書類	(27) 〔書状断簡〕 (病状快復につき消息連絡)	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.7 × 27.9	
				(28) 〔書状断簡〕 〔銅座跡水代一件、病状報告書など書付〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.6 × 53.0	
				(29) 〔書状断簡〕 (八幡町一件につき書付)	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.5 × 41.0	
				(30) 〔書状〕	—	年	6 月 29 日	従大坂 河内 屋宗七	長崎石灰町 (マヅ) 本山 重兵衛様	状	18.0 × 5.3	
				(31) 〔書状〕	—	年	— 月 — 日	大坂二而 安 川百口口口 (左衛門カ)	本山御婦様	状	17.8 × 4.7	
				(32) 〔書状〕	—	年	8 月 27 日	松尾元輔	梅本栄太郎様	状	18.0 × 4.7	
				(33) 〔書状〕	—	年	3 月 12 日	松尾元輔	梅本栄太郎様	状	19.5 × 5.7	
				(34) 〔書状〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.6 × 4.2	
				(35) 〔書状〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	15.5 × 5.6	
				(36) 〔書状〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.7 × 4.4	
47	長崎歴博 (県)	17 158-1	書翰	(1) 〔封筒〕	—	年	— 月 — 月	従長崎 □□ □□	本山御婦様	封筒	18.0 × 10.0	
				(2) 〔辰三郎境の権などにつき消息連絡〕	—	年	8 月 11 日	安川吉平	本山御婦様	状	17.4 × 138.0	
				(3) 〔御母様宛本山膳十郎消息連絡〕	—	年	5 月 23 日	膳十郎	御母様	状	15.9 × 456.0	
				(4) 〔御母様宛本山膳十郎消息連絡〕	—	年	10 月 3 日	膳十郎	御母様	状	15.9 × 165.7	
				(5) 〔御母様宛本山膳十郎消息連絡〕	—	年	7 月 25 日	膳十郎	御母様	状	15.7 × 390.4	
				(6) 〔母親上神につき消息連絡〕	—	年	11 月 20 日	—	梅本行	状	16.5 × 5.3	
				(7) 〔書状、「弥御勇健可被逆御座宗奉賀寿候、随而当方無変罷在候…」〕	—	年	4 月 7 日	—	—	状	18.1 × 7.5	
				(8) 〔書状、「任幸便一筆啓上候、然者未だ余寒強く… (以下、開被不能)」〕	—	年	正 月 14 日	—	新ばし	状	18.3 × 6.3	
				(9) 〔無事着崎の件、熊本屋彦三郎との薬店商売など消息連絡〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	17.8 × 202.9	前欠
48	長崎歴博 (県)	17 160-2	書翰	(1) 〔小倉藩御館入にともなう上下賜状〕	—	年	2 月 25 日	常盤藤左衛門 光備 (花押)、 富永屯正徳 (花押)	本山膳十郎殿	状	15.6 × 88.5	
				(2) 〔茶会案内〕	—	年	5 月 28 日	荒木昌三拝	本山御婦様	封筒 状	17.6 × 4.3 15.4 × 31.5	
				(3) 〔本山家小倉藩御館入由来書付〕	實	年	正 月 — 日	本山	—	状	15.3 × 54.9	
				(4) 奉願口上之覚 (小倉藩御館入願出に関する書付)	卯	年	8 月 — 日	本山重兵衛役 本石灰町乙名 本山重之丞	武藤弾介様	状	15.8 × 50.7	
				(5) 謹銘預り手形	文政4	年	9 月 — 日	高松栄八郎 (印)	武内徳助殿	状	27.4 × 24.2	
				(6) 乍恐奉願口上書 (拝領の上下着用願)	巳	年	6 月 — 日	本石灰町乙名 本山重之丞 (印)	武藤弾介様	状	27.2 × 48.7	
				(7) 乍恐奉願口上之覚 (紋服拝領願)	—	年	— 月 — 日	本山重之丞	岡庭勇左衛門 殿	状	24.7 × 67.4	
				(8) 乍恐奉願候口上覚 (上下拝領願)	—	年	— 月 — 日	本石灰町乙名 本山重之丞	—	状	24.3 × 33.8	
				(9) 奉願口上之覚 (忝謙之丞への御館入継続願)	—	年	— 月 — 日	本山重兵衛	龍瀧之助殿	状	16.0 × 37.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
48	長崎歴博 (県)	17 160-2	書翰	(10) 奉願口上覚 (父重兵衛跡として御館入相続願)	—	年	— 月 — 日	(本山膳之丞カ)	—	状	15.8 × 26.3	
				(11) 乍恐奉願候覚 (紋服拝領願)	子	年	8 月 — 日	本山重之丞	—	状	24.3 × 29.5	
				(12) 奉願口上覚 (紋服着用届の省略願)	寅	年	閏7 月 — 日	本山	—	状	31.5 × 23.5	
				(13) [御母様宛本山膳十郎消息連絡]	—	年	3 月 15 日	膳十郎	御母様	状	15.5 × 190.7	
				(14) [御母様宛本山膳十郎消息連絡]	—	年	9 月 14 日	膳十郎	御母様	状	15.8 × 208.9	
				(15) [御母様宛本山膳十郎消息連絡]	—	年	2 月 6 日	膳十郎	御母様	横帳	16.8 × 47.8	
				(16) [御母様宛本山膳十郎消息連絡]	—	年	2 月 14 日	膳十郎	御母様	綴	16.6 × 47.2	
				(17) [百ヶ日経過につき近況など消息連絡]	—	年	正 月 12 日	上町カ	西むら様	状	16.0 × 91.2	
				(18) [書状]	—	年	— 月 — 日	—	—	状	18.5 × 7.0	
				(19) [書状]	—	年	— 月 — 日	—	—	状	17.9 × 7.5	前欠
				(20) [書状]	—	年	7 月 1 日	田坂理兵衛	本山御母公様	状	18.8 × 4.3	
				(21) [書状]	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.0 × 4.5	
49	長崎歴博 (県)	17 163-1	船改方役場雑用並水主 賃銀請払留 (文化13年)	(22) [書状]	—	年	5 月 27 日	松尾元輔	梅本弥左衛門様	状	18.5 × 7.0	
				本山家当主が町乙名の加役の一つである船改方を務めた際に支出した諸経費を記した簿冊。船改方とは長崎港内外の巡回や唐船及び阿蘭陀船の積荷検査を担当した役職であった。【参考文献】森永種夫校書『長崎乙名動方所御馳書抄』(長崎文献社、1978年、14頁)	文化13	年	2 月 — 日	本山	—	小横帳	19.9 × 13.5	「長崎県立長崎図書館受贈之印66」
				(1) 本石灰町内の借家人に対する臨時賃銀高を書付けた簿冊。2丁目石下部には「吉川幸七施行」との記載が存在する。同封の狹公文書によると本石灰町では1回につき額1貫572文を合計8回にわたって貸付している。	自宝暦7	年	7 月 — 日	乙名 本山重兵衛	—	小横帳	23.1 × 15.3	「長崎県立長崎図書館受贈之印64」
				(2) [新田万用向にかかると書出張業務日記] 長崎歴史文化博物館収蔵「手覧」(収蔵番号:13 598)に続く内容を記載した史料カ	自一 至一	年	9 月 14 日	—	—	小横帳	19.4 × 13.9	「長崎県立長崎図書館受贈之印65」
				本山家内の金銭の出入りを書き留めたもの。作成年次は不詳であるが、元治元年(1864)3月成立の「手覧」という史料を裏紙として再利用していた形跡があり、同年以降に作成されたと考えられる。	—	年	— 月 — 日	花山亭	—	小横帳	19.6 × 13.5	「長崎県立長崎図書館受贈之印63」
				前半部は「取替」「日雇払」などの名目で銀銭の出入りを記し、後半部では「請取之算」として銀銭の預り高を記す。なお、作成者の「河動」とは本石灰町町人の河内屋勘右衛門のことカ	自寛政7 至寛政8	年	5 月 29 日	河動 (印)	清水様、佐藤様、鶴田様	小横帳	20.0 × 13.5	「長崎県立長崎図書館受贈之印59」
				「献立」、「御献立」の二部からなる。「御献立」の末尾には長寿を祝う「千歳万歳」との文言が記されている	—	年	— 月 — 日	—	—	竖帳	24.4 × 16.1	「長崎県立長崎図書館受贈之印1129」
				本山家当主が剣術・鎧術・稽古に関する項目(入門・師匠への贈答・稽古出勤)について書き記した簿冊 作成者名は「本山倫長」となっているが、作成年の天保5年時点においては既に死没している。本史料の表紙には「日記算」という題名が付けられているものの、見せ消しで塗抹された上で本題を付していることから、本山倫長が当主であった時に使用していた表紙を再使用した可能性も考えられる	天保5	年	9 月 — 日	本山倫長	—	小横帳	12.4 × 16.6	「長崎県立長崎図書館受贈之印1119」
50	長崎歴博 (県)	17 164-1	本石灰町借屋之中極貧 之者共へ為取頼臨時賃 銀請払覚帳右手代取立 覚帳									
51	長崎歴博 (県)	17 165-1	手覧									
52	長崎歴博 (県)	17 167-1	銀銭調達之手証 (寛政7年6月)									
53	長崎歴博 (県)	18 46	本山家献立									
54	長崎歴博 (県)	18 47-1	増じゅつ剣じゅつ算帳 (天保5年9月)									

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
55	長崎歴博 (県)	テ14 32	御書出読聞印形帳 (安永3年壬正月)	前半部は本石灰町の町人が保有している船株の売買や名義変更などの諸手続の向書を留めた史料。それぞれ「有船」と「株船」の二種に区別して管理されている。後半部は西6月、辰9月、巳9月、午2月に発令された坂荷禁止令の遵守を本石灰町人一同で誓約した書札ものとなっている。	安永3	年	正月一日	本山信右衛門	—	縦帳	28.3 × 20.2	「長崎県立長崎図書館購入印1281」
56	長崎歴博 (県)	テ14 38	〔箇所親配分帳〕 (安永5年甲7月)	安永5年7月に支給された箇所親を本山重野右衛門らが会所役人立会いのもと本石灰町町人に配分した際に、各配当額及び名前を書付けた簿冊。	安永5	年	7月一日	本石灰町之名 本山重野右衛門 (印)、同町相頭 平田新兵衛 (印)、同松本貞助 (印)	—	縦帳	23.9 × 17.7	「長崎県立長崎図書館購入印1287」
57	長崎歴博 (県)	テ14 58	差上申家賃根証文之事 (天保10年亥8月)	本石灰町町人の高倉屋と兵衛が、自身が所持する家屋敷と土蔵を5匁511匁3分5厘を抵当にして御田米を拝借したことについて、本石灰町の代々名である中尾与三郎の奥書とともに、高嶋四郎太夫と高木清左衛門宛に提出した書状の下書。	天保10	年	8月一日	本石灰町 高倉屋与兵衛	高嶋四郎太夫殿、高木清右衛門殿	縦帳	24.9 × 16.9	「長崎県立長崎図書館購入印1307」
58	長崎歴博 (県)	テ14 67	〔正徳新例地下申渡し〕	鍋の海外輸出制限を遵守する旨、本石灰町町人一同に誓約させた史料。表題では「正徳新例地下申渡し」と付されているが、本文冒頭の鍋の生産量減少などを理由に貿易量の制限を通知した純書の中において「正徳五年御書付之写可渡旨被仰出候段、松越中守殿被 仰渡候間 (中略) 辰九月」との文言が存在することから、本史料の成立時期は寛政の改革が行われていた寛政2年 (1790) 頃と考えられる。	戊辰	年	9月一日	—	—	縦帳	27.2 × 20.4	「長崎県立長崎図書館購入印1327」
59	長崎歴博 (県)	テ14 68	〔諸書付〕	乙名が通年で果たすべき諸業務の勤務方法について記した史料。作成者として本山重兵衛倫由 (1697～1773) の名があり、本文中に明和2年 (1765) の年紀が記されていることから、明和2年から重兵衛が死去する安永2年 (1773) までの期間に作成されたものと思われる。	—	年	—月一日	本山重兵衛倫由	—	小横帳	13.0 × 19.0	「長崎県立長崎図書館購入印1328」
60	長崎歴博 (県)	テ14 106	奉願口上覚 (甲6月)	本石灰町の諏訪神事での奉納願呈上に際し、御館入先宛に更加の援助や紋服の着用品などについて「御屋敷居町」である新町同様の処遇を願い出たもの、新町には小倉藩と長州藩の蔵屋敷が置かれていたことから、本山家の御館入先はいずれかの藩であったと考えられる。	申年	年	9月一日	本山重左衛門	山路太次兵衛様	縦帳	24.3 × 17.2	
61	長崎歴博 (県)	テ14 108	年行司勤方書	年行司の勤方書で、表紙に本山とあることから、本石灰町乙名本山家に伝来したものと思われる。年行司は寛永13年に浦五島町乙名森口庄左衛門と重比須町乙名内野助左衛門が任命されたのがその最初であるが、総町乙名の加役として安政4年の廃止まで2人 (時には3人) が任命された。その主な任務は長崎奉行所に常勤して、長崎奉行と町年寄をはじめとする地役人とのバリエーション役であった。この勤方書には、奉行の交代に関する事項の他、御神事之事、神興行列之事、御能之事、御宿次并御用物之事などが記載されている【参考文献】長崎県の郷土史料』155頁、長崎史学会編『長崎関係史料選集 第2集』	—	年	—月一日	本山	—	縦帳	25.2 × 18.0	「長崎県立長崎図書館購入印1371」
62	長崎歴博 (県)	テ14 122	宝暦五亥年古記	諏訪造営、波止場吟味、銅掛方など町乙名の職務に関連する全30項目について、先例故事や職務手順などを記した簿冊。後半部は編年体形式で発生した異例の出来事を書き留めており、宝暦5年から明和5年頃までの年紀を確認できる。	自宝暦5 至明和5	年	—月一日	本山重兵衛倫由	—	小横帳	13.8 × 22.0	「長崎県立長崎図書館購入印1389」

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要		作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
63	長崎歴博 (県)	テ14 131	本興善町 本屋与三右衛門より元井福常安事当時薩州三而大實健助相手取廻出入二付及出訴候一件書留 (文化14年3月19日)	本興善町本屋与三右衛門が、薩摩藩御役医の大實健助を相手に、寛政2年正月の借用以来、滞っていた銀5貫500目及び利息の返済を求めて起こした訴訟に関する記録。大實は元々本石灰町町人で井福常安と名乗っており、長崎では口申御役医として勤務していた。関連史料「収蔵番号：13 1658」によると、同町乙名の本山重野右衛門が井福家からの婿養子であるなど親類関係にあった。最終的に大實の借組は息子の本石灰町町人の井福口安が本屋に返済することで内済となった。		自文化14 至文化14	年	3 月 19 日	(本山重兵衛)	一	整帳	24.5 × 17.0	「長崎県立長崎図書館購入印1402」
64	長崎歴博 (県)	テ14 137	一礼 (文政10年亥6月23日)	伊勢屋藤四郎の弟又次郎の住民移動（河内屋勘右衛門家への養子縁組）に際して、月行司の小国屋清次郎から本石灰町乙名の本山重之丞宛に発給された人別送り手形		文政10	年	6 月 23 日	右藤四郎年寄役二付月行司小国屋清次郎 (印)	本山重之丞殿	状	29.6 × 27.5	「長崎県立長崎図書館購入印1409」
65	長崎歴博 (県)	テ14 143	一礼之事 (七三郎人別差除之事、寛政7年卯4月)	石州美濃郡吉田村の七三郎の住民異動（入家）に際して、同村庄屋の中村八郎右衛門から、本石灰町役人宛に発給された人別送り手形		寛政7	年	4 月 一 日	石州美濃郡吉田村庄屋 中村八郎右衛門 (印)	長崎本石灰町御役人御衆中宛	状	30.7 × 28.7	「長崎県立長崎図書館購入印1415」
66	長崎歴博 (県)	テ14 156	乍恐奉教開口上書 (卯5月、遊女屋関係)	丸山町で遊女屋を営んでいる東屋省三ら4人が願主として、これまで営んでいた店屋での商売から播屋送りのみへと営業形態を変更することを願い出したもの。播代金は太夫屋のうち「並」とする旨、あわせて届け出ている。		卯	年	5 月 一 日	丸山町遊女屋願主 東屋省三 (印)、太夫屋 引田屋かう (印)、同筑後屋とら (印)、口筑後屋喜久造 (印)、丸山町遊女屋惣代 大坂屋孫八 (印)、寄合町遊女屋惣代 門屋嘉左衛門 (印)	盗賊改方御役場	状	34.0 × 115.0	
67	長崎歴博 (県)	テ14 164	寛 (天明5年、一向宗徒屋住人三相成願)	天草郡大矢野組のつやの住民異動（旅人から住人への変更）に際して、同組大庄屋の吉田長蔵から、本石灰町乙名の本山重野右衛門宛に発給された人別送り手形		天明5	年	7 月 一 日	天草郡大矢野組大庄屋 吉田長蔵 (印)	長崎本石灰町乙名 本山重野右衛門殿	状	27.6 × 35.3	「長崎県立長崎図書館購入印1438」
68	長崎歴博 (県)	テ14 165	寛 (天明6年、一向宗政右衛門人別差除)	播磨国網干濱田村の政右衛門の住民異動（旅人から住人への変更）に際して、同村庄屋の藤兵衛から、本石灰町宛に発給された人別送り手形		天明6	年	3 月 一 日	庄屋 藤兵衛 (印)	長崎本石灰町御役人衆中	状	31.7 × 28.0	「長崎県立長崎図書館購入印1439」
69	長崎歴博 (県)	テ14 166	寛 (一向宗源藏永住願)	豊後国玖珠郡の源藏の住民異動（永住）に際して、同村庄屋の中野喜助から、本石灰町宛に発給された人別送り手形		寛政9	年	5 月 13 日	庄屋 中野喜助 (印)	長崎本石灰町御衆中	状	29.0 × 42.5	「長崎県立長崎図書館購入印1440」
70	長崎歴博 (県)	テ14 167	寛 (天明3年卯10月、淨土宗起よ人別差除)	和泉国大鳥郡北庄村のさよの住民異動（養子縁組）に際して、同村の森角右衛門から本石灰町乙名の本山重野右衛門宛に発給された人別送り手形		天明3	年	10 月 15 日	北庄村 森角右衛門 (印)	長崎本石灰町乙名 本山重野右衛門殿	状	30.8 × 28.6	「長崎県立長崎図書館購入印1441」
71	長崎歴博 (県)	テ14 168	寛 (寛政2年戌6月、淨土宗直太郎逗留願)	大村片町の直太郎が親戚見回りのため本石灰町町人の河内屋勘右衛門のもとに逗留することをお村片町年寄の田中長右衛門が品川丹右衛門、品川慶次郎に連絡した書状		寛政2	年	6 月 一 日	大村片町年寄 田中長右衛門 (印)	品川丹右衛門殿、品川慶次郎殿	状	32.8 × 35.0	「長崎県立長崎図書館購入印1442」
72	長崎歴博 (県)	テ14 170	寛 (丑5月、榊宗角右衛門引越願)	富岡町の角右衛門と叔母すわの住民異動（引越）に際して、同町年寄の岡部佐藤めから本石灰町乙名の本山重之丞宛に発給された人別送り手形		丑	年	5 月 一 日	富岡町年寄 岡部佐藤治 (印)	長崎本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	26.8 × 31.5	「長崎県立長崎図書館購入印1444」

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
73	長崎歴博 (県)	テ14 171	寛 (延享4年即12月)	善合町のひさの住民移動に際して、同町乙名の芦刈猪之八から本石灰町乙名の藤田平三郎宛に発給された人別送り手形	延享4	年	12 月 一 日	善合町乙名 芦刈猪之八 (印)	本石灰町乙名 藤田平三郎殿	状	27.6 × 22.0	「長崎県立長崎図書館購入印1445」
74	長崎歴博 (県)	テ14 173	寛 (辰5月、松蔵志奈方へ入家願)	天草郡志岐組の松蔵の住民異動 (入家) に際して、同組大庄屋の平井為五郎から、本石灰町乙名の本山重兵衛宛に発給された人別送り手形	辰	年	5 月 一 日	天草志岐組大 庄屋 平井為 五郎 (印)	長崎本石灰町 乙名 本山重 兵衛殿	状	27.2 × 40.0	「長崎県立長崎図書館購入印1447」
75	長崎歴博 (県)	テ14 174	寛 (辰5月、春斐縁付願)	富岡町のすへの住民異動 (縁付) に際して、同町年寄の岡部佐野左衛門から本石灰町乙名の本山重兵衛宛に発給された人別送り手形	辰	年	5 月 一 日	富岡町年寄 岡部佐野左衛 門 (印)	長崎本石灰町 乙名 本山重 兵衛殿	状	26.8 × 34.4	「長崎県立長崎図書館購入印1448」
76	長崎歴博 (県)	テ14 177	寛 (己2月、御町御願請地面)	末五郎という人物が所持する建屋を、東築町の中尾辰之進に銭150貫文で売却することについて、末五郎からその許可を願い出たもの。宛先は「御役人御衆中」となっているが、関連史料 (収蔵番号：テ14 178) によると、末五郎は本石灰町町人であることが確認できるため、本石灰町の町役人宛に提出された史料であることがわかる	巳	年	2 月 一 日	末五郎 (印)	御役人御衆中	状	15.7 × 23.7	「長崎県立長崎図書館購入印1451」
77	長崎歴博 (県)	テ14 178	寛 (己2月、御町御願請地面末太郎所持之建家)	本石灰町町人の末五郎が所持する建屋を、東築町の中尾辰之進に銭150貫文で売却することについて、中尾辰之進から本石灰町役人宛にその許可を願い出たもの	巳	年	2 月 一 日	東築町 中尾 辰之進 (印)	本石灰町御役 人御衆中	状	16.2 × 24.2	「長崎県立長崎図書館購入印1452」
78	長崎歴博 (県)	テ14 183	寛 (自身番所内普請入目ノ高)	寛政11年9月に自身番所内の普請を行った際の入目書付。所要経費は7貫82文であった。その後自身番所については本石灰町町人の河内屋勘右衛門のもと建替が行われたことが記されている	寛政11	年	9 月 一 日	—	—	状	15.4 × 31.9	「長崎県立長崎図書館購入印1457」
79	長崎歴博 (県)	テ14 184	寛 (綿丹屋殿)	本山から村尾宛に綿製品2種の納品が明日になる旨を知らせた書付。添削の形跡が複数あり、案文と考えられる	午	年	5 月 25 日	本山	村尾様	状	17.0 × 16.1	「長崎県立長崎図書館購入印1458」
80	長崎歴博 (県)	テ14 185	寛 (銀三十匁)	横濱屋から本山宛に銀30匁を受領した旨知らせた書付	未	年	正 月 14 日	横濱屋	本山様	状	16.6 × 15.5	「長崎県立長崎図書館購入印1459」
81	長崎歴博 (県)	テ14 186	寛 (正月6日、銀一匁五分)	脇差の製作にともなう必要となる代銀の書付	—	年	5 月 6 日	孫太郎	本山様	状	16.9 × 32.0	「長崎県立長崎図書館購入印1460」
82	長崎歴博 (県)	テ14 194	「縁結内様につき始末書」 (午3月)	材木町の常吉が旅人の身分であるにも拘らず、数年来、知吉の者に対し隠れて隠結を行っていたところ、八百屋町頭取の正助に見咎められ、旅人御改方役場に連行された。本史料はこれに関連して、今後常吉が隠れて隠結様業を行わない旨を誓約した書状である。常吉はそれ以前にも縁結様業を隠れて行っていたことが発覚して、隠書を受けた前歴の在住が認められていない状況にあったことが述べられている。なお、当該案件の処理については長崎学研究研究所収集分の関連史料 (収蔵番号：市学25-1) において、旅人御改方の加役の一環として本山家当主が対応にあたっており、本石灰町乙名本山家に関連する史料と判断した。	午	年	3 月 一 日	材木町 常吉 (印)	旅人御改方 御役場	状	28.8 × 120.0	「長崎県立長崎図書館購入印1468」
83	長崎歴博 (県)	テ14 196	為替金銀一札之事 (弘化3年12月)	朱座の糸屋九郎右衛門から本山重之丞宛に久保山注本という人物への金1朱及び銀306匁の手形渡しを依頼した書状	弘化3	年	12 月 一 日	朱座 糸屋九 郎右衛門 (印)	本山重之丞殿	状	31.9 × 32.4	「長崎県立長崎図書館購入印1470」

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
84	長崎歴博 (県)	テ14 210	口上書 (辰7月)	京都日野屋もよらと住吉屋宇右衛門、龍田屋茂三次との間で相論となっていた相合滞銀の件に関して、内滞の場で提示された銀支払いの割合で日野屋側としては承知した旨を報告した書状。初先は石本幸四郎ほか2人となっていたが、関連史料 (収蔵番号：市字35) において、当該案件を本山家当主が処理にあたったことから、本石灰町に関連する史料と判断した	辰	年	7 月 一 日	京都日野屋もよ代太助 (印)、木兵衛 (印)、木兵衛 (印)	“石本幸四郎殿、田口惣兵衛殿、小嶋和四郎殿”	状	27.1 × 27.6	「長崎県立長崎図書館購入印1485」
85	長崎歴博 (県)	テ14 211	口上之覚 (丑8月、家屋敷売買之事)	本石灰町町人の荒木藩十郎後家が所持する家屋敷を、同町の万屋十五郎後家に銀2貫100目で売渡すことについて、本石灰町内の町人一同が異議のない旨を本山藩之丞及び本石灰町組頭宛に届出したもの	丑	年	8 月 一 日	竹谷勘右衛門 (印) ほか25人	本山藩之丞殿、組頭衆中	状	27.5 × 82.6	「長崎県立長崎図書館購入印1486」
86	長崎歴博 (県)	テ14 212	口上之覚 (寅8月)	本石灰町町人の平田雪市孫が所持する家屋敷を、同町の太吉に銀820目で売渡すことについて、本石灰町内の町人一同が異議のない旨を本山藩之丞及び本石灰町組頭宛に届出したもの	寅	年	8 月 一 日	嶋谷作嘉右衛門 (印) ほか26人	本山藩之丞殿、組頭衆中	状	27.6 × 79.0	「長崎県立長崎図書館購入印1487」
87	長崎歴博 (県)	テ14 213	口上之覚 (寅10月)	本石灰町町人の豊屋忠七娘が所持する家屋敷を、同町の宗右衛門に銀1貫目で売渡すことについて、本石灰町内の町人一同が異議のない旨を本山藩之丞及び本石灰町組頭宛に届出したもの	寅	年	10 月 一 日	嶋谷作嘉右衛門 (印) ほか26人	本山藩之丞殿、組頭衆中	状	27.6 × 80.4	「長崎県立長崎図書館購入印1488」
88	長崎歴博 (県)	テ14 222	差出申一札之事 (文化6年巳2月)	本石灰町町人の末五郎が所持する建屋を、東築町の中尾辰之進に売渡すことについて、中尾辰之進が地子銀の支払を遅滞なく行うことなどを誓約した書状	文化6	年	2 月 一 日	東築町 中尾辰之進 (印)	—	状	28.4 × 29.6	「長崎県立長崎図書館購入印1505」
89	長崎歴博 (県)	テ14 245	〔人別送手形〕 (文化3年寅8月)	讃岐国三野郡大見村の安藤才助の住民異動 (引越) に際して、同町庄屋の大井弥源太 (印) から本石灰町役人宛に発給された人別送り手形	文化13	年	9 月 一 日	同村庄屋大井弥源太 (印)	長崎本石灰町御役人衆中	状	33.3 × 37.1	「長崎県立長崎図書館購入印1529」
90	長崎歴博 (県)	テ14 258	乍憚口上書 (寅4月、建家縁い渡し願)	本石灰町町人の末五郎が所持する建屋を、東築町の惣助に売渡すことについて、末五郎が持主の名義変更を本石灰町の町役人に届け出た書状	文化3	年	4 月 一 日	末五郎 (印)	御町御役人御衆中	状	26.6 × 27.0	「長崎県立長崎図書館購入印1542」
91	長崎歴博 (県)	テ14 259	乍憚口上書 (寅4月、建家譲請願)	本石灰町町人の末五郎が所持する建屋を、東築町の惣助に売渡すことについて、宗助が持主の名義変更を本石灰町の町役人に届け出た書状	寅	年	4 月 一 日	東築町宗助 (印)	本石灰町御役人御衆中	状	27.0 × 25.5	「長崎県立長崎図書館購入印1543」
92	長崎歴博 (県)	テ14 260	乍憚口上之覚 (丑5月、家屋売買二付名前替)	本石灰町町人の綿屋茂吉が所持する建屋上段分を、本古川町の海老屋善助に売渡すことについて、善助と請入である上野吉之助が持主の名義変更を本石灰町の町役人に届け出た書状	丑	年	5 月 一 日	本古川町 買主 海老屋吉助 (印)、請入 上野吉之助 (印)	本石灰町御役人御衆中	状	26.9 × 28.1	「長崎県立長崎図書館購入印1544」
93	長崎歴博 (県)	テ14 261	乍憚口上之覚 (丑5月、家屋売買二付名前替)	本石灰町町人の綿屋もよが所持する建屋上段分を、本古川町の海老屋善助に売渡すことについて、善助と請入である上野吉之助が持主の名義変更を本石灰町の町役人に届け出た書状	丑	年	5 月 一 日	本古川町 買主 海老屋吉助 (印)、請入 上野吉之助 (印)	本石灰町御役人御衆中	状	27.5 × 26.8	「長崎県立長崎図書館購入印1545」
94	長崎歴博 (県)	テ14 262	乍憚口上之覚 (寅8月、家屋売買二付名前替)	本石灰町町人の豊屋忠七娘よりしが所持する家屋敷及び空地を、同町の公田屋宗右衛門に売渡すことについて、宗右衛門と請入である梅屋政平が持主の名義変更を本石灰町の町役人に届け出た書状	寅	年	8 月 一 日	買主 公田屋宗右衛門 (印)、請入 梅屋政平 (印)	御町御役人御衆中	状	26.4 × 30.9	「長崎県立長崎図書館購入印1546」
95	長崎歴博 (県)	テ14 263	乍憚口上之覚 (寅8月、家屋売買二付名前替)	本石灰町町人の豊屋忠七娘よりしが所持する家屋敷及び空地を、同町の公田屋宗右衛門に売渡すことについて、よしと請入の伏見屋半次郎が持主の名義変更を本石灰町の町役人に届け出た書状	寅	年	8 月 一 日	売り主 豊屋よしと (印)、請入 伏見屋半次郎 (印)	御町御役人御衆中	状	26.4 × 29.8	「長崎県立長崎図書館購入印1547」

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
96	長崎歴博 (県)	テ14 264	乍權口上之覚 (丑5月、家屋売買二付 名前書)	本石灰町町人の綿屋もよが所持する建屋上段分を、本古川町の海老屋善助に売渡すことについて、綿屋もよが請人である啓次郎が持主の名義変更を本石灰町の町役人に届け出た書状	丑	年	5 月 一 日	売主 綿屋そと (印)、請人 啓次郎 (印)	御役人御衆中	状	15.8 × 33.9	「長崎県立長崎図書館購入印1548」
97	長崎歴博 (県)	テ14 265	乍權口上之覚 (丑5月、家屋売買二付 名前書)	本石灰町町人の綿屋茂吉が所持する建屋上段分を、本古川町の海老屋善助に売渡すことについて、綿屋茂吉と請人である忠右衛門が持主の名義変更を本石灰町の町役人に届け出た書状	丑	年	5 月 一 日	売主 綿屋茂吉 (印)、請人 忠右衛門 (印)	御役人御衆中	状	15.7 × 34.0	「長崎県立長崎図書館購入印1549」
98	長崎歴博 (県)	テ14 266	乍權口上之覚 (子5月、源三郎家売買 之事)	真築町町人の源三郎が所持する建屋を、本石灰町町人の末五郎が買い請けることを、末五郎と請負人である忠七が本山嶽之丞に届け出た書状	子	年	5 月 一 日	本人 末五郎 (印)、請負人 忠七 (印)	本山嶽之丞殿	状	27.8 × 18.1	「長崎県立長崎図書館購入印1550」
99	長崎歴博 (県)	テ14 267	乍權口上之覚 (丑8月)	本石灰町町人の荒木藤十郎後家が所持する家屋敷を売渡すことについて、荒木藤十郎後家と請人である三輪与一郎が持主の名義変更を本石灰町の町役人に届け出た書状	寅	年	8 月 一 日	売主 荒木藤十郎後家 (印)、請人 三輪与一郎 (印)	御町御役人衆中	状	16.7 × 30.6	「長崎県立長崎図書館購入印1551」
100	長崎歴博 (県)	テ14 268	乍權口上之覚 (丑8月)	本石灰町町人の荒木藤十郎後家が所持する家屋敷を売渡すことについて、紺屋本吉と請人である梅屋政平が持主の名義変更を本石灰町の町役人に届け出た書状	寅	年	8 月 一 日	買主 紺屋大吉 (印)、請人 梅屋政平 (印)	御町御役人御衆中	状	27.0 × 28.5	「長崎県立長崎図書館購入印1552」
101	長崎歴博 (県)	テ14 269	乍權奉願口上書 (子9月、家屋譲渡)	本石灰町町人の綿屋忠右衛門が所持する家屋敷を売渡すことについて、親類及び外方から今後一切の異議を申し立てない旨の誓約と持主の名義変更を本石灰町の町役人に届け出た書状	子	年	9 月 一 日	綿屋忠右衛門 (印)、啓次郎 (印)、綿屋そよ (印)	御町御役人御衆中	状	27.0 × 37.5	「長崎県立長崎図書館購入印1553」
102	長崎歴博 (県)	テ14 270	引越手形之事 (文化3年庚戌月)	片山村のすめの住民異動 (引越) に際して、同村庄屋の中村徳兵衛から本石灰町役人宛に発給された人別送り手形	文化3	年	9 月 一 日	片山村庄屋 中村徳兵衛 (印)	長崎本石灰町御役人衆中	状	27.6 × 32.1	「長崎県立長崎図書館購入印1554」
103	長崎歴博 (県)	テ14 271	「帆船運上之事」 (辰2月)	本石灰町町人のきちが1枚帆船あたり銀155分の帆船運上を上納する旨を、本山重野右衛門が奥書とともに、高木清左衛門と後藤五郎左衛門宛に提出した書状の下書	辰	年	2 月 一 日	乙名 本山重野右衛門	高木清左衛門殿、後藤五郎左衛門殿	状	28.8 × 42.3	「長崎県立長崎図書館購入印1555」
104	長崎歴博 (県)	テ17 21	月々町遣方勘定帳 (自申正月至同12月)	本石灰町で支出した経費について、筆墨紙代、輦働代、旅代等を月毎に書き付た簿冊。史料表紙には正月から12月までと記されているが、本文中に記載されているのは正月から6月までの期間である。月毎の報告者として乙名本山重野右衛門、組頭平田新兵衛、同松本貞助の名が挙げられている。	自申 至申	年	1 月 二 日	本石灰町	—	竖帳	23.7 × 17.1	「長崎県立長崎図書館購入印1688」
105	長崎歴博 (県)	テ17 52	本石灰町船株帳 (宝暦4戊辰改)	本石灰町の町人が保有している船株の売買や名義変更などの諸手続の同書を留めた史料。それぞれ「有船」と「株船」の二種に区別して管理されている。	自宝暦4	年	10 月 一 日	乙名 本山重兵衛	—	竖帳	28.0 × 20.0	「長崎県立長崎図書館購入印1720」
106	長崎歴博 (市)	市字25-1	乍恐以書附奉願上候	諏方町在住の常吉は出島出入の髪結を営んでいたが、阿蘭陀人が出島不在時には「井当使」という、本来認められていない副業を行い、髪結での稼働を差留められていた常吉は「今一度様方御免」を願う書付を旅人御改方に提出し、これが認められている	天保13	年	9 月 一 日	諏方町 常吉 (印)	旅人御改方	状	30.9 × 68.9	端書「(朱書) 天保十三寅年九月八日 諏方町髪結 常吉敬願書 差出候二付差免」
107	長崎歴博 (市)	市字25-2	「阿蘭陀屋敷等見物につき書簡」	本山重兵衛が虎吉の紹介した人物を阿蘭陀屋敷等に見物のため、案内したことに対する礼状及びその際に発生した「御運し銭」の費用并償に関する連絡状。前欠のため案内した人物については不明である	—	年	4 月 14 日	築地屋内 虎吉	本山重兵衛株	状	15.8 × 64.0	前欠

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年 月 日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
108	長崎歴博 (市)	市学26-0	遊郭二間スル書類 合町丸山町	市学26-1～市学26-6までの状を一括包紙自体は明治40年以降に作成されたもので、包紙内側は帝国在郷軍人会の委員嘱託状の様式が記載されている。	— 年 — 月 — 日	—	—	包紙	25.0 × 17.5	
109	長崎歴博 (市)	市学26-1	乍恐奉願口上書	小島郷在住の太十は子供を多く抱え、養育が行き届かないことから、姉である寄合町在住のそのに対し、娘のいさを「一生之間呉切度」として養育を依頼したいとはそのによる指導のもと、芒子授業を身につけ、小とみと名を改め、前年の11月から稼業を営んでいたが、7月29日、突如として父親の太十のもとに姿電した。太十は息子の卯十、娘のますと結託して、小とみの身柄引渡しに応じないことから、そのが彼女の身柄引渡しを盗賊方に願い出たもの	申 年 8 月 3 日	寄合町 その (印)	盗賊方御役場	状	31.6 × 87.9	
110	長崎歴博 (市)	市学26-2	乍恐以書附奉敷願候口上書	引田屋茂左衛門抱えの遊女5人が、頭遊女である九重との間で諍いを起こし、本石灰町の墓吉という人物への身柄引請を申し立てて、遊女屋から家出した一件に関する茂左衛門から盗賊方に宛てた願書家出から戻った後も、遊女5人は再び九重と口論を起こし、墓吉だけでなく五人の遊女の親が身柄引請を申し出る、椿島町の卯之助他4人の手引きのもと、遊女5人が丸山遊郭から逃走するなど、事態が複雑化したため、茂左衛門が盗賊方に敵意な吟味を行うよう願い出ている	子 年 8 月 3 日	引田屋茂左衛 門 (印)	盗賊御吟味方 御役場	状	26.5 × 169.8	
111	長崎歴博 (市)	市学26-3	乍恐奉願候口上之覚	稲佐の露西亜人休息所で認められた遊女屋商売について、これまで丸山町と寄合町の遊女屋稼代から、異国人ととの交渉のため、丸山町から松嶋重左衛門、寄合町から西田与八郎の両人がそれぞれ稲佐に自動しているが、惣次侯の時、稲佐への渡航がかなわないことから、その場合は稲佐郷の百姓甚八他2人を遊女屋商売に従事させたい旨を、丸山町及び寄合町の遊女屋が盗賊方に願い出した書状としながら、百姓3人が心得違いを起こし、勝手に遊女屋商売を始めることがないよう、彼らを丸山町及び寄合町の遊女屋の「差配人」とするようにも、あわせて願い出ている	申 年 8 月 1 日	丸山町遊女屋 大坂屋孫八 (印)、油屋と み (印)、肥前 屋しま (印)、 吉田屋ます (印)、奥屋 みつ (印)、津 国屋清蔵 (印)、我屋 喜藏次 (印)、 寄合町遊女屋 筑後屋あや、 筑後屋さく (印)、大黒 屋藤太郎 (印)、引田 屋かつ (印)、 門屋清右衛門 (印)、門屋 英太郎 (印)、 門屋富三郎 (印)、筑後 屋すか (印)、 筑後屋安三郎 (印)、千歳屋 みね (印)、大 黒屋亀之助 (印)、筑後 屋利喜太郎 (印)、肥前 屋勝蔵 (印)、 松村屋ゆき (印)	盗賊方御役場	状	27.2 × 187.2	本文21行目利 離付箋「 万—三人」

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
112	長崎歴博 (市)	市学26-4	乍恐以書付奉願候	寄合町の筑後屋すかの抱遊女である花山は、病氣養生のため親元の馬場郷在住の太蔵のもとにいた折しも唐人が花山の唐人屋敷への呼入をすかに要請したことから、すか太蔵と花山に対し、遊女屋に居るよう求めた。しかしながら訴え出る結果となつた	申	年	11月14日	寄合町 筑後屋すか (印)	盗賊方御役場	状	26.5 × 54.7	
113	長崎歴博 (市)	市学26-5	乍懼口上書	寄合町の引田屋かうの抱遊女である花千代が、4月15日に唐人屋敷から出館して以降、遊女屋に居ることなく親元の高野平郷在住の利吉のもとに帰ってしまった一件に関する願書 利吉も花千代の身柄引渡しに応じる気配を見せず、一方で唐人屋敷から花千代に対する呼入が相次いでいることから、かうは乙名の声刈善太夫経由で、町方での調停を願い出したもの	子	年	4月19日	寄合町 引田屋かう (印)	声刈善太夫殿	状	27.3 × 78.9	
114	長崎歴博 (市)	市学26-6	乍恐奉願口上書	寄合町の筑後屋朔郎が、父親の蔵太郎が26年前に廃業した遊女屋商売の再興を願い出した書状	酉	年	12月一日	寄合町 筑後屋朔郎 (印)、月番 津国屋 之進 (印)、門屋富三郎 (印)	盗賊御吟味方御役場	状	30.6 × 63.5	端書書「酉十二月十日開済申渡」
115	長崎歴博 (市)	市学27-1	乍恐口上書	本山重之進から長崎奉行所に対し、伝習所生の中嶋半蔵、飯田啓之助、長崎会所請私役の田中弥六郎が、本石灰町の通りで同町の友次と口論の末、友次ほか3人(庄助、儀助、ふみ)を打倒した一件に関する被害者の容跡書を届出した書付	午	年	5月14日	乙名 本山重之進 (印)	御奉行所	状	16.2 × 33.5	端書書「早稲灰町」
116	長崎歴博 (市)	市学27-2	容跡書	医師からの容跡書。友次の病所は快方に向かっている旨を記す	午	年	5月13日	吉岡正人 (印)	—	状	26.3 × 37.5	
117	長崎歴博 (市)	市学27-3	容跡書	医師からの容跡書。友次の胸痛は少々快方に向かっている旨を記す	—	年	5月13日	松村道啓代 遠藤逸意 (印)	—	状	26.5 × 28.9	
118	長崎歴博 (市)	市学27-4	容跡書	医師からの容跡書。友次の胸痛がおさまった旨を記す	午	年	5月14日	吉岡正人 (印)	—	状	26.2 × 37.2	
119	長崎歴博 (市)	市学27-5	容跡書	医師からの容跡書。友次の病所は快方に向かっている旨を記す	—	年	5月14日	松村道啓代 遠藤逸意 (印)	—	状	26.5 × 27.9	
120	長崎歴博 (市)	市学27-6	容跡書	医師からの容跡書。庄助の面部の腫れや痛みは少々快方に向かっている旨を記す	—	年	5月13日	松村道啓代 遠藤逸意 (印)	—	状	27.7 × 27.6	
121	長崎歴博 (市)	市学27-7	容跡書	医師からの容跡書。庄助の病所は快方に向かっている旨を記す	午	年	5月14日	吉岡正人 (印)	—	状	26.3 × 37.6	
122	長崎歴博 (市)	市学27-8	容跡書	医師からの容跡書。庄助の病所は快方に向かっている旨を記す	—	年	5月14日	松村道啓代 遠藤逸意 (印)	—	状	27.8 × 28.5	
123	長崎歴博 (市)	市学27-9	容跡書	医師からの容跡書。儀助の病所は快方に向かっている旨を記す	—	年	5月13日	松村道啓代 遠藤逸意 (印)	—	状	26.7 × 29.8	
124	長崎歴博 (市)	市学27-10	容跡書	医師からの容跡書。儀助は次第に快気になっている旨を記す	—	年	5月14日	松村道啓代 遠藤逸意 (印)	—	状	26.6 × 27.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
125	長崎歴博 (市)	市学27-11	容赫書	医師からの容赫書。ふみの様子に変化はない旨を記す	午	年	5 月 14 日	森山掃部 (印)	—	状	27.7 × 19.9	
126	長崎歴博 (市)	市学28	〔受用銀に関する覚書〕	寛政13年から文化5年までの地役人の受用銀備蓄に関する積金の割合の変遷を記した書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	17.1 × 12.8	
127	長崎歴博 (市)	市学29	家屋敷借証文之事	文化8年に本石灰町在住の竹谷勘兵衛が所持していた土地のうち、半面所分の土地を吉田政右衛門が買上げたが、建屋面積が半箇所分の土地を超過していたことから、竹谷と吉田による協議のうえ、竹谷から吉田に対する超過分の建屋面積の永代買渡しを取決めた証文	天保7	年	12 月 — 日	借主主 吉田政右衛門 (印)、同弟 半七 (印)、請負人 竹谷勘兵衛 (印)	本山重之丞殿	包紙 状	39.0 × 26.8 30.8 × 96.5	
128	長崎歴博 (市)	市学30	乍恐奉教願候口上書	本石灰町在住のえひの甥である主膳という人物は、医業を営んでおり、深堀廻船津村の間屋、薩摩屋に出入りしていたが、薩摩屋が紛失した300両の金子を盗んだ嫌疑をかけられ、入牢させられたことから、叔母のえひが盗賊方に対し、主膳の無実を訴えるとともに、関係者への聴取を願いつた書付	万延元	年	10 月 — 日	本石灰町 えひ (印)	盗賊方御役場	状	31.6 × 170.0	
129	長崎歴博 (市)	市学31-0	〔賞銀等出入一件書留〕	賞銀等の返済滞りに関する訴訟4件について記した、市学31-1～市学31-4までの整帳を一括	—	年	— 月 — 日	—	—	包紙	35.5 × 30.0	
130	長崎歴博 (市)	市学31-1	〔出来銀治屋町立石九兵衛方本石灰町松本茂三次方三人江相懸候賞銀滞出入一件〕	出来銀治屋町在住の立石九兵衛が、本石灰町の松本茂三次ほか3人を相手に、滞っていた賞銀16貫500目の返済を求めて起こした訴訟に関する記録	自嘉永3 至嘉永4	年	12 月 9 日	—	—	整帳	27.5 × 19.8	
131	長崎歴博 (市)	市学31-2	〔長崎村貞之助方本石灰町熊吉郎外三人江相懸候さち不差民候出入一件〕	長崎村在住の貞之助が、本石灰町の熊吉郎ほか3人を相手に、貞之助の姉もしくは妹で、かつ熊吉郎の女房であるさちの差戻しを求めて起こした訴訟に関する記録 さらには熊吉郎によって平戸藩の田助浦に奉公に出されておひり、さちの母親であるむめと兄弟にあたる貞之助が田助浦からさちの身柄を連れ戻すよう求め、熊吉郎を訴えた	自嘉永3 至嘉永3	年	3 月 29 日	—	—	整帳	27.3 × 19.7	
132	長崎歴博 (市)	市学31-3	五嶋大濱村馬次郎方藤方町治兵衛本石灰町藤助江相懸候椎茸代銀滞出入一件	五嶋大濱村在住の馬次郎が、諏訪町の治兵衛及び本石灰町の藤助を相手に、滞っていた椎茸代銀18両あまりの返済を求めて起こした訴訟に関する記録	自嘉永3 至嘉永4	年	10 月 4 日	—	—	整帳	24.3 × 16.7	
133	長崎歴博 (市)	市学31-4	引地町塩塚とみ方寄合町筑後屋とら并本石灰町相頭矢賀部太兵衛江相懸候賞銀滞出入一件	引地町在住の塩塚とみが、寄合町の筑後屋とら及び本石灰町相頭の矢賀部太兵衛を相手に、滞っていた賞銀3貫目の返済を求めて起こした訴訟に関する記録	自嘉永4 至嘉永4	年	7 月 17 日	—	—	整帳	24.5 × 16.7	
134	長崎歴博 (市)	市学32	文化7年午五月十五日之夜町内於庄助宅八百屋町和吉与申者口論之上庄助方和吉江手疵為負候一件書留	八百屋町在住の和吉と本石灰町の庄助が口論の末、庄助が和吉を打撃した一件に関する記録	自文化7 至文化7	年	5 月 16 日	乙名 本山勝之丞、相頭 佐藤甚兵衛、同 立田新兵衛、日行使 八石衛門、同 奥平 得五郎	—	袋 整帳	34.6 × 24.6 25.4 × 17.2	
135	長崎歴博 (市)	市学33-0	中嶋半蔵、飯田啓之助、田中弥六郎同通本石灰町通行之節同町友次出会之上口論および友次外三人逐打擲候一件	市学33-1～市学33-8までを一括 安政5年5月7日に伝習所生の中嶋半蔵、飯田啓之助、長崎会所講私役の田中弥六郎が、本石灰町の通りで同町の友次と口論の末、友次ほか3人 (庄助、儀助、ふみ) を打撃した一件に関する書類加害者のうち、友次ほか3人を打撃したのは中嶋と飯田の2人で、田中は暴行に加わっていない。被害者のうち、友次以外の3人は仲裁に入り、中嶋と飯田から打撃された	午	年	5 月 9 日	検使掛 塚原範三、御月番 山口雄蔵、池嶋豊次	—	袋	36.3 × 26.2	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年 月 日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
136	長崎歴博 (市)	市学33-1	証拠	騒動発生後の盗賊方による、対応の顛末を記した書状。盗賊方は佐世保市生の身柄引渡しや、長崎市中の町人宅で保管されていた飯田啓之助の大小を飯田に返還するなどしている	戊 年 9 月 17 日	一	一	包紙 状	16.7 × 4.8 23.9 × 114.5	
137	長崎歴博 (市)	市学33-2	乍憚奉願口上書	打柳を受けた友次ほか3人とその親族が、手紙が快方に向かっていることなどを理由として、当該の一件に関する「御吟味御免」を本石炭町御役所に願い出した書状	午 年 5 月 一 日	友次 (印)、同人兄、友七 (印)、同人弟、熊吉 (印)、庄助 (印)、同人女房、とめ、同人女房、寛吉 (印)、書木屋權助 (印)、同人女房、まさき、ふみ、同人父、利九右衛門 (印)、同人夫、寛吉 (印)	御町御役場	状	26.9 × 111.0	
138	長崎歴博 (市)	市学33-3	乍恐以書付奉願候	市学33-2と記載内容は類似しているが、このほかに友次と中嶋半蔵たちは知人であったこと、友次が「蘭語」で話したことがきっかけとなって争いことに発展したこと、友次と中嶋半蔵たちはいずれも泥酔していたことが記されている	午 年 5 月 15 日	友次、同人兄、友七、同人弟、熊吉、庄助、同人女房、とめ、同人女房、寛吉、權助、まさき、ふみ、同人父、利九右衛門、同人夫、寛吉	御奉行所様	罫帳	24.8 × 16.7	表紙右上端「不要二成」
139	長崎歴博 (市)	市学33-4	御見分書之事	打柳を受けた友次ほか3人の手紙の状態について記したもの	午 年 5 月 10 日	庄助女房、とめ、同人女房、寛吉、友次兄、友七、同人弟、熊吉、權助女房、まさき、同人父、利九右衛門、ふみ夫、寛吉	塚原範三殿、山口雄蔵殿、池嶋豊次殿	綴	24.9 × 16.8	
140	長崎歴博 (市)	市学33-5	〔聞取書〕	打柳を受けた友次ほか3人の親族に対し、各人の生業や年齢、打柳を受けるに至るまでの経緯を聞取りしたもの	午 年 5 月 9 日	とめ、寛吉、友七、熊吉、まさき、利九右衛門、ふみ、寛吉	塚原範三殿、山口雄蔵殿、池嶋豊次殿	綴	25.0 × 16.8	
141	長崎歴博 (市)	市学33-6	〔聞取書〕	飯田啓之助の大小の預りに関与していた寛吉と、自宅前が騒動の現場となった政右衛門に対し、各人の生業や年齢、騒動発生時の様子を聞取りしたもの	午 年 5 月 9 日	寛吉、政右衛門	塚原範三殿、山口雄蔵殿、池嶋豊次殿	綴	24.6 × 16.7	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年 月 日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
142	長崎歴博 (市)	市学33-7	乍恐以書付奉願候	被害者である友次ほか3人と、加害者である田中弥六郎の連名で、騒動の顛末を記したものの友次が「蘭語」で悪口を述べたことから、騒動に発展し、仲裁の3人も被害を受けたこと、被害者のうち庄助は面部から出血し、一時気絶したことなどが記されている	安政5 年 5 月 1 日	本石灰町 友次、庄助、權助、甚吉女房 ふみ、長崎会所請込役 田中弥六郎	御奉行所様	綴	24.8 × 16.8	表紙右上端「御方控」
143	長崎歴博 (市)	市学33-8	尾本久作殿内中嶋半蔵、吉見健之丞殿内飯田啓之助、田中弥六郎与町内友次紙付 取立人庄助、權助紙付禮確一件	被害者である友次ほか3人の容体について記す 前半部に市学27の容解書の写が含まれている	自安政5 年 5 月 7 日 至安政5	—	御奉行所	竖帳	26.5 × 18.5	
144	長崎歴博 (市)	市学34	乍恐口上之覚	阿蘭陀通詞である小川徳右衛門家の養子相続に関する書付徳右衛門の嫡養子にあたる啓助が養子として迎えた、伊藤又助の息子円四郎の養子不縁に関する事項が記されている	丑 年 8 月 1 日	小川徳右衛門 (印)	—	状	19.5 × 200.9	
145	長崎歴博 (市)	市学35	乍懼口上書	京都東入町在住の日野屋七兵衛後家のもよが、本石灰町の住古屋宇右衛門及び龍田屋茂三次を相手に、滞っていた呉服物代銀388貫目あまりの返済に関する調停を求めた書付 もよはあわせて長崎奉行所に対し、当該の案件に関して京都奉行所へ届出を行う際に使用する「御添翰」の発行も依頼している	文化4 年 12 月 1 日	京御地通柳馬場東入町 日野屋七兵衛後家 もよ、代多助 (印)、付添人 太兵衛 (印)	中尾猪之助殿	状	31.6 × 69.5	
146	長崎歴博 (市)	市学36	乍恐奉願口上書	古道具商38人からの上納金の願書開港以来、古道具商売が繁盛していることから、以後1人あたり年に80両ずつを御上に上納する旨を記す	慶応2 年 11 月 1 日	古道具屋惣代 郷方町 永田屋作十 (印)、同 中紺屋町 小嶋屋清兵衛 (印)、同村屋 帆重 (印)、同本石灰町 池田屋慶助 (印)	盗賊改方御役場	状	32.4 × 87.4	
147	長崎歴博 (市)	市学37	本石灰町伊助關所被仰付候一件	本石灰町在住の伊助の關所処分にとまなう、家財道具一式の書付	天保8 年 9 月 6 日	検使掛り 牧宗四郎、同津田洋作、御月番 伴大一郎	—	袋 竖帳	31.8 × 11.0 24.8 × 17.3	
148	長崎歴博 (市)	市学38	乍懼奉願口上書	銅座跡にて綿打弦商売を家業とする八尾栄左衛門持らの土地に所在する蘆芥捨場について、栄左衛門が銅座跡の地役人に対し、蘆芥捨場の場所替えもしくは弁償のための拝借願を願い出した書付	文化4 年 12 月 1 日	八尾栄左衛門 (印)	銅座跡御掛り御役人御衆中	状 絵図	31.6 × 75.5 25.1 × 25.5	絵図1点あり
149	長崎歴博 (市)	市学39	乍恐以書付奉願上候	長崎市中に入入りする香具師渡世の者たちの滞在届出に関する取決事項を報告するとともに、香具師渡世の者のうち「香具本業二而夜商仕候者」の鑑札を香具師世話方に下げ渡すよう願い出した書付	辰 年 5 月 1 日	香具師世話方 次助、大助、八百蔵	御役場	包紙 状	36.7 × 26.5 32.8 × 150.6	
150	長崎歴博 (市)	市学40	隅州漂流唐船掛り諸書留	袋のみ	享和3 年 閏正 月 1 日	本山勝之丞	—	袋	23.5 × 17.6	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
151	長崎歴博 (市)	市学41	〔受用銅明細書〕	長崎会所から本石坂町乙名を務めた本山家当主宛に支給された受用銀の明細書。少なくとも数十年単位での蓄積がなされており、本山家当主の名前や受用銀支給額の変遷を知るうえで好例である大部分の明細書が糊付けされて一連となっているが、一部糊付けの剥離も存在している	—	年	— 月 — 日	長崎会所	—	状	— × —	
152	長崎歴博 (市)	市学224	乍恐奉願口上書 (奉天代銀)	竹谷仁右衛門と今石坂町の諸色屋正兵衛との銀出入に關する竹谷側からの訴状。諸色屋は竹谷を介して大坂の毛馬屋孫兵衛との間で取り交わした奉天取引にともなう代銀を支払う約定であったが、竹谷が奉天製造元に先払いした為替相当額の支払いを諸色屋が拒んだため両者間で相論となったもの	文化10	年	9 月 — 日	竹谷仁右衛門 (印)	—	状	31.7 × 90.8	
153	長崎歴博 (市)	市学225	差出申一札之事 (日雇頭交代願)	日雇頭の金三郎が自宅で人寄せなどを行うという「身持不宣」行為をしていた責任を負う形で、自ら日雇頭の役職を辞職し、息子の亀蔵に交代させられないか町内世話人宛に願い出した書付	文政8	年	8 月 — 日	金三郎 (印)、 同人姉らう (印)	町内世話人御 衆中	状	27.0 × 75.5	
154	長崎歴博 (市)	市学226	乍恐奉願口上書 (清蔵娘せい蔵州江芸 妓為稼代金)	本石坂町住人の治兵衛が同町住人の清蔵とその娘で薩摩に芸妓稼業にでていたせいに対して借銀の返済を求めて御町御役場へ訴え出した書付。治兵衛は清蔵がせいから金15両を受け取るにあたって路銀代として合計33貫目の手形を貸し、清蔵に同行したところ、清蔵親子が現地で逃亡し貸手形の代銀を踏み倒されたと述べる	文政10	年	6 月 — 日	本石坂町 治 兵衛 (印)	御町御役場	状	31.6 × 103.0	
155	長崎歴博 (市)	市学227	奉願口上書 (座敷芸人長崎常留願)	丸山町の益太郎が座敷芸人として長崎に滞在していた豊後国日田郡兵衛村の此八について身許引受を願い出した書付	文政13	年	3 月 — 日	丸山町 益太 郎 (印)	旅人御改方	状	27.2 × 40.3	
156	長崎歴博 (市)	市学228	一札之事 (奉公役人身許引請願)	梅國の片山善五郎が奉公人として長崎に滞在していた豊後国日田郡豆田村の才吉について身許引受を願い出した書付	文政13	年	8 月 22 日	梅國口 片山 善五郎 (印)	西川友藏殿	状	27.3 × 35.5	端裏書「文政13年庚8月22日、請人梅國片山善五郎」
157	長崎歴博 (市)	市学229	銀子借用証文之事	本石坂町住人の安村丈八が出来鍛冶屋町に所有する家屋敷を抵当にして金22両を安川吉左衛門から借用したことに關する書状の下書	天保11	年	5 月 — 日	借用主 安村 丈八 (印)、請 人 江川屋 弥兵衛 (印)	安川吉左衛門 殿	状	27.0 × 71.4	端裏書「証札之写」
158	長崎歴博 (市)	市学230	一札之事 (奉公役人身許引請願)	酒屋町の伊兵衛が奉公人として長崎に滞在していた豊後国日田郡湯山村の治兵衛について身許引受を願い出した書付。稼旅人請人である免養常水が奥書した上で旅人御改方に提出されている	天保13	年	9 月 — 日	酒屋町 伊兵 衛 (印)	旅人御改方	状	27.2 × 40.8	
159	長崎歴博 (市)	市学231	算 (長崎御役人衆中宛雜 回手形)	摂津国住人の清次から長崎への住民異動願が提出されたことを受けて、摂州御代官添田市長治の手代鈴木弥三次から、長崎御役人衆中宛に発給された人別送り手形	嘉永4	年	10 月 — 日	摂州御代官添 田市長治手代 鈴木弥三次 (印)	長崎御役人衆 中	状	32.0 × 43.2	
160	長崎歴博 (市)	市学232	〔長崎奉行宛長崎会所 小使重三郎家御鑑察 願〕	御勝手小頭を務めていた嘉十郎の死後、跡を継いだ重三郎の縁戚である次兵衛、ちよ夫婦が重三郎の役職を長崎会所小使に變更し受用銀150目を引受けけるなどの差動がみられることから、嘉十郎の弟の丈之助が長崎奉行所に対して、重三郎と次兵衛夫婦の觀察を願い出した書付	安政5	年	6 月 — 日	本石坂町 丈 之助 (印)	御奉行所様	状	32.0 × 272.2	
161	長崎歴博 (市)	市学233	当地米払底之訳委細書 付を以爲相知候様被仰 聞左二申上候	大石源右衛門による長崎市中の米流通状況に關する報告書。この年の米の作付が九州一円で流行した虫害の影響により不作であったことから、8月時点で長崎への廻米が困っておらず市中の米が払底している状況にある。9月以降は球磨米や豊後米の買付によりどうか減けそうな状況を見込んでいるが、長崎への廻米を確保するためにには引き続き米売値の維持が必要であり、そのことを願い出した書付	子	年	8 月 — 日	大石源右衛門 (米屋源右衛門)	—	状	15.3 × 107.5	端裏書「米屋源右衛門」

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
162	長崎歴博 (市)	市学234	〔市中榎 貧者への御救 米支給につき書付〕	乙名頭取と年番乙名が市中榎貧者への御救米支給のため 下附された銀8貫目の配当方法について、長崎奉行家老と の協議内容を記した書付。端裏書に「廻状帳へ留置可申 事」との記載があることから、各町の乙名間で回覧された ものであったと考えられる	卯	年	11 月 一 日	頭取・年番	—	状	16.8 × 93.5	端裏書「廻状 帳へ留置可申 事」
163	長崎歴博 (市)	市学235	寛 (本石灰町乙名宛人別 送り状)	さんという人物の住民異動に際して、正寛寺から本石灰町 乙名の藤田平三郎宛に発給された人別送り手形	卯	年	12 月 一 日	正寛寺 (印)	本石灰町乙名 藤田平三郎殿	状	27.7 × 24.4	
164	長崎歴博 (市)	市学236	御請証文之事 (唐船改請入用につき 書付)	唐船明船改の際の臨時入用銀として支給される銀155両99の 請取証書	辰	年	6 月 一 日	嘉蔵、勘五右 衛門	精荷役立合御 衆中、惣町乙 名御衆中、唐 船雜用取締掛 御衆中	状	25.0 × 34.3	
165	長崎歴博 (市)	市学237	〔盗賊方乙名手附日行 使名前書付〕	盗賊方乙名手附日行使である伊藤隆四郎ほか7人の地役人 に対し、和人参取締及び抜荷取締掛を命じた辞令	申	年	6 月 一 日	—	—	状	17.9 × 79.0	端裏書「嘉永 元申年六月 十三日、御掛 後藤市之丞 殿へ御渡」
166	長崎歴博 (市)	市学238	懐ケ條	父母親類縁者の言いつけを聞くこと、禮をつかないことな ど、5か条の遵守事項からなる書付。子息に対する倫理教育 の一環として作成されたものと考えられる。	亥	年	10 月 一 日	—	—	状	30.6 × 32.3	
167	長崎歴博 (市)	市学239	宗旨人別改帳 (断簡)	宗旨人別改帳の1丁分が剥離した断簡。さち (21歳) ほか10 人の名前を記す	—	年	一 月 一 日	—	—	状	30.7 × 44.8	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦	横	備考
1	東大史料（購）	1	一札之事 （重五郎転居届）	重五郎という人物が本石灰町の竹内善右衛門借家として転居する際に、借家で遊女などを止宿させる「呼屋様」のことは行わない旨誓約した書付	明和7	年	閏6月1日	竹内善右衛門 借屋重五郎 （印）・竹内 善右衛門（奥 印）	本山東左衛門 殿・組頭衆中	状	27.5 × 44.5		
2	東大史料（購）	2	口上書 （銅座跡地面貸渡願）	佐藤平八郎が銅座跡に所有する地所のうち、川端表口三間入二間半の箇所について、江上奥左衛門から借り受けを希望する申し出があったことから、これに対し貸し渡したい旨を願い出した書付	卯	年	12月1日	佐藤平八郎 （印）、 殿・藤田清九 郎殿	本山東之丞 殿・藤田清九 郎殿	状	27.5 × 20.1		
3	東大史料（購）	3	〔受領証〕	ひものや政右衛門から本山東に作成された受領証。受領した物品については前欠のため確認不能	子	年	7月15日	ひものや政右 衛門（印）	本山東	状	17.5 × 10.9	前欠	
4	東大史料（購）	4	長崎会所御出御席之上 俵物役所江御出御通順	外浦町から長崎会所を経由して立山役所に至り、東中町から外浦町に戻って俵物役所に到着するまでに通過する町名を道順として記した書付。端裏書には「西四月九日長崎会所、俵物役所御巡見御通判」とある	西	年	4月1日	—	—	状	15.6 × 66.0		
5	東大史料（購）	5	寛 （畳三枚の代金受領証）	畳屋忠右衛門から役場宛に作成された畳三枚の代金受領証	西	年	7月1日	畳屋忠右衛門	役場様	状	16.4 × 11.9		
6	東大史料（購）	6	寛 （積銀返納）	積銀のうち返納分に当たる870目を預かった旨通知した書状。預った銀については甚五右衛門方へ渡し、証札を返知させる予定	西	年	3月27日	定右衛門 （印）	嘉平太殿	状	16.3 × 26.5		
7	東大史料（購）	7	〔包紙〕	肥後八代本町の松浦四郎左衛門から本山東重兵衛宛の書状包紙。包紙裏面には8月21日付であるが10月9日に用いたと書き添えてある	—	年	8月21日	松浦四郎左衛 門拜	本山東重兵衛様	包紙	26.3 × 38.5		
8	東大史料（購）	8	乍澤口上之寛 （銀訴訟内済につき願 書御下げ願）	松本茂三次が竹谷宗造を相手取り起していた銀訴訟について、内済となったことから願書と差引書を取り下げる旨、本山東重兵衛に願い出した書付	—	年	1月1日	松本茂三次 （印）	本山東太夫殿	状	18.0 × 28.4		
9	東大史料（購）	9-1	大般若御祈禱支度	大般若御祈禱にともない必要な支度品（御神酒・御鏡餅等）の書付	—	年	1月1日	—	—	状	32.4 × 43.7		
10	東大史料（購）	9-2	〔薩摩国御館入につき 本山東之丞へ達〕	「享和二年戊戌六月廿八日、薩州御屋敷書院ニおゐて本山東之丞・中村三次平江同所御附人上野番兵衛殿對話有之、御同国御館入之儀ニ付被相達候手順 壹通 御家代殿部源左衛門侍席」と記された書付。付箋であったものか剥離したものと考えられる。	享和2	年	6月28日	—	—	状	16.0 × 5.0		
11	東大史料（購）	10-1	寛 （船大工町しけ引越につ つき身柄保蔵）	禅宗船大工町しけ（45歳）の転居につき	亥	年	3月1日	船大工町 （印）	本石灰町	状	16.6 × 23.7		
12	東大史料（購）	10-2	乍澤口上之寛 （船大工町しけ・亀吉 借屋へ引越）	船大工町しけが万屋亀吉の借屋へ転居した旨を通知した書状	亥	年	3月1日	万屋亀吉 （印）	—	状	18.3 × 23.5		
13	東大史料（購）	11	〔善平女房虚無寺へ願込〕	駒屋町与助借家において善平女房が虚無寺へ願込んだ旨を通知した書付	—	年	1月1日	—	—	状	15.5 × 51.5		
14	東大史料（購）	12	寛（芸者遊代請取）	芸妓湯代や座敷借上料金として金10両2分2朱の請求書	—	年	3月10日	善上屋（印）	上	状	16.2 × 56.4		
15	東大史料（購）	13	乍澤口上之寛 （盗難届）	「本締結茶浅黄立嶋男衾」など8品の紛失届。前夜に戸締りを行っていたにもかかわらず、戸が開けられ物色された形跡があったことから茂十郎は盗難を疑っている	西	年	7月29日	茂十郎（印）	本山東邦松殿	状	16.6 × 44.6		
16	東大史料（購）	14-1	寛 （唐船への荷積船代金 書付）	唐船への荷積を行う小船の積荷及び船数、代金を日別に記した書付	寅	年	4月1日	栄蔵	鶴田／右衛門 様	状	16.7 × 114.6		
17	東大史料（購）	14-2	寛 （小舟買上代金書付）	小舟の買入にともなう代金を記した書付	—	年	4月1日	栄蔵	鶴田様	状	×		

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
18	東大史料（購）	15-1	作恐口上書 （銅座跡日行使栄次病 身につき孫百太郎へ 跡抱願書、栄次勤功 書・褒美願）	銅座跡日行使の栄次が病身のため孫百太郎への跡抱を願 い出た書付。奥書には町年寄宛に支配之名の藤田源九郎 と本山勝之丞が栄次の勤功を記し、褒美の下賜を願い出て いる。いずれも下書もしくは控	寛	年	11 月 一 日	銅座跡日行使 栄次 銅座支配役之 名藤田源九 郎・本山勝之 丞	本山勝之丞 殿・藤田源九 郎殿、 後藤惣太郎 殿・福田十郎 石衛門殿	状	16.4 × 91.6	
19	東大史料（購）	15-2	〔栄次暇、跡抱百太郎 申付〕	銅座跡日行使を務めていた栄次に照を申し渡し、その跡抱 として百太郎に受用銀1貫目で役儀を務めるよう申し付け た書付	寛	年	12 月 一 日	一	銅座跡日行使 栄次・孫百太 郎	状	17.5 × 34.1	
20	東大史料（購）	15-3	〔栄次へ褒美銀百五十 目申渡〕	銅座跡日行使を務めていた栄次の退役にともない、これま での精勤の褒美として銀150目を下賜した書付	寛	年	12 月 一 日	一	銅座跡日行使 栄次	状	17.5 × 30.5	
21	東大史料（購）	16	寛 （寿吉郎近日中差紙差出）	丸山町の寿吉郎が近日中に本石灰町に差紙を差出する予 定であることからしかるべき処置を依頼した書付	卯	年	12 月 一 日	丸山町（印）	本石灰町	状	17.7 × 17.1	
22	東大史料（購）	17	〔竹中利兵衛箇所除の ため町屋舖代金 八百五十目にて銭町 藤崎亀松へ永代売渡 連判証文〕	竹中利兵衛後家が箇所除となったため、家屋舖代金を850 目にて銭町の藤崎亀松という人物に永代で売り渡す旨を連 判した証文	明和7	年	閏6 月 一 日	岩本左兵衛 （印）・柳伊 兵衛（印）・森 茂三次（印）・ 甲斐金左衛門 （印）・永田 幸八（印）・与 平（印）・宮崎 いね（印）・山 下そよ（印）・ 吉村直吉 （印）・井手 善五郎（印）・ 浜田茂七後家 （印）・助七 （印）・小谷り く（印）	一	状	26.1 × 39.0	
23	東大史料（購）	18	寛 （くみ家内とき本石灰 町へ差紙）	寄合町るとき（くみ家内）が近日中に本石灰町に差紙を差 出する予定であることからしかるべき処置を依頼した書付	卯	年	12 月 一 日	寄合町（印）	本石灰町	状	16.1 × 16.9	
24	東大史料（購）	19	口上之覚 （借錢返済のため家屋 舖名義替）	平田喜一と勘右衛門は家屋敷1箇所を抵当に河内屋勘右衛 門から借錢していたが返済できず、請人の平田新兵衛が返 済することとなった。そのため、抵当の家屋敷を新兵衛の 倅である茂太郎に譲渡し、名義も同人に変更するよう願 い出た書付	辰	年	4 月 一 日	平田喜一 （印）・平田 甚右衛門 （印）・請人 古町井上善兵 衛（印）	町役人御衆中	状	14.7 × 30.0	
25	東大史料（購）	20	寛	本石灰町の清蔵とよしが茂木村大崎名の清五郎のもとに 転居したことから、茂木村が本石灰町に差紙の差出を依頼 した書付	卯	年	12 月 一 日	茂木村（印）	本石灰町	状	17.6 × 25.1	
26	東大史料（購）	21	〔東築町番兵衛・本紺 屋町番兵衛密売無関係につき赦免同〕	東築町の番兵衛と本紺屋町の番兵衛は密売一件について 関与の風聞もあったことから取り調べを行っていたが、密 売無関係であったことから赦免の可否を問った書付	寛	年	8 月 23 日	本山・小島	一	状	15.6 × 23.8	
27	東大史料（購）	22	〔立合付番者、出島掛、 船口日行使、道具蔵 掛、日雇看板掛、頭取 日雇頭書付〕	立合付番者、出島掛、船口日行使、道具蔵掛、日雇看板掛、 頭取日雇頭の名書付	一	年	一 月 一 日	一	一	状	16.1 × 39.1	
28	東大史料（購）	23	文久三年亥十二月町違 方勘定小取帳	本石灰町における町入用銀等の差引勘定帳	文久3	年	12 月 一 日	一	一	横帳	12.4 × 33.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
29	東大史料 (購)	24	乍憚口上之覚 (竹谷勘右衛門所持家 屋敷買受届)	河内屋治右衛門後家ひさが竹谷勘右衛門所持の家屋敷1 箇所を代銀350目で買い取ることから名義をひさに変更す るようお願いした書付	子	年	11 月 ー 日	河内屋治右衛 門後家ひさ (印)・請入 伏見屋善兵衛 (印)	本山重之丞 殿・組頭御衆 中	状	17.5 × 36.5	
30	東大史料 (購)	25	野苔題詩	「天地静地名漬…」からはじまる、長崎の困窮を詠った漢 詩カ	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	状	16.0 × 26.1	
31	東大史料 (購)	26-1	覚	申七月分ノ高として6分5厘の書付	子	年	7 月 ー 日	今郷治屋町呉 服大物頼富永 仁兵衛	元山様	状	16.7 × 19.0	
32	東大史料 (購)	26-2	覚	5貫840文の書付	子	年	7 月 ー 日	船大工町油屋 嘉兵衛	本石灰町本山 様	状	16.1 × 16.4	
33	東大史料 (購)	26-3	[午極月酒代につき書付]	午極月の酒代として銀130目及び銭740文の書付	子	年	7 月 ー 日	紙茂店	本石灰町本山 様	状	15.1 × 15.8	
34	東大史料 (購)	26-4	[未七月ノ高につき書付]	未七月ノ高として83匁1分の書付	子	年	7 月 ー 日	菱田店	本石灰町本山 様	状	24.4 × 13.8	
35	東大史料 (購)	26-5	本石灰町御入用覚 (紙代ノ高)	紙代ノ高として19貫340文の書付	子	年	盆前 月 ー 日	河徳店	ー	状	17.3 × 19.6	
36	東大史料 (購)	26-6	覚 (紙代)	紙代として12貫46文の書付	子	年	7 月 ー 日	河徳店	本山重之丞様	状	16.1 × 18.0	
37	東大史料 (購)	26-7	覚 (銀酒代)	申極月の酒代として4匁2分の書付	子	年	7 月 ー 日	河徳店	本山様	状	17.3 × 17.7	
38	東大史料 (購)	26-8	覚	880目の書付	子	年	7 月 ー 日	山口荒木	本山様	状	16.6 × 12.8	
39	東大史料 (購)	26-9	覚	申年正月分として30貫924文、亥12月として730文の書付	子	年	7 月 ー 日	高倉	本山様	状	16.2 × 15.8	
40	東大史料 (購)	26-10	覚	巳3月分として11貫26文の書付	子	年	7 月 ー 日	大須店	本山様	状	16.9 × 14.0	
41	東大史料 (購)	26-11	覚 (御役場通不足分)	御役場通不足分として銀74匁7分の書付	子	年	7 月 ー 日	竹谷勘右衛門	本山様御役場	状	15.7 × 15.9	
42	東大史料 (購)	26-12	覚 (巳年より子七月まで 年賦ノ高銀)	巳年より子七月まで年賦ノ高銀として銀2貫250目の書付	子	年	7 月 ー 日	竹谷勘右衛門	本山様	状	15.8 × 14.9	
43	東大史料 (購)	26-13	覚	本綿代銭として70目の書付	子	年	7 月 ー 日	出来屋店	やから町本山 様	状	16.2 × 19.5	
44	東大史料 (購)	27	覚 (用水桶・茶盆代)	用水桶・茶盆代など214文の書付	酉	年	7 月 ー 日	櫛屋初五郎	番所	状	16.6 × 16.7	
45	東大史料 (購)	28	覚 (遊女関係勘定)	芸妓場代や座敷借上料金として差引金22両3分2朱糸の請 求書	ー	年	5 月 12 日	李村・里勝・ 青津・春江	春川君・此家 君・二洞君	状	16.1 × 107.2	
46	東大史料 (購)	29	(祝儀書付)	祝儀金7両1分3朱の書付	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	状	16.2 × 29.5	
47	東大史料 (購)	30-1	[包紙]	包紙裏面には「未十二月廿七日付申正月七日服部ノ届来 ル」とある。東京大学史料編纂所購入分9-2の関係史料カ	未	年	12 月 27 日	大賀健助	本山勝之丞 様・中村三治 平様	包紙	26.5 × 36.3	
48	東大史料 (購)	30-2	乍恐口上之覚 (本石灰町久次郎手紙 快方)	本石灰町久次郎が負った手紙が少々快方に向かつてきたこ とから、別添の医師外科の口上書とともにその旨を放置し た書付	戌	年	2 月 29 日	本石灰町乙名 門 本山重野右衛 門	ー	状	ー × ー	
49	東大史料 (購)	30-3	覚 (天満宮寄進請取)	天満宮寄進として本石灰町が銀50目を寄附した旨を記した 受領証	丑	年	12 月 ー 日	大徳寺 (印)	本石灰町御役 場	状	16.0 × 13.3	
50	東大史料 (購)	30-4	[蛇蛇毒、虫歯等治療 法に関する書付]	蛇蛇毒や虫歯等治療法に関する書付	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	状	16.2 × 25.5	
51	東大史料 (購)	30-5	[本山重左衛門・重之 丞、蔵屋敷館入退役 等日限書付]	本山重左衛門及び重之丞の御屋敷への館入及び退役等の 経歴を書き付けたもの	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	状	16.4 × 15.5	
52	東大史料 (購)	30-6	宿印事	宿印御免の由来を記した書付	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	状	15.1 × 30.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
53	東大史料 (購)	30-7	(諸大名蔵屋敷類焼の様子)	長崎市中で火災が発生した場合、長崎に屋敷を置く諸藩が延焼防止のためにどのような措置を講じているかを佐賀藩と大村藩を事例に記した書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.1 × 14.7	
54	東大史料 (購)	31	寛 (銀高書付)	亥7月分として銀25匁の書付	子	年	7 月 — 日	花月楼	本石灰町重之丞様	状	17.6 × 21.6	
55	東大史料 (購)	32	寛 (木材等普請入用書付)	内普請入用高として17貫636文の書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	27.1 × 38.2	
56	東大史料 (購)	33	寛 (銀高書付)	亥戌月メ高として15匁の書付	子	年	7 月 — 日	幸多屋	本山様	状	17.7 × 13.8	
57	東大史料 (購)	34	山陽道ハケ国	山陽道に属する8つの旧国名 (播磨、美作、備前、備後、安芸、周防、長門) を書き付けたもの	—	年	— 月 — 日	—	—	状	15.6 × 9.1	
58	東大史料 (購)	35-1	城付知行高并新田込高	「城付知行高并新田込高」と記された書付。付箋カ	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.0 × 4.0	
59	東大史料 (購)	35-2	〔御用人 富永吉左衛門様へ聞書〕	肥前諫早から柳川城下町を経由して三池町・新町に至る宿割書	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.1 × 16.6	
60	東大史料 (購)	35-3	〔人名書付〕	清水太右衛門、森路弥市平、森路河内、平石利右衛門、古賀座右衛門、清水源兵衛、山崎甲斐守様などの人名が記された書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	5.5 × 16.0	
61	東大史料 (購)	35-4	〔貫銭等に関する書付〕	貫銭など物面について記した書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	15.0 × 22.3	前欠
62	東大史料 (購)	35-5	寛 (巡見使九州長崎巡見路)	巡見使による九州地方の藩領・天領の巡見路及び泊数等を記した書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	27.0 × 38.0	
63	東大史料 (購)	35-6	〔巡見使への接遇作法につき書付〕	巡見使に対する接遇の作法について記した書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.3 × 23.7	前欠
64	東大史料 (購)	35-7	〔拝借年額・長崎用普銀・長崎諸役所雑用銀 (銀書付)〕	拝借年額 (1281貫余)・長崎用普銀 (1200貫目程)・長崎諸役所雑用銀 (銀229貫余) を書き付けたもの	—	年	— 月 — 日	—	—	状	26.2 × 12.5	前欠
65	東大史料 (購)	35-8	〔人名書付〕	東中町利三太・東上町長蔵・八幡町伊久助などの人名が記された書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	15.9 × 11.2	前欠
66	東大史料 (購)	35-9	〔道程書付〕	酒屋町から放火山、庄屋宅、日見、松森社、諏訪社、立山御役所、菊次郎様 (詳細不明) を経由して酒屋町に戻るまでの道程を記した書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	13.5 × 33.1	
67	東大史料 (購)	35-10	御献立	岩原御目付数藤十郎左衛門来着時の献立書	—	年	— 月 — 日	—	—	状	26.6 × 27.5	
68	東大史料 (購)	35-11	〔巡見使の行程につき書付〕	五島から平戸、早岐、彼杵、大村、時津を経由して長崎に至る行程を記した書付。長崎における接遇の作法等も先例を引いて箇条にまとめている。長崎市中の人口の内訳なども書き記す	—	年	— 月 — 日	—	—	状	15.5 × 250.8	前欠
69	東大史料 (購)	36	寛	日履寛など2貫508文の書付	—	年	9 月 28 日	砂屋直助	佐藤様	状	16.1 × 34.5	
70	東大史料 (購)	37-1	乍憚口上之覚 (旅人重兵衛借家住居願)	一向宗万屋町重兵衛 (39歳)、権宗材木町つね (36歳) が万屋亀吉借家として転居につき	文政10	年	閏6 月 — 日	万屋亀吉 (印)	御町御役人御衆中	状	17.9 × 28.6	
71	東大史料 (購)	37-2	寛 (旅人重兵衛身元保証)	万屋町経由で豊後国戸郷村重兵衛が旅人として本石灰町滞在につき書付	亥	年	閏6 月 — 日	万屋町 (印)	本石灰町	状	18.3 × 31.2	
72	東大史料 (購)	37-3	寛 (人別送り状)	材木町つね (36歳) につき	亥	年	7 月 — 日	材木町 (印)	本石灰町	状	16.8 × 27.4	
73	東大史料 (購)	38	〔過人自殺相果につき書付〕	10日夜に豊国の者が目を離した隙に自殺した過人の取り扱いに関する書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.0 × 19.8	前欠
74	東大史料 (購)	39	亥八月三日相糺ス	只三郎後家姫しま事また (42歳) の供述書。無縁変死人に関する一件	亥	年	8 月 3 日	—	—	状	15.8 × 41.8	
75	東大史料 (購)	40	〔借用銀皆済につき書付〕	榎津町の矢嶋亀三郎が〔借用銀8貫400目を15年間で皆済した旨を記した書付〕	文化14	年	— 月 — 日	榎津町矢嶋亀三郎	—	状	12.2 × 23.5	
76	東大史料 (購)	41	乍憚口上之覚 (今町書付旅人喜助火之元用心之為差置度願)	万屋亀吉所有の建屋に今町書付旅人喜助 (35歳) を、平日は料理人として働かせながら火の元用心のため起居させることを願い出た書付	文政11	年	4 月 — 日	正兵衛 (印)	御町御役人御衆中	状	16.3 × 36.9	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
77	東大史料（購）	42	覚	黒天小羽・縮結城として10匁の書付	子	年	7 月 1 日	縫屋悦五郎	本山様	状	14.1 × 21.0	
78	東大史料（購）	43	覚	亥12月分ノ高として18匁5分の書付	子	年	7 月 1 日	江川店	本山旦那様	状	16.4 × 15.4	
79	東大史料（購）	44	覚	色打として銀5貫689分3匁5厘及び8匁2分5厘の受領書	寅	年	12 月 16 日	□伊（印）	役場	状	16.6 × 18.7	
80	東大史料（購）	45	覚	亥7月分ノ高として37匁5分の書付	子	年	7 月 1 日	小しま釜屋	本石灰町本山様	状	16.2 × 15.5	
81	東大史料（購）	46-1	覚	入牢唐人膳料、ちり紙九帖の入用39匁7分2厘の書付	申	年	10 月 27 日	—	—	状	15.8 × 20.7	
82	東大史料（購）	46-2	[膳料ちり紙代書付]	膳料ちり紙代の入用30匁3分2厘の書付	—	年	1 月 1 日	恵美酒町	—	状	16.7 × 6.5	
83	東大史料（購）	46-3	[唐船出入居帳雛形]	「居帳之形何ノ何番船」から始まる唐船の積載物（長持・鍵）などの居書の雛型	酉	年	5 月 1 日	唐船雑用取締方	唐船雑用取締—	状	27.0 × 38.7	
84	東大史料（購）	46-4	[太左衛門・興蔵召連に関する通達]	町年寄の福田十郎右衛門から田中七三郎・本山膳之丞に對し、「御用之儀」のために太左衛門が興蔵のいすれかを召し連れてくようにと通達した書付	—	年	12 月 27 日	福田十郎右衛門（印）	田中七三郎殿・本山膳之丞殿	状	16.4 × 36.7	
85	東大史料（購）	46-5	[唐船方仕役にともなう并当料手当の支給願]	太左衛門・興蔵が本山（膳之丞）と田中（七三郎）あてに、唐船方仕役の業務従事に関して、昨年冬に手当として支給された并当料としての手当銀45匁について、当年初冬の業務従事においても「相成之御要美」を下されるようお願いした書付	戌	年	7 月 1 日	本山、田中	唐船雑用取締掛手附日行司太左衛門、興蔵	状	15.9 × 33.4	
86	東大史料（購）	46-6	[唐船方仕役にともなう并当料手当の支給を通知]	太左衛門・興蔵あてに唐船方仕役の業務従事にもない、それそれに対する并当料の代わりとして手当銀45匁の支給を通知した書付	戌	年	12 月 1 日	—	唐船宿町雑用取締掛手附日行司太左衛門、興蔵	状	17.5 × 49.2	
87	東大史料（購）	47	覚	「一、菅座 亥七月分」と記された書付	子	年	7 月 1 日	弥三吉	本山様	状	16.0 × 13.3	
88	東大史料（購）	48	契約証	長崎市丸山町7番地2の一部改築につき、改築後の設備が不必要になった場合の原状復帰などを通知した書付	大正13	年	7 月 1 日	佐藤久米次郎（印）	本山和雄殿	状	24.0 × 33.6	
89	東大史料（購）	49	覚	銀3貫目と550目それぞれの出納に関する書付	寅	年	12 月 1 日	赤瀬	本山様	状	16.1 × 71.8	
90	東大史料（購）	50	[長崎に罷越日雇稼口上書]	本石灰町に居住することになった日雇（名前不詳）の経歴に関する書付。畑屋町の丸左衛門という人物を頼って長崎にたどり着いたものの、丸左衛門は居所不明となっており、次いで引地町の六左衛門という人物を頼った後、本石灰町に居住することになったという順末が記されている。	—	年	10 月 下旬 日	—	—	状	16.2 × 16.0	前後欠
91	東大史料（購）	51	[丸荷役、構荷役など入用銀書付]	唐船の丸荷役、構荷役などの業務にともなう入用銀の書付。并当持・小使・日用などに対する給銀などが主である	—	年	1 月 1 日	—	—	状	16.3 × 51.7	前欠
92	東大史料（購）	52	覚	染物代請取の領収証	子	年	7 月 15 日	紺屋金石衛門（印）	平山様	状	16.2 × 11.7	
93	東大史料（購）	53	乍恐口上書（盗品吟味願）	「本練形付目引仕立」など3品の紛失届。5日夜に紛失が発覚。文吉母は盗難を疑っている	—	年	4 月 8 日	文吉母（印）	本山重兵衛殿	状	27.6 × 24.0	
94	東大史料（購）	54	[安政5年十二月類焼年紙、地子取立書付]	安政5年12月に発生した類焼にともなう年紙と御地子銀の取り立てに関する書付	—	年	1 月 1 日	—	—	状	17.7 × 51.1	
95	東大史料（購）	55	[入用銀書付]	「かつをふし」「くらけ」「漬茶」「大根」などの代銀書付	—	年	1 月 1 日	—	—	状	25.0 × 16.8	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年			作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
					—	年	月 日					
96	東大史料（購）	56	〔領収書等綴〕	(0) 綴	—	年	1 月 1 日	—	—	綴	23.0 × 45.9	
				(1) 寛（東京まで船賃請取）	—	年	3 月 11 日	横浜河内屋新 兵衛	—	状	15.8 × 45.9	
				(2) 寛（料理代請取）	—	年	3 月 12 日	深川熊十	—	状	24.3 × 9.9	
				(3) 寛（江戸橋より荷物車力賃請取）	午	年	3 月 12 日	石町山岸車屋 定右衛門	—	状	23.9 × 14.5	
				(4) 寛（諸向請取）	—	年	3 月 16 日	落着町三丁目 遠州屋為八	石町様	状	16.0 × 29.0	
				(5) 寛（銀高芸者名書付）	—	年	1 月 1 日	—	—	状	16.0 × 30.3	後欠
				(6) 〔茶屋祝儀書付〕	—	年	1 月 1 日	—	—	状	15.1 × 15.6	後欠
				(7) 寛（芸者遊代請取）	—	年	1 月 1 日	吉仲・東屋	—	状	16.2 × 42.3	
				(8) 御添元（料理代請取）	—	年	1 月 1 日	金子	—	状	16.5 × 15.6	
				(9) 御添元（料理代請取）	—	年	1 月 1 日	金子	—	状	16.5 × 15.6	
				(10) 寛（料理代請取）	—	年	4 月 5 日	新ふし原土手 平松亭	—	状	24.4 × 10.6	
97	東大史料（購）	57	〔後藤町深堀屋敷在住伊作の行方につき書付〕	伊作（筑後援津中原町大工）という人物が入牢後に遁走したことから彼の行方について、喜平という人物が居所を知っている可能性があるとの通報を受けたことからその旨を記した書付	—	年	8 月 17 日	—	—	状	— × —	
98	東大史料（購）	58	寛	銅座跡から本石灰町宛にしまという人物が一面日内に差紙を遣わす予定であることから、その処理を依頼した書付	卯	年	12 月 1 日	銅座跡役場 （印）	本石灰町	状	17.9 × 18.0	
99	東大史料（購）	59	寛	銭400文の請取を記した領収証	子	年	7 月 15 日	富田	本山様	状	16.2 × 17.4	
100	東大史料（購）	60-1	旧通称実名ノ区別開申書	笹山光太郎の実父は土族として笹山八郎を称していたものの、明治5年の戸籍改正により実名の改番を用いることとなったが、戸籍に旧名が記載されていないため、旧家禄の不足金の支給を願い出した書付	明治31	年	10 月 1 日	笹山光太郎	長崎県小松原 英太郎殿	状	23.5 × 32.5	
101	東大史料（購）	60-2	開申書	旧幕長崎奉行支配勘定役並を務めていた北嶋松太郎は明治4年に農商入籍し150円の下賜を受けたものの、幼年であったため手続きが不分明となったことからその旨を開申した書付	—	年	1 月 1 日	北嶋松太郎	長崎県知事	状	23.6 × 16.5	
102	東大史料（購）	61	〔本石灰町とら、いその路総差除につき書付〕	本石灰町の畑直次郎家内のとら、いその兩人が篠崎利三太・井手栄次郎が管理する町内で路総を落させたことかわら、本石灰町では兩人を路総の対象から除外するように連絡した書状	—	年	正 月 5 日	篠崎利三太、 井出栄次郎	本山様之丞様	状	15.5 × 48.1	
103	東大史料（購）	62	寛	〔午十二月メ高銀高 一、四拾八匁三分弐リ〕と記された書付	子	年	7 月 1 日	畑車屋	本山様	状	17.8 × 15.0	
104	東大史料（購）	63	寛	7月朔日から2日にかけての勅使下向、島津久光江戸登城時の勅静を記した書付写	〔文久2〕	年	1 月 1 日	—	—	状	15.0 × 35.7	前欠
105	東大史料（購）	64	寛	銭200文の請取を記した領収証	—	年	7 月 16 日	下里	御使	状	17.5 × 15.2	
106	東大史料（購）	65	〔町役従事にもなう申渡寛〕	下役3人に対し町務従事にもなう服務規程や職掌について記した申渡寛	—	年	1 月 1 日	—	—	状	15.5 × 110.9	
107	東大史料（購）	66	寛	外勤にともなう食費など入用額の書付	—	年	自4 年 5 月 25 日	—	—	状	16.3 × 93.3	
108	東大史料（購）	67	御救米人数高	午10月から申間12月にかけての御救米の対象人数の書付	自午 至申	年	10 月 1 日	—	—	状	15.9 × 21.5	
109	東大史料（購）	68	〔夜逃者人名書付〕	日田田嶋出生の宇平太郎（37歳）、同所迎三郎（27歳）、久留米吉井町若宮村喜平（40歳位）が6月19日に逃げ去った旨を記した書付。佐賀までは足取りがつかめているとの記述も残る	—	年	1 月 1 日	—	—	状	16.5 × 22.8	前欠

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
110	東大史料 (購)	69	拾欠簡	鉄炮付属品に関する書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	15.7 × 9.6	
111	東大史料 (購)	70-1	[勅使御列顔に関する書付]	6月10日の勅使 (大原左衛門督) 下向時の動静を記した書付写	[文久2]	年	6 月 10 日	—	—	状	14.8 × 16.9	
112	東大史料 (購)	70-2	[松平春嶽政事総裁職に関する書付]	越前守兼父隠居である松平春嶽の政事総裁職に関する書付写	[文久2]	年	— 月 — 日	—	—	状	14.9 × 11.2	
113	東大史料 (購)	71	[町印案代請取につき書付]	町印本の案代として代銭請取につき書付	ミ	年	7 月 11 日	紺金	本山様	状	24.6 × 12.1	
114	東大史料 (購)	72	一札之事 (惣右衛門・同人女房預かり)	手廻りとなって五人組に預けられている惣右衛門・同人女房の身柄を厳重に管理することを誓約した書付	文政9	年	6 月 16 日	五人組惣代紺屋金右衛門 (印)・瀬戸喜兵衛 (印)・堺屋武兵衛 (印)	本山邦松殿・御組頭御衆中	状	28.6 × 30.2	
115	東大史料 (購)	73	乍彈口上之覚	小島屋又五郎が高浜村の弥蔵という人物を火之用心番という名目で召し置くことを願い出た書状	亥	年	4 月 — 日	小島屋又五郎 (印)	御町御役人衆中	状	17.0 × 24.0	
116	東大史料 (購)	74	[佐賀領諸早丸山村金兵衛処分につき書付]	村気を懸っている金兵衛という人物の処遇に関する書付	—	年	3 月 4 日	—	—	状	16.0 × 47.2	
117	東大史料 (購)	75	差上申一札之事	高浜村の弥蔵が又五郎という人物のもとに借屋を願い出た書付	亥	年	4 月 — 日	伊左衛門 (印)	御町御役人中	状	16.6 × 34.7	
118	東大史料 (購)	76	唐人屋敷水汲人火消名前書	包紙のみ	申	年	8 月 4 日	—	—	包紙	21.0 × 24.3	
119	東大史料 (購)	77	寛	荷渡代及び仕懸荷渡し紙代の請取を記した書付	—	年	閏3 月 5 日	宗吉 (印)	—	状	16.4 × 20.5	
120	東大史料 (購)	78	寛三番四番船本売荷渡引合	唐船持運の砂糖などの引合に関する書付	—	年	6 月 16 日	長崎会所	—	状	16.5 × 17.2	
121	東大史料 (購)	79	乍彈口上之覚	本締嶋紙入一つの紛失届	戌	年	6 月 11 日	次平 (印)	本山邦松殿	状	16.7 × 32.5	
122	東大史料 (購)	80	[山永武右衛門盗賊方加役差免につき書付]	盗賊方手付日行便を務める山永武右衛門について、盗賊方加役を差免する旨を記した書付	巳	年	12 月 — 日	—	盗賊方乙名江	状	17.3 × 24.5	
123	東大史料 (購)	81	以書付申上覚 (久留米晒帳出入)	久留米に晒帳の買入のため赴いていた銅座跡の卯兵衛という人物が、日限を過ぎても病氣と称して帰らず、出奔した一件に関する書付。卯兵衛は久留米表で引き留められており、同人所持の往来切手を回収できないことから、往来切手返納の猶予を願い出ている	辰	年	9 月 14 日	支配乙名藤田源九郎・本山膳之丞	高島四郎兵衛殿・久松喜兵衛殿	状	16.1 × 35.4	
124	東大史料 (購)	82	被下砂糖之覚	精荷役の節・荷渡の節に請け取る白砂糖の書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	26.7 × 39.3	
125	東大史料 (購)	83	[包紙]	包紙のみ	—	年	— 月 — 日	—	—	包紙	27.0 × 19.7	
126	東大史料 (購)	84	覚 (銀貳百五拾目町方より寄附請取)	清水寺に御町方御寄附として銀250目を献じたことに対する受領証	—	年	7 月 14 日	清水寺 (印)	本山様	状	15.7 × 25.0	
127	東大史料 (購)	85-1	[長崎奉行家中及び諸役人人名書付]	(1) 水野若狹守様御家中 (2) 平賀式部少輔様御家中 (3) 高尾伊賀守様御家中 (4) 中川様御家中 (5) 御先手松浦長門守与力近藤重蔵 御巡見にとまなひ外浦町から新地御米蔵・宿蔵、仕役場、南瀬崎御米蔵、唐人屋敷、大徳寺参詣を経由して外浦町に戻るまでの道順	—	年	12 月 22 日	東京両面横綱町牧野從五位内野田鷹雄	長崎本石灰町本山膳十郎様	封筒	18.5 × 9.8	
128	東大史料 (購)	85-2	御道順	—	—	年	— 月 — 日	—	—	状	17.6 × 45.7	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
129	東大史料（購）	85-3	船艘一艘二付三欠六分	出帆の船艘・武器積船艘および日用・日用頭買高控	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.2 × 7.0	
130	東大史料（購）	85-4	表筆者諸書付控	寛文から元文年間頃まで歴代の表筆者役名控	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.3 × 38.1	
131	東大史料（購）	85-5	寛 （八百屋町書付・旅人の平次より持ち出した銀請取）	八百屋町書付旅人の平次より持ち出した銀500目を請け取った受領証	申	年	5 月 2 日	茂三郎（印）	本山邦松殿	状	16.2 × 32.2	
132	東大史料（購）	85-6	高島方注文	高島注文の材木他、新田方日雇人数、賃銭などの書付	—	年	8 月 27 日	—	—	状	21.0 × 27.0	
133	東大史料（購）	86	〔断簡〕	「本山」と記された短冊状の断簡	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.6 × 3.0	
134	東大史料（購）	87	寛 元小嶋屋料理人筑前之者善吉	木材・石材等の合計4貫372文の代銭書付。奥に「右善本方積り外分也」と未書きあり	—	年	— 月 — 日	—	—	状	27.3 × 38.5	
135	東大史料（購）	88	寛 元小嶋屋料理人筑前之者善吉	善吉が「祇園之下料理屋」にいる旨の書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.5 × 11.2	
136	東大史料（購）	89	寛 （借屋箇所名前簡）	広渡為八郎が銀770目、銭225貫400文及び家具類を世話人に渡し、一方で居宅を借家にしたのち、同人の名義に変更する旨を願い出した書付	亥	年	12 月 — 日	広渡為八郎	—	状	18.0 × 32.6	
137	東大史料（購）	90	乍彈口上書 （木綿花色、銅めんほふ紛失届）	「木綿花色茶送黄立嶋男綿入」など2品の紛失届。質商売を営んでいた住吉屋安兵衛が入用の品物を調べたところ紛失が判明。安兵衛は盗難を疑って届け出ている	—	年	9 月 17 日	住吉屋安兵衛（印）	本山邦松殿	状	16.4 × 26.4	
138	東大史料（購）	91	寛	本下町勝蔵の疵癰治容体書及び明和7年寅3月普門院弟子急病死去にともなう内済書類に関する包紙	寅	年	3 月 — 日	久米道輔（印）	—	包紙 状	16.0 × 27.4	
139	東大史料（購）	92	五月中	丑九番船へ寅五番船までの積荷書付。いずれも米5石を積載、7月十一日印形致入」とあり	—	年	— 月 — 日	—	—	状	15.7 × 3.0・21.8	
140	東大史料（購）	93	〔人名書付〕	竹内弥十郎、吉村豊左衛門、猪岡由太夫の人名書付。猪岡の名前の上には「定乗」と記されている	—	年	— 月 — 日	—	—	状	12.4 × 7.9	
141	東大史料（購）	94	押申候目録	諸品入物の中の品々書付。4品目の目録	巳	年	4 月 — 日	柳佐兵衛（印）	—	状	15.8 × 32.7	
142	東大史料（購）	95	〔抜刀一件〕	7月6日夜、13人が抜刀し町人を追い駆けまわした一件に関する書付。東京大学史料編纂所購入分105の関連史料カ	—	年	7 月 6 日	—	—	状	16.4 × 9.7	後欠
143	東大史料（購）	96	乍彈口上書 （伊底次二役場見習二仕度願）	本石炭町日行使の八右衛門が伴の底次を御役場見習として職務に従事させたい旨、本山勝之丞に願い出て、本山が奥書のうえ町年寄あてに許可を願い出した書付の控	寅	年	8 月 — 日	乙名本山勝之丞	後藤惣太郎殿・福田十郎右衛門殿	状	16.3 × 38.0	
144	東大史料（購）	97	乍彈口上之寛 （伊勢町帳面ます私借屋江召置二付町義願）	伊勢町帳面ますを伏見屋喜兵衛が自身の借屋に召し置くことについて願い出した書付。まずは縫物渡世の人物	—	年	— 月 — 日	伏見屋喜兵衛（印）	御町御役人御梁中	状	16.3 × 21.2	
145	東大史料（購）	98	預申銀子之事	銀貫200目の借用書、本山奥書あり	寛政2	年	正 月 — 日	益田屋茂三次・茂七郎	村瀬諸兵衛殿	状	15.1 × 30.7	
146	東大史料（購）	99-1	喜右衛門申口	喜三太後家の娘であったやす（喜合町角屋貞右衛門抱え女）が、喜三太後家と武七（喜三太後家の同居人）の依頼によって武七妹のやすが奉公する唐津に喜右衛門の仲介のもと売り渡された一件ことについて、喜右衛門の口述の下書	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.2 × 39.9	
147	東大史料（購）	99-2	〔角屋貞次、やす、市郎太につき書付〕	やすは銅座跡喜三太後家の娘で12歳。武七方で居住していた。市郎太は喜合町小役で唐津へやってきて取り合いになった者と記されている。	—	年	— 月 — 日	—	—	状	15.4 × 14.8	
148	東大史料（購）	99-3	寛	3貫文・武七、3貫700文・喜右衛門、2貫500文・本籍町与四松、7貫文・銅座跡・法年、7貫16貫200文と記された書付	戌	年	12 月 11 日	—	—	状	14.9 × 15.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
149	東大史料（購）	99-4	寛 （本石灰町やす、身請元銀、十七貫六百文）	やすが売り渡されたと思われる唐津の大黒屋から本石灰町宛の書簡。やすの身柄を引き渡すにあたっては、元銀17貫600文の倍額にあたる35貫200文を支払うか、やすの身柄を寄合町に一旦引き渡すかの2通りの方法があることを通知している。	—	年	4月19日	唐津殿浦大黒屋	長嶋本石灰町	状	16.4 × 51.9	
150	東大史料（購）	99-5	武七申口	喜三大後家の娘であったやす（寄合町角屋貞右衛門抱え女）が、喜三大後家と武七（喜三大後家の同居人）の依頼によって武七妹のやすが奉公する唐津に幕右衛門の仲介のもと売り渡された一件について、武七の口述の下書。武七は喜三大後家からやすの養父先を尋えたいとの頼みを断り切れず、幕右衛門を紹介したのであって、身請銀がいかにほどであったかなどは知らない述べている。	—	年	1月1日	—	—	状	15.1 × 37.9	
151	東大史料（購）	99-6	寛	丁銭17貫600文を銀に両替した場合、181両4分5厘に相当するという相場換算額の書付	亥	年	6月21日	—	—	状	16.5 × 26.1	
152	東大史料（購）	99-7	受取	やすの身代元銀として大黒屋が丁銀17貫600文を受領した書付	亥	年	7月7日	殿浦大黒屋市兵衛	長嶋本石灰町	状	14.0 × 20.0	
153	東大史料（購）	100	寛五番船別段売荷渡	色へるへとわんなど諸品目書付	寅	年	1月1日	出来大工町	利三太殿	状	27.6 × 40.7	
154	東大史料（購）	101	寛（火消代金請取）	火消33人及び幸領2人の人件費として銭4貫800文、1貫300文の受領証	戌	年	12月24日	玆伊（印）	町方御役場	状	16.4 × 24.5	
155	東大史料（購）	102	申式番船別段売荷物長崎会所渡諸入用帳	申式番船の積荷運搬にともなう日雇賃金や消耗品類等の書付	申	年	11月11日	宿本石灰町	—	横帳	13.5 × 41.2	
156	東大史料（購）	103	〔差引勘定控〕	貫銀、町遣方等の差引勘定控	—	年	1月1日	—	—	状	18.2 × 35.2	
157	東大史料（購）	104	〔差引勘定控〕	貫銀、地子銀等の差引勘定控	—	年	1月1日	—	—	状	12.9 × 12.2	
158	東大史料（購）	105	〔広島藩竹内利左衛門黒人殺害一件につき書付〕	広島藩の竹内利左衛門ほか12人が黒人殺害一件に関する聞き、執筆者は島原藩の出張した際に同宿の儀兵衛という者から聞いた話とする。〔九月廿三日差出控〕とあり、東京大学史料編纂所購入分95の関連史料カ	—	年	1月1日	—	—	状	24.2 × 30.9	
159	東大史料（購）	106-1	〔包紙〕	十七日に居留地梅ヶ崎の岸下にて乞食体の者が死亡している旨を書き付けた包紙	—	年	1月1日	—	—	包紙	23.7 × 30.4	
160	東大史料（購）	106-2	〔喜市一件関係者召捕人名書付〕	喜市一件の関係者を召し捕らえる際に出勤する目明し等の人名書付	—	年	1月1日	—	—	状	15.6 × 23.1	
161	東大史料（購）	106-3	〔書簡〕	喜市一件について一通りの事項を書き取り御覽に入れる旨通知した書状	—	年	8月28日	—	清田紋五郎様	状	15.5 × 29.5	
162	東大史料（購）	106-4	〔目明への褒美金書付〕	喜市一件で動員された目明しへの褒美金の内訳を書付	—	年	1月1日	—	—	状	16.1 × 28.3	
163	東大史料（購）	107	御困米口蔵所月々入用銀請取帳	御困米の管理にともなう入用銀の受取を書き留めた帳面	自寛政4 至寛政6	年	1月1日	船口日行使	—	横帳	— × —	
164	東大史料（購）	108	申式番船唐人屋敷水汲入之者名前	唐人屋敷湯水のため御年番所から水汲人の動員が必要になったことから、火消中に水汲を申し付けた際の人名書付	文化9	年	8月4日	本石灰町	—	横帳	13.5 × 39.9	
165	東大史料（購）	109	〔人名書付〕	島原布津村長助、卒の末五郎、友平の人名書付	—	年	1月1日	—	—	状	16.2 × 14.3	
166	東大史料（購）	110	寛	亥年分三座五ヶ所及び十一座の代銭	子	年	7月1日	かう	本石灰町本山様	状	17.4 × 21.6	
167	東大史料（購）	111	諸書出し入	〔天保十一年子七月 諸書出し入〕と記された袋	天保11	年	7月1日	—	—	袋	23.5 × 8.9	
168	東大史料（購）	112	〔手頭下げ札〕	「文化十三年子十一月六日薩州閣役上野善兵衛殿々被相渡候手頭」と記された短冊状の書付	文化3	年	11月6日	—	—	状	16.3 × 2.9	
169	東大史料（購）	113	唐船方別段銀渡し帳	立石彦七郎ほか13名を対象とした唐船方別段銀の請取寛。	文化9	年	12月1日	—	—	横帳	13.4 × 19.6	
170	東大史料（購）	114	寛十二月九日割渡小訳	各人とも押印あり	寅	年	12月9日	—	—	豎帳	12.4 × 34.0	
171	東大史料（購）	115	〔本石灰町 貫銀・電銀等差引勘定控〕	本石灰町にかかると貫銀・電銀等の差引勘定控	寅	年	12月1日	長嶋会所	本石灰町	状	23.9 × 23.9	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
172	東大史料 (購)	116-1	嘉永五子十二月かまとかし引取高	本石灰町における地子分・家賃を徴収した人名を書き付けた帳面	嘉永5	年	12 月 1 日	—	—	横帳	13.5 × 90.0	
173	東大史料 (購)	116-2	子七月九日	本石灰町における町入用銀等の差引勘定帳	[嘉永5]	年	1 月 1 日	—	—	横帳	12.1 × 35.2	
174	東大史料 (購)	117-1	[封筒]	封筒のみ。東京大学史料編纂所購入分117-1の関係史料カ	—	年	1 月 1 日	彌尾作右衛門	本山膳之丞様	封筒	10.8 × 16.7	
175	東大史料 (購)	117-2	[書簡]	已年踏絵掛合につき書付。吟味対象者は本石灰町利三郎	己	年	正 月 6 日	田口恵兵衛	本山膳之丞様	状	— × —	
176	東大史料 (購)	117-3	[書簡]	町内むめ齋喜兵衛方にて踏絵済につき書き付け町踏絵には除外通知、東京大学史料編纂所購入分117-1の関係史料カ	—	年	正 月 8 日	—	—	状	16.7 × 25.6	
177	東大史料 (購)	118	あまてらすすみおんかみ	六根清浄祓カ	—	年	1 月 1 日	—	—	状	32.3 × 44.0	
178	東大史料 (購)	119	[本石灰町 貫銀・竜銀等差引勘定控]	本石灰町にかかる貫銀・竜銀等の差引勘定控	—	年	1 月 1 日	—	—	状	16.0 × 29.3	
179	東大史料 (購)	120	用事有之候条	用事があることから御田米掛の乙名中から人数を差出すべしとの書付	—	年	2 月 16 日	高木清右衛門 (印)	御田米掛乙名中	状	15.5 × 28.0	
180	東大史料 (購)	121	開申書	黒川千代美の祖父黒川正英、旧通称栄三郎につき申し開き書	明治31	年	10 月 1 日	黒川千代美	長崎県令小松屋英太郎殿	状	23.6 × 28.2	
181	東大史料 (購)	122	浦五島町友右衛門材木出入	寅十二月と卯正月の浦五島町友右衛門の材木出入りに関する材木代銀の書付	—	年	1 月 1 日	新大工町久次郎	—	状	15.7 × 22.5	
182	東大史料 (購)	123	寛 (七月分々高)	七月分々高の書付	子	年	7 月 1 日	伊勢屋	本石灰町本山様	状	15.9 × 14.1	
183	東大史料 (購)	124	[浜松屋止宿につき書付]	島原布津村からやってきた大嶋屋、伊野屋松次郎、山田屋富太郎、永藏4人の止宿に関する書付	—	年	1 月 1 日	—	—	状	16.5 × 11.7	前欠
184	東大史料 (購)	125	寛	諸品代銭の書付	—	年	1 月 1 日	—	—	状	17.3 × 7.7	後欠
185	東大史料 (購)	126	[酒代書付]	酒代として銀75匁の書付	子	年	7 月 1 日	—	本石灰町本山様	状	17.6 × 18.4	
186	東大史料 (購)	127	[包紙]	唐船の宿町・付町を担当した際に関係史料を収納した包紙	文化9 文化10	年	7 月 7 日 18 日	—	—	包紙	26.0 × 32.7	
187	東大史料 (購)	128	[参着者につき書付]	筑前之者2人、島原書物先生、まかなひみかななど参着者を記した書付	—	年	1 月 1 日	—	—	状	16.0 × 16.8	前欠
188	東大史料 (購)	129	暗殺一件	「辰九月 暗殺一件」と記した袋	辰	年	9 月 1 日	—	—	袋	32.5 × 10.8	
189	東大史料 (購)	130	乙名会所帳面之写 年賦割合帳	天明元年の東上町銀主山崎友太郎訴訟に関する経過を記すとともに、借用銀払方についても記載した帳面	天明2	年	8 月 1 日	—	—	横帳	— × —	
190	東大史料 (購)	131	うたのしらべ	歌集	—	年	1 月 1 日	せい	—	横帳	13.0 × 19.0	
191	東大史料 (購)	132-1	寛 (坪数改、銀三十貫目引当)	坪数改、銀30貫目引当。「酉十二月迄元利合」とあり	—	年	1 月 1 日	地主本多久左衛門・加印本多市右衛門・同本多宗左衛門	—	状	27.6 × 38.7	
192	東大史料 (購)	132-2	乍檀口上書 (路差紛失届)	脇差1腰の紛失届。吉田屋清助弟登一郎が用事で隣家を訪れた後に紛失が発覚し、届け出ている	酉	年	3 月 朔 日	吉田屋清助弟登一郎 (印)	本山邦松殿	状	15.8 × 35.0	
193	東大史料 (購)	132-3	[書簡]	長崎留学修行中の礼状	—	年	臘 月 26 日	野田蔵雄	本山膳十郎様	状	16.0 × 21.6	
194	東大史料 (購)	132-4	[御手附・御徒目付・御坊主姓名書]	御手附松村藩平、福井金兵衛、徒士目付南吉右衛門、清田佐吉など姓名書	—	年	1 月 1 日	—	—	状	15.8 × 20.0	
195	東大史料 (購)	132-5	乍檀口上之寛 (家屋敷・斎藤市左衛門江壳渡名前替願)	嘉十郎が所持する家屋敷半箇所を10両で本籍町の斎藤市左衛門に売り渡すことから名義変更を願った書付	天保9	年	7 月 1 日	売主嘉十郎 (印)・右請人員之助 (印)	本山重之丞殿・組頭御衆中	状	27.0 × 28.4	
196	東大史料 (購)	132-6	松山様御中間名前	長崎奉行松山惣右衛門家中の大部屋住居三五郎ほか13名の姓名書	—	年	1 月 1 日	—	—	状	15.5 × 28.2	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
197	東大史料（購）	133	〔重右衛門家親類書〕	大和国御所町出生、大坂心斎橋筋炭路町住居、重右衛門家の親類書	享和3	年	1月 1日	—	—	状	15.2 × 52.5	
198	東大史料（購）	134	〔瓦釘代請求〕	瓦釘代等代銭7貫314文の書付	西	年	10月 7日	砂屋直助	佐藤様	状	16.4 × 69.0	
199	東大史料（購）	135	〔石灰代等請求〕	石灰代等代銭23貫600文の書付	西	年	8月 9日	清八	御役場様	状	16.4 × 22.5	
200	東大史料（購）	136	〔壁ぬり代請求〕	大津かべぬり代の書付	西	年	7月 1日	左官清八	御役場様	状	16.3 × 16.8	
201	東大史料（購）	137	〔町入用銭差引勘定控〕	本石灰町にかかる町入用費の差引勘定控	—	年	1月 1日	—	—	綴	12.2 × 33.0	
202	東大史料（購）	138	〔次右衛門女房鑑銀引当につき書付〕	六貫文取替	—	年	1月 1日	—	—	状	10.0 × 12.2	後欠
203	東大史料（購）	139	〔寛〕	「寛 二百文」と記された書付	—	年	1月 1日	—	—	状	17.5 × 5.7	後欠
204	東大史料（購）	140	〔書簡〕	本石灰町宮崎くにて借屋いせ路経済みにつき届	—	年	正月 3日	本山勝之丞	柳足基右衛門	状	15.3 × 33.0	
205	東大史料（購）	141	〔御用留簡簡〕	寛弘番・五番船荷出赦仰付、年番所にて誓詞作成	—	年	7月 朔日	—	—	状	15.6 × 14.5	
206	東大史料（購）	142	〔寛〕	本物代銭の書付	子	年	7月 1日	長崎今鍛冶屋町松村嘉重	元山様	状	16.8 × 30.0	
207	東大史料（購）	143	〔阿蘭陀通詞人名書付〕	岩瀬弥十郎、岩瀬弥七郎、石橋助十郎、森山栄之助、楢林栄一郎、小川慶右衛門の人名書付	—	年	1月 1日	—	—	状	15.5 × 9.3	
208	東大史料（購）	144	〔寛〕 〔兵三郎後家、享和元酉年病死・届〕	法花宗本蓮寺兵三郎後家、享和元酉年に病死のため届	亥	年	8月 1日	伊勢町	本石灰町	状	15.7 × 17.0	
209	東大史料（購）	145	〔寛〕 〔大工工事代金内訳〕	本材、石材、大工手間賃等の代銭書付	—	年	1月 1日	和平	—	状	30.5 × 44.6	
210	東大史料（購）	146	〔寛（肴代受取）〕	肴代として「貫文」の受領証	子	年	7月 15日	利右衛門	—	状	16.1 × 11.7	
211	東大史料（購）	147	〔寛（金太郎差紙）〕	庵屋町居住の金太郎が近日中に本石灰町に差紙を差出す予定であることからしめるべき処置を依頼した書付	卯	年	12月 1日	差出：庵屋町（印）	本石灰町	状	16.8 × 22.0	
212	東大史料（購）	148	〔乍俣口上書〕	竹中どわが久右衛門に借りている借銀の返りにあたり、籠銀から借銀を年貢で引取るようお願いした書付	未	年	12月 1日	竹中どわ（印）	本山重野右衛門殿	状	15.6 × 47.3	
213	東大史料（購）	149	〔寛〕 〔亥十二月メ高家置屋につき書付〕	亥12月メ高として家置屋896分の書付	子	年	7月 1日	里隣	本石灰町本山様	状	17.5 × 17.9	
214	東大史料（購）	150	〔火鉢代など金二両二分につき書付〕	火鉢代など金2両2分受取の書付	—	年	3月 18日	三川屋庄吉	嶋台様二而横世	状	15.5 × 21.1	前欠
215	東大史料（購）	151	〔乍俣口上之書（どわ年賦銭高三貫文取立承知）〕	どわ独身にて難儀のため、年賦銭高として三貫文として取立方承知につき書付	未	年	12月 1日	平田新兵衛 家久右衛門（印）	本山重野右衛門殿	状	15.7 × 67.0	
216	東大史料（購）	152	〔寛〕 〔船宿祝儀につき書付〕	船宿祝儀につき13両3歩1朱の書付	—	年	1月 1日	—	—	状	15.2 × 31.3	
217	東大史料（購）	153	〔寛〕	12月18日～21日の丸荷役日歴帳代22貫文精算	—	年	12月 1日	宗吉（印）	（本石灰町）	状	16.5 × 48.7	
218	東大史料（購）	154	〔寛〕 〔嘉永五子七月かまと賃引取控〕	籠銀の分配についての書付。亥十二月、1貫文宛、此り百三十四文	—	年	1月 1日	—	—	横帳	13.5 × 39.0	
219	東大史料（購）	155	〔口述手控〕	大村上総介勝手方地子不納につき年賦納め方につき書付	卯	年	12月 1日	渡辺藤一	銅座懸御役人中	状	— × —	
220	東大史料（購）	156	〔万次郎鑑銀差引勘定控〕	万次郎、卯五郎、常吉らの鑑銀等の差引勘定控	子	年	7月 29日	—	—	状	16.3 × 21.6	
221	東大史料（購）	157	〔乍恐申上候口上之寛〕	田口長治右衛門が血症のため回復の見込みがないことを記した診断書	未	年	正月 1日	草野周岳	両年番宛	状	16.2 × 18.9	
222	東大史料（購）	158	〔寛〕 〔家持森ゆき所持の家屋敷を買受けたき届〕	随所除家持である森ゆきが所持する家屋敷半箇所を銀560目で買い受けたい旨を願い出た書付	寅	年	2月 21日	賈主御伊兵衛（印）・講島人池上新蔵（印）	御役人御衆中	状	25.6 × 23.0	
223	東大史料（購）	159	〔金高書付〕	本山・横瀬・あら木・今村・つる屋など項目ごとの金高書付	—	年	1月 1日	—	—	状	24.8 × 35.3	
224	東大史料（購）	160	〔寛〕	1貫36文の受領証	子	年	7月 15日	燃灯屋	本山様	状	15.9 × 13.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
225	東大史料（購）	161	寛	周町印一張124文・尺六寸高張1貫200文代銭の書付	子	年	7 月 一 日	燃灯屋	本石灰町御役場	状	15.7 × 19.1	
226	東大史料（購）	162	寛式番船別段売荷渡	氷砂糖、一番白砂糖、二番白砂糖など取引高書付	一	年	一 月 一 日	宿大黒町	一	状	13.5 × 38.8	
227	東大史料（購）	163	〔表卸屋番・表小使等人名書付〕	表卸屋番・表小使等51人の人名書付	一	年	一 月 一 日	一	一	状	15.9 × 98.7	
228	東大史料（購）	164	〔傷害事件内済破段届につき書付〕	打撃事件の被害者である友次と庄助の容態が悪化したために、当初予定していた内済が破談する旨を記した下書	一	年	一 月 一 日	一	一	状	16.8 × 19.6	
229	東大史料（購）	165	寛 (大工工事代金内訳)	木材、竹材、大工手間賃等の代銭書付	一	年	9 月 29 日	嘉藏太・直助	一	状	17.8 × 36.2	
230	東大史料（購）	166	寛三番船別段売荷渡	氷砂糖、吉番白砂糖、真鍮など取引高書付	一	年	一 月 一 日	宿本古川町	一	状	13.5 × 38.8	
231	東大史料（購）	167	〔袋〕自身番所西門番所建替井大木戸屋根替惣石灰諸控	袋のみ	文政8	年	5 月 一 日	乙名本山邦松・組頭佐藤甚兵衛・同平田新三郎・日行使人右衛門・借家惣代吉助・同嘉藤太・同正井衛・町小使久八	一	袋	24.5 × 13.8	
232	東大史料（購）	168	寛吉番船追売荷渡・別段売	吉番絹油・吉番毛氈・送り砂糖など取引高書付	一	年	一 月 一 日	宿今鍛冶屋町	一	状	27.9 × 40.4	
233	東大史料（購）	169	丑拾番船別段売荷渡	銭一番印石、氷砂糖、白砂糖など取引高書付	一	年	一 月 一 日	宿古町	一	状	13.3 × 39.0	
234	東大史料（購）	170	旧通称実名区別開申書	黒川千代美の祖父黒川正英は旧通称として栄三郎を使用していたが、戸籍簿には旧通称が掲載されていないことからその旨を確認を求めた書付	明治31	年	10 月 21 日	黒川千代美	長崎県今小松原英太郎殿	状	24.0 × 29.9	
235	東大史料（購）	171	寛	亥7月分メ高、御入用等として54匁の書付	子	年	7 月 一 日	扇屋	元山様	状	17.3 × 33.5	
236	東大史料（購）	172-1	〔代銭書付〕	肴台繕い等200文の書付	子	年	7 月 一 日	松物屋政右衛門	本山様	状	17.3 × 22.4	
237	東大史料（購）	172-2	〔代銭書付〕	小鯛・せしから・蒲鉾等1貫280文の書付	子	年	7 月 一 日	利左衛門	本山様	状	29.5 × 16.0	
238	東大史料（購）	172-3	寛	かがみ・もくまん等65文の書付	子	年	7 月 一 日	餅屋	本山様	状	16.6 × 17.7	
239	東大史料（購）	172-4	寛	せんへい・まんちう・はさみくわし等1貫920文の書付	子	年	7 月 一 日	ふしみ屋	本山様	状	17.8 × 28.3	
240	東大史料（購）	172-5	〔代銭書付〕	にうめん・うとん・ひやむむ等3貫200文の書付	子	年	7 月 一 日	北嶋屋	本山様	状	16.0 × 49.5	
241	東大史料（購）	172-6	寛	四斗樽・ひしやく・おかわ等776文の書付	子	年	7 月 一 日	瑞清	本山様	状	16.0 × 63.0	
242	東大史料（購）	172-7	〔代銭書付〕	小柴胡湯・六味地黄等1貫248文の受領証	子	年	7 月 13 日	安川店	本山様	状	16.2 × 17.1	
243	東大史料（購）	172-8	寛	くし・におひひんげ、きせる等400文の書付	子	年	7 月 一 日	富田	本山様	状	16.1 × 22.8	
244	東大史料（購）	172-9	寛	六角火入として88文の書付	子	年	7 月 一 日	山田屋	本山様	状	14.7 × 11.9	
245	東大史料（購）	172-10	寛	河内嶋として2貫文の書付	子	年	7 月 一 日	綿屋	本山様	状	15.8 × 16.2	
246	東大史料（購）	172-11	寛	かなきん、米澤、嶋縮綿等の法張として1貫372文の書付	子	年	7 月 一 日	一	やから町本山様	状	16.6 × 41.7	
247	東大史料（購）	172-12	〔代銭書付〕	内容：ぶく、進物さかな、白ふか等5貫120文の書付	子	年	7 月 一 日	儀助	本山様	状	16.4 × 74.2	
248	東大史料（購）	172-13	寛	〔五月八日 一貳口 御宅にて…〕	子	年	7 月 一 日	かじ	屋から町本山様	状	17.8 × 20.0	
249	東大史料（購）	172-14	寛	6貫200文の書付	子	年	7 月 一 日	るい	本山様	状	16.1 × 15.4	
250	東大史料（購）	172-15	寛	天神御講料として18匁の書付	子	年	7 月 一 日	吉田屋	本石灰町本山様	状	25.0 × 16.6	
251	東大史料（購）	172-16	寛	閑合として240文の書付	子	年	7 月 一 日	塩屋店	生くい町御役場様	状	15.7 × 21.3	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦	横	備考
252	東大史料（購）	172-17	寛	早前えま等「貫724文の書付	子	年	7 月 一 日	あわしや	栄蔵様	状	16.1 × 19.3		
253	東大史料（購）	172-18	寛	乙印ぶら、ふり焼灯等600文の書付	子	年	7 月 一 日	桃灯屋	本山様	状	16.1 × 16.1		
254	東大史料（購）	172-19	寛	岸しまの尺として2貫文	子	年	7 月 一 日	船大工町綿屋 伊兵衛	本山様	状	16.4 × 21.0		
255	東大史料（購）	172-20	寛	うなぎとして10貫280文の書付	子	年	7 月 一 日	高善	本山様	状	17.9 × 15.3		
256	東大史料（購）	172-21	寛	本折15反等として4貫48文の書付	子	年	7 月 一 日	柴屋栄助	やから町本山 様	状	13.9 × 17.8		
257	東大史料（購）	172-22	寛	炭代として1貫424文の書付	子	年	7 月 一 日	今石灰町布武	本山様	状	16.6 × 15.3		
258	東大史料（購）	172-23	寛	薪代として4貫464文の書付	子	年	7 月 一 日	木友	本山様	状	15.9 × 18.7		
259	東大史料（購）	172-24	〔代銭書付〕	濁酒代として書付	西	年	7 月 一 日	木綿屋店	本石灰町本山 様	状	17.5 × 20.8		
260	東大史料（購）	172-25	〔代銭書付〕	えり2つとして330文の書付	子	年	7 月 一 日	森本店	本山様	状	16.0 × 12.4		
261	東大史料（購）	173-1	〔綴紐〕	綴紐のみ	－	年	一 月 一 日	－	－	紐	－ × 一		
262	東大史料（購）	173-2	〔書簡〕	「御出勤被遊候ハハ私罷出申候間一同に罷出可申候…」	－	年	7 月 5 日	石本	本山様	状	16.0 × 44.6		
263	東大史料（購）	173-3	寛	元利66面のうち50面受取につき書付	－	年	11 月 22 日	本山	－	状	16.4 × 36.4		
264	東大史料（購）	173-4	〔出島仲宿につき関係書簡〕	(1) 〔書簡〕 （去年之通思召も無之候ハハ御月番之事故貴家ニ而当年限出島懸り被仰付言被仰渡）	－	年	7 月 3 日	江口	本山様	状	16.3 × 31.7		
				(2) 〔書簡断簡〕（出島仲宿も是迄之通）	－	年	一 月 一 日	村尾	出島懸り	状	16.2 × 10.3		
				(3) 〔書簡〕 （出島懸り筆者井仲宿之様於私存寄無御座候）	－	年	一 月 3 日	石本	本山様	状	16.0 × 20.6		
				(4) 寛（天章米代金）	－	年	7 月 10 日	－	－	状	13.8 × 22.2		
				(5) 〔人名書付〕（万屋町内口勘太夫外三名）	－	年	一 月 一 日	－	－	状	13.6 × 11.9		
				(6) 〔書簡〕 （出島小札私方江は請取不申、掛り之者れハ定而今明之内出島之名より可相渡と奉存候、掛り筆者文庫之儀是は何方江御座候哉、私も寛不申、内口氏江御問合せ可被成候）	－	年	7 月 4 日	村尾	本山様	状	15.9 × 49.5		
265	東大史料（購）	174-1	〔包紙〕銅座吉郎助	包紙のみ	－	年	一 月 一 日	銅座吉郎助	－	包紙	32.0 × 26.6		
266	東大史料（購）	174-2	乍彈口上書	笠縫渡世をしている銅座弥の吉郎助が水上帷子地の反物等4枚分の代銀未私のため相手方を訴えた書付	〔文化5〕	年	10 月 一 日	銅座吉郎助 （印）	本山・藤之丞 殿・藤田清九	状	－ × 一		
267	東大史料（購）	174-3	寛	越後紺紺等銀262両5分の代銀書付	〔文化5〕	年	10 月 一 日	吉郎助	－	状	15.4 × 29.4		
268	東大史料（購）	174-4	差上申一札之事 （願筋之儀二付御役場を差越取締方へ願書を差出候ニ付託び一札）	吉郎助は本来であれば当該一件に関する願書を居町の御役場に提出すべきところ取締方に差し出したことに対して陳謝した書付	〔文化5〕	年	9 月 23 日	銅座吉郎助 （印）	御役場	状	25.0 × 30.2		
269	東大史料（購）	175	〔差紙送付依頼〕	本石灰町居住のきくについて、木場名土五郎方で引き請けとなったことから茂木村が本石灰町に対し、差紙を送付するよう依頼した書付	卯	年	12 月 一 日	茂木村（印）	本石灰町	状	16.9 × 27.5		
270	東大史料（購）	176	〔差紙送付依頼〕	本石灰町居住のわいについて、村川船津徳之十で引き請けとなったことから茂木村が本石灰町に対し、差紙を送付するよう依頼した書付。「頭取庄屋森岡平左衛門宛」との奥書あり	卯	年	12 月 一 日	茂木村（印）	本石灰町	状	16.9 × 31.5		
271	東大史料（購）	177	寛（あり、差紙受領）	本石灰町から茂木村に転居したあひの差紙を受領した旨を記した書付	卯	年	12 月 一 日	茂木村頭取庄 屋森岡平左衛 門（印）	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	16.5 × 30.8		

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
272	東大史料 (購)	178	寛(菊十、差紙受領)	本石灰町から浦上村別に転居した菊十の差紙を受領した旨を記した書付	卯	年	12 月 ー 日	浦上村洲庄屋 志賀九郎助 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	16.6 × 18.8	
273	東大史料 (購)	179	寛(ひて、差紙近日中差出)	西浜町居住のひてが近日中に本石灰町に差紙を差出する予定であることからしからるべき処置を依頼した書付	卯	年	12 月 ー 日	西浜町 (印)	本石灰町	状	17.4 × 24.7	
274	東大史料 (購)	180	[箇所・竜銀差引勘定書付]	本石灰町の箇所竜銀7貫783匁余の差引勘定書付	子	年	12 月 ー 日	ー	ー	状	27.1 × 10.0	
275	東大史料 (購)	181	(漂流船二付褒賞)	隅州漂流船懸り手附出猪のため褒美銀30目づつ下賜。対象者は本石灰町組頭清水源右衛門、佐藤甚兵衛、掛宿町筆者鶴田重内、本石灰町日行使入右衛門	ー	年	4 月 29 日	ー	ー	状	16.2 × 62.7	
276	東大史料 (購)	182	寅五番船追売荷渡	青葉、肉桂、石刷菊亭所本など取引高書付	ー	年	ー 月 ー 日	宿出来大工町	ー	状	14.0 × 40.5	
277	東大史料 (購)	183	記(家賃)	家賃の計算請求書控え	[明治41]	年	8 月 ー 日	本山	奥田殿	状	18.0 × 35.5	
278	東大史料 (購)	184	寛	砂糖等を買った際に提出する書付の雛形	ー	年	ー 月 ー 日	何之何某	船頭方宛	状	15.7 × 25.3	
279	東大史料 (購)	185	庄右衛門手代江戸町帳面之者	端裏書「庄右衛門手代江戸町帳面之者」	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	状	ー × ー	
280	東大史料 (購)	186	[相続税額]	相続税額89円86銭の計算書。裏面は諸品代書付	明治39	年	12 月 12 日	長崎税務署長 伊岐口	ー	状	17.5 × 36.0	
281	東大史料 (購)	187-1	寛(今井隆節外二名町内人別確認)	東浜町の今井隆節ほか2人につき町内の帳面にて相違ない旨通知	亥	年	閏6 月 ー 日	東浜町 (印)	本石灰町	状	16.3 × 24.8	
282	東大史料 (購)	187-2	乍權口上之寛(東浜町今井隆節ほか私借家江召置申度奉存候)	万屋亀吉所有の借家に錦徳仕として今井隆節ほか2人を居住させることを願い出た書付	[文政10] 亥	年	閏6 月 ー 日	万屋亀吉 (印)	御町御役人御 衆中	状	16.5 × 29.3	
283	東大史料 (購)	188-1	寛(きく、町内人別確認)	金屋町きくにつき町内の帳面にて相違ない旨通知	亥	年	7 月 ー 日	金屋町 (印)	本石灰町	状	16.9 × 28.5	
284	東大史料 (購)	188-2	寛(つる、かね、町内人別確認)	諏訪町つるとかねにつき町内の帳面にて相違ない旨通知	亥	年	7 月 ー 日	諏訪町 (印)	本石灰町	状	16.3 × 27.0	
285	東大史料 (購)	188-3	乍權口上之寛(金屋町きく、諏訪町つる、かね、唐入屋敷野菜肴屋卯兵衛と申者伯母妹嫁二而同居、私方江借家)	万屋亀吉所有の借家に金屋町きく、諏訪町つる、かね(唐入屋敷野菜肴屋卯兵衛と申者伯母妹嫁)を居住させることを願い出た書付	亥	年	7 月 ー 日	万屋亀吉 (印)	御町御役人御 衆中	状	17.4 × 40.3	
286	東大史料 (購)	189-1	寛(むら外二名、町内人別確認(人別送り状))	中紺屋町のむらほか2人につき町内の帳面にて相違ない旨通知	戌	年	11 月 ー 日	中紺屋町 (印)	本石灰町	状	18.4 × 30.8	
287	東大史料 (購)	189-2	乍權以書付御願申上候(中紺屋町藤吉後家むら外二名、私信毛仕度段及相談候)	浦川屋善平治所有の借家に中紺屋町藤吉後家むらほか2人を居住させることを願い出た書付	戌	年	11 月 ー 日	本紺屋町浦川 屋善平治 (印)	御町御役人御 衆中	状	25.0 × 24.8	
288	東大史料 (購)	190	文化九年申十二月御宿町二付諏訪社御神事御供町之節々一町江銀式枚宛被下候旨達有之節之手頭	朱書にて「文化九年申十二月御宿町二付諏訪社御神事御供町之節々一町江銀式枚宛被下候旨達有之節之手頭…」と記された短冊状の書付	文化9	年	12 月 ー 日	ー	ー	状	14.8 × 3.9	
289	東大史料 (購)	191	寛(盗贓品、盗賊方より受け取りの盾)	町屋敷借屋の徳吉が盗賊方に盗品届を出していた6品のうちろ品が発見され返却され、それを受領した旨を記した書付	酉	年	10 月 20 日	町屋敷借屋徳吉 (印)	本山重野右衛門殿	状	15.9 × 34.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
290	東大史料 (購)	192	寛 (金銭受取)	1貫200文の受領証	子	年	7 月 15 日	るい	本山様	状	17.6 × 16.6	
291	東大史料 (購)	193	寛 (附町被下銀控除内訳)	附町にともなう被下銀の差引勘定の内訳を記した控	—	年	— 月 — 日	—	—	状	15.5 × 33.0	
292	東大史料 (購)	194-1	〔書簡〕	金子才助一件につき自殺後の顚末を記した書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.2 × 14.2	後欠
293	東大史料 (購)	194-2	〔二川大学など止宿者 人名書付〕	筑前二川大学 (異国語けいこ)、予州松山ノラン医者長野垣齋など止宿者の人名書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.0 × 32.2	
294	東大史料 (購)	194-3	〔付箋〕	「長助仲末五郎廿六歳」と記された短冊状の紙片	—	年	— 月 — 日	—	—	付箋	16.3 × 6.0	
295	東大史料 (購)	194-4	〔人名書付〕	筑前桑原入江ほか3人	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.3 × 82.7	
296	東大史料 (購)	194-5	〔人名書付〕	土州柳前政吉ほか2人	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.2 × 18.2	
297	東大史料 (購)	194-6	〔人名書付〕	筑前田村小次郎ほか9人	—	年	— 月 — 日	—	—	状	18.0 × 17.3	
298	東大史料 (購)	194-7	〔人名書付〕	島原湯太夫侍本田忠蔵、土州海援隊陸健次郎ほか3人	—	年	— 月 — 日	—	—	状	15.5 × 25.7	
299	東大史料 (購)	194-8	〔人名書付〕	布津村平ノ坂父長助ほか2人	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.3 × 12.8	
300	東大史料 (購)	194-9	〔口書〕	天草宮田中村魯之助、荏州竹之内利左衛門、暗殺12人、3月島原港にて同宿者健兵衛 (30歳ばかり) と一節の際に竹之内利左衛門らが寄合町引田屋で異人2人を殺害との書付	—	年	7 月 6 日	—	—	状	16.6 × 28.3	
301	東大史料 (購)	194-10	〔付箋〕	「久留米柳川より 広徳庵二飯たき 栄助 三十二歳」と記された短冊状の紙片	—	年	— 月 — 日	—	—	付箋	16.4 × 6.5	
302	東大史料 (購)	194-11	〔本田忠蔵二付探索〕	7月3日から9月3日までの本田忠蔵の行動履歴を記した書付	—	自7 月 3 日至9 月 3 日	—	—	—	状	16.3 × 34.4	
303	東大史料 (購)	194-12	〔金子才吉二付探索〕	昨年3月以降の金子才吉の長崎での行動履歴を記した書付。金子は筑前藩大砲方、止宿伝習稽古と紹介されている	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.0 × 35.6	
304	東大史料 (購)	194-13	〔基之助二付探索〕	村井新八郎甥の基之助について人体等を記した書付	—	年	7 月 6 日	—	—	状	16.3 × 31.6	
305	東大史料 (購)	194-14	〔付箋〕	白紙の短冊状の紙片	—	年	— 月 — 日	—	—	付箋	16.8 × 4.4	
306	東大史料 (購)	195	〔買物帳〕	ノゾキ眼鏡等	—	年	— 月 — 日	—	—	小横帳	8.0 × 19.0	
307	東大史料 (購)	196	類焼かり銭引取高	壹貫文宛、五百文宛など火災発生時に類焼の程度に応じて支給された銭の書付カ	—	年	— 月 — 日	—	—	状	17.7 × 49.6	
308	東大史料 (購)	197-1	寛 (申次番船火の元番貫砂糖代受取)	申次番船火の元番貫砂糖代として銀427匁余を受け取った旨を記した受領証	申	年	12 月 29 日	鶴之助 (印) ・ 林蔵 (印)	本山重兵衛殿	状	16.2 × 35.3	
309	東大史料 (購)	197-2	寛 (元利受取)	辰正月方取替として523匁余の代銀書付	申	年	7 月 — 日	河仁	鶴田得五郎様	状	16.4 × 27.9	
310	東大史料 (購)	197-3	寛	正銀にて近々取替メ高、中村方借入銀高として6貫783匁余の差引勘定控	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.0 × 18.6	
311	東大史料 (購)	197-4	寛 (鶴田氏取替銀計算書)	鶴田氏取替額として1貫50匁余の計算書	申	年	8 月 9 日	河甚	佐藤様	状	16.5 × 29.2	
312	東大史料 (購)	197-5	〔借用銀主書付〕	竹谷勘右衛門などからの借入銀を記した書付	自文化元 至文化9	年	— 月 — 日	—	—	状	16.2 × 58.2	
313	東大史料 (購)	198	御吟味二付申上候寛	弥作は天明4年以降、西浜町の塩崎三右衛門方で居住していたが、銅座跡落合利右衛門の養子になることから、落合卯兵衛と改名したい旨を願い出た書付	辰	年	8 月 2 日	宮地村元帳面 弥作	—	状	16.9 × 53.8	
314	東大史料 (購)	199	辰十一月十日浦五島町 入来屋重平旅行二付代 として同人手代之由大 井手町門助申出	判新・丸左彦太夫の入来屋への滞在履歴を記した書付	〔辰〕	年	— 月 — 日	—	—	状	24.5 × 33.8	
315	東大史料 (購)	200	〔付箋〕	「日雇頭市兵衛」[申年踏絵懸合手紙三通]と記された短冊状の紙片	—	年	— 月 — 日	—	—	付箋	13.5 × 3.9	
316	東大史料 (購)	201	〔手紙〕	自分貫銀6匁余が引不足のため通知	—	年	10 月 29 日	年番	本山重之丞様	状	16.4 × 27.2	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
317	東大史料 (購)	202	寛 (紛失十二品盗賊方より受取)	竜田屋茂三郎後家のかかひ盗賊方に盗品届を出していた17品のうち12品が発見され返却され、それを受領した旨を記した書付	西	年	6月29日	竜田屋茂三郎後家とか (印)	本山重兵衛殿	状	16.7 × 49.2	
318	東大史料 (購)	203-1	乍檀口上之寛 (新橋町帳面庄兵衛(浄土宗)、平日料理渡世、私達家江召置)	紺屋とせ家代孫吉所有の建屋に平日は料理人として働く新橋町帳面庄兵衛(53歳)を起居させることを願い出した書付	未	年	11月一日	紺屋とせ家代孫吉 (印)	御町御役人御衆中	状	17.2 × 27.2	
319	東大史料 (購)	203-2	寛 (庄兵衛当町帳面之者に相違無御座)	新橋町の庄兵衛につき町内の帳面にて相違ない旨通知	未	年	11月一日	新橋町 (印)	本石灰町	状	16.4 × 16.0	
320	東大史料 (購)	204	丑拾番船追売荷渡し	けんちう、羅紗、毛氈など取引高書付	一	年	一月一日	宿古町	一	状	13.9 × 45.5	
321	東大史料 (購)	205	寛 (紙包、さいふ、たばこなど)	紙包、さいふ、たばこなど諸品物数量書付	一	年	一月一日	一	一	状	15.2 × 40.4	
322	東大史料 (購)	206	物件之表示 乍檀口上之寛 (荒木藤十郎後家つる所持家屋私譲り請度)	長崎市古町7番戸の建屋及び建坪数など書付	[近代]	年	一月一日	一	一	状	18.3 × 25.4	
323	東大史料 (購)	207-1	荒木伊助が荒木藤十郎後家つるが所持する家屋敷(箇所を譲り受けることから名義変更を願い出した書付)	譲り主荒木伊助(印)・請人荒木新右衛門 (印)	西	年	5月一日	本山邦松殿・組頭御衆中 (印)	本山邦松殿・組頭御衆中	状	18.0 × 40.0	
324	東大史料 (購)	207-2	乍檀口上之寛 (私所持の家屋、従弟伊助江譲り渡す)	荒木藤十郎後家つるが所持する家屋敷(箇所を従弟の荒木伊助に譲ることから名義変更を願い出した書付)	西	年	5月一日	譲り主新町荒木藤十郎後家つる(印)・請人船大工町荒木安太郎 (印)	本山邦松殿・組頭御衆中	状	17.9 × 38.0	
325	東大史料 (購)	208	寛 (せき、差紙御町内江遣申候)	江戸町居住のせきが近日中に本石灰町に差紙を差出する予定であることからしかるべき処置を依頼した書付	卯	年	12月一日	江戸町 (印)	本石灰町	状	16.3 × 22.8	
326	東大史料 (購)	209	地上権設定契約証書	本山藤十郎が松田友八郎の家屋として使用するために本石灰町19番を貸し付けた際の契約証書の下書	明治42	年	一月一日	本山	一	状	23.8 × 32.6	
327	東大史料 (購)	210	[筑後権津中原町大工伊作手配書]	伊作は盆前に国許卒を破り逃走した旨を記した書付	一	年	一月一日	一	一	状	24.4 × 33.6	
328	東大史料 (購)	211	寛(菓子代)	菓子代として1貫918文の代銭書付	子	年	7月一日	伏見屋	本山様	状	16.7 × 33.6	
329	東大史料 (購)	212	寛三番船本売并別段売荷物送り砂箱商人渡	寛三番船の仕役が延引したことなど、唐船の積荷渡に関する書付	一	年	6月朔日	一	一	状	17.2 × 24.9	
330	東大史料 (購)	213	寛(蒲むしろ代)	蒲むしろ代として金1歩の代金書付	子	年	7月一日	大和屋	本山様	状	16.3 × 13.6	
331	東大史料 (購)	214-1	乍檀口上之寛 (私所持の家屋敷町内砂屋直助江売渡申度存候)	柳佐兵衛が所持する家屋敷1箇所を代銀2貫150目で砂屋直助に売り渡すことから名義変更を願い出した書付	亥	年	4月一日	柳佐兵衛 (印)・請人瀬戸番兵衛	本山重之丞殿・組頭御衆中	状	16.7 × 26.1	
332	東大史料 (購)	214-2	乍檀口上之寛 (柳佐兵衛所持之家屋敷私買請申度存候)	砂屋直助が柳佐兵衛の所持する家屋敷(箇所を代銀2貫150目で買い請けることから名義変更を願い出した書付)	亥	年	4月一日	砂屋直助 (印)・請人伏見屋番兵衛 (印)	本山重之丞殿・組頭御衆中	状	16.5 × 30.7	
333	東大史料 (購)	215	寛	1貫200文の代銭受領証	子	年	7月15日	かじ	本山様	状	18.0 × 18.8	
334	東大史料 (購)	216	寛 (天満宮修復寄進落手)	天満宮修復料として本石灰町が銀50目を寄進した旨を記した受領証	子	年	12月一日	大徳寺 (印)	本石灰町御役場	状	16.1 × 17.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
335	東大史料 (購)	217	一礼之事 (妙西体忠次郎事寒州 急病相果候二付様々 風聞有之、不審)	普門院の弟子となっていた忠次郎(寒州・妙西の実子)が 急病で死去した件について、様々な風聞が流れているが、 落胆のあまり発病した妙西に20枚御合力が支給されたこと もあり、今後親類としては今後無心がましいことや普門院 に対して異議を構える事はない旨を誓約した書付	明和7	年	3月27日	えびす町林左衛門・同人妻 寒州伯母い 清吉・同人妻 寒州伯母諏訪 町要助後家つ る・寒州実母 妙西	本山重左衛門 殿	状	16.4 × 51.3	
336	東大史料 (購)	218	寛 (唐船出帆之前、唐人 贈并当代請求書)	唐船出帆の際に宵と朝の唐人贈并当代として銀32匁の請 求書	申	年	12月一日	高村市三郎 (印)	本石灰町御役 人御衆中	状	16.8 × 23.3	
337	東大史料 (購)	219	寛	2貫文の受領証	子	年	7月15日	綿伊	本山様	状	16.6 × 16.0	
338	東大史料 (購)	220	【借用銀高書付】	今籠町同役及び町内承次郎などから借銀	一	年	一月一日	一	一	状	15.8 × 21.1	
339	東大史料 (購)	221	寛(茶代など)	「茶代…」などと記された書付	一	年	一月一日	一	一	状	16.8 × 10.4	後欠
340	東大史料 (購)	222	【包紙】寛式番船	包紙のみ	一	年	一月一日	一	一	状	27.0 × 20.2	
341	東大史料 (購)	223	【竈銀割渡勘定控】	竈銀の割渡勘定控。「右竈銀両度二相渡、前後之節ハ不依 何品引方無之、全ク割渡候二付、十二月渡二請引方相立 候」とある	一	年	一月一日	一	一	状	16.4 × 17.4	
342	東大史料 (購)	224	(木綿地白絹嶋形男単 物など二品盗難届)	亀吉が入用の品物を調べたところ2品の紛失が発覚。亀吉 は盗難を疑って掛け出ている	子	年	5月22日	亀吉 (印)	本山重之丞殿	状	16.4 × 21.8	前欠
343	東大史料 (購)	225	乍彈口上書 (病氣欠礼詫ひ)	病氣欠礼の詫ひ、大坂堂島天王寺屋善兵衛の消息等を 綴った書付の下書	一	年	一月一日	一	一	状	15.0 × 182.4	
344	東大史料 (購)	226	【断簡】	御願之妻漸く出来につき書付	一	年	文月11日	一	一	状	17.7 × 27.5	前欠
345	東大史料 (購)	227	寛 (本石灰町とみ子長重、町年寄より調子書無 之、願書却下二付、当 冬は差紙見合)	本石灰町とみ子である長重、町年寄からの調子書がなく願 書取り下げとなったため、当冬は差紙を見合せるよう本石 灰町に処理を依頼した書付	戌	年	12月一日	聖福寺役僧 (朱印)	本石灰町	状	17.7 × 30.0	
346	東大史料 (購)	228-1	寛 (櫃長持代残銀受取)	櫃長持代残りとして70目1分受領証	寅	年	7月28日	櫃屋与兵衛	鶴田様	状	17.0 × 17.0	
347	東大史料 (購)	228-2	寛(櫃長持代銀明細)	櫃長持代銀の明細を綴った請求書	寅	年	7月一日	櫃屋与兵衛	鶴田様	状	15.9 × 81.4	
348	東大史料 (購)	228-3	寛(櫃長持代銀明細)	櫃長持代銀の明細を綴った請求書	寅	年	2月一日	櫃屋与兵衛	本石灰町御役 人御衆中様	状	16.3 × 37.6	
349	東大史料 (購)	228-4	寛(櫃長持代銀明細)	櫃長持代銀の明細を綴った請求書	寅	年	3月一日	櫃屋与兵衛	本石灰町御役 人御衆中様	状	16.3 × 42.0	
350	東大史料 (購)	229	【断簡】	「此善ひ引換候処無寄持備り候…」	一	年	一月一日	一	一	状	17.5 × 3.5	
351	東大史料 (購)	230	【積荷書付】	茶碗菓、甘草、氷砂糖など積荷の数量を書付	一	年	一月一日	一	一	状	17.1 × 24.7	
352	東大史料 (購)	231	【断簡】	「申七月廿三日」	申	年	7月23日	一	一	状	17.5 × 1.3	
353	東大史料 (購)	232	【附町銀高書付】	附町にともなう井当折、付町遣私等入用銀の書付 兵左衛門死失一件につき江戸町源助他3名の関係者の動 向を口述した書付	戌	年	7月9日	一	一	状	16.5 × 35.6	
354	東大史料 (購)	233	八月四日廻屋町弥助申口	兵左衛門死失一件につき江戸町源助他3名の関係者の動 向を口述した書付	一	年	8月4日	一	一	状	16.0 × 15.2	
355	東大史料 (購)	234	乍恐口上書 (幸七・兵左衛門行倒 病死二付書面を以御 届)	本石灰町の幸七と同町の兵左衛門は既に病死している旨を 届け出した書面の控。東京大学史料編纂所購入分23の関連 史料カ	亥	年	8月一日	何町乙名連印	御奉行所	状	16.3 × 33.4	
356	東大史料 (購)	235	【紙縫】	紙縫のみ	一	年	一月一日	一	一	紐	一 × 一	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
337	東大史料 (購)	236-1	寛 (寿平他一家町内帳面 之者相違無之)	新興普町の寿平(ほか3人)につき町内の帳面にて相違ない旨通知	申	年	3 月 ー 日	新興普町 (印)	本石灰町	状	16.1 × 27.2	
338	東大史料 (購)	236-2	寛 (私建家江寿平一家召 置度願、平日日用稼 仕袋)	初五郎所有の建屋に平日は日雇稼を生業としている新興普町帳面寿吉 (50歳) ほか3人を起居させることを願い出した書付	申	年	3 月 ー 日	初五郎 (印)	御町御役人御 衆中	状	16.3 × 34.9	
339	東大史料 (購)	237	[幸七及び平左衛門に つき書付]	幸七及び平左衛門の家族や生国、経歴等を記した書付。東京大学史料編纂所購入分234の関連史料カ 封筒のみ	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	状	15.7 × 60.8	
360	東大史料 (購)	238-1	[封筒]	亥12月ノ高として1792分の代銀書付	ー	年	ー 月 ー 日	釜喜	本山様	封筒	16.4 × 4.8	
361	東大史料 (購)	238-2	寛	亥12月ノ高として1792分の代銀書付	子	年	7 月 ー 日	釜喜	本山様	状	16.6 × 15.5	
362	東大史料 (購)	238-3	寛	亥12月ノ高として1792分の代銀書付	子	年	7 月 ー 日	とね	本山様	状	16.7 × 20.0	
363	東大史料 (購)	238-4	寛	松重18本として448文の代銭書付	子	年	7 月 ー 日	釜喜	本山様	状	16.7 × 17.3	
364	東大史料 (購)	239	旧家禄ニ対スル不足金 御下賜願	本山勝十郎は明治3年に士族の兼業が禁じられたことから、当時の地方官からの説諭に応じて農商転籍願いを提出し平民となったが、説諭に応じなかった者は明治9年の秩禄処分まで家禄が支給されるなど、不公平を感じる内容であったため不足分の金240円40銭の支給を願い出した書付の捏	明治31	年	10 月 21 日	本山勝十郎	大蔵大臣松田 正久殿	綴	24.4 × 16.0	
365	東大史料 (購)	240	[書簡]	「御金兄様」の退役願書提出にともなう添書の作成について段取り等を記した書付	ー	年	4 月 12 日	中村作五郎・ 野口善作	中村三次平様	状	16.7 × 52.3	
366	東大史料 (購)	241	寛 (清蔵、よし差紙受取)	清蔵とよしの転居に際して本石灰町から差紙を受領したことを記した書付	卯	年	12 月 ー 日	彦木村頭取庄 屋森岡平左衛 門 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	16.5 × 32.0	
367	東大史料 (購)	242	寛	3月10日付にて扇屋として896分の代銀書付	子	年	7 月 ー 日	かね吉	やから町本山 様	状	16.2 × 17.2	
368	東大史料 (購)	243	[武十郎欠落届]	本石灰町柳佐兵衛仲の武十郎が文化11年3月欠落、同11月立帰し、去巳4月再度欠落の本届をしたことの書付	文化11	年	3 月 ー 日	ー	ー	状	16.0 × 15.5	
369	東大史料 (購)	244	[書簡]	煙草屋調達品高直につき金子差詰まり、借用したき旨書付	ー	年	3 月 28 日	松浦家口口 様	本山様御母堂 様	状	16.6 × 44.2	
370	東大史料 (購)	245	[付箋]	「此願書百田紙二書直し、濱田様江差出ス 申三月廿五日 上紙者伊達立合ニ而相認」と記された短冊状の書付	申	年	3 月 25 日	ー	ー	付箋	17.5 × 3.5	
371	東大史料 (購)	246	[付箋]	「上」とのみ記載された短冊状の書付	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	付箋	14.0 × 2.2	
372	東大史料 (購)	247	寛 (亀太郎役菊次郎、当 村小瀬戸浦時太郎方 江引請度願ニ付差紙 を要請)	小瀬戸浦時太郎のもとに亀太郎役の菊次郎を引き受けたという願いが浦上村別に提出されていることから、本石灰町に差紙の発行を求めた書付	卯	年	12 月 ー 日	浦上村別 (印)	本石灰町	状	16.5 × 21.8	
373	東大史料 (購)	248	[寛書綴]	江戸本石町幸手屋、横瀬様宛等の受領証綴	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	綴 状	24.0 × ー	
374	東大史料 (購)	249-1	寛	銀90目の受領証	戌	年	3 月 21 日	吉野屋 (印)	田口様	状	17.5 × 14.5	
375	東大史料 (購)	249-2	注文	樫木90本の注文書	戌	年	3 月 21 日	ー	ー	状	16.8 × 19.6	端書 「高島公御 諱之品」
376	東大史料 (購)	249-3	寛	樫木110本、白樫不挺の注文書。右は鉄砲台木代わりに記載あり	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	状	17.3 × 25.7	
377	東大史料 (購)	249-4	[持越銀その他箇条書]	持越銀受取方、新田家作、島原本田久左衛門貫銀等、相談すべき箇条6項目の書付	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	状	16.3 × 16.2	
378	東大史料 (購)	249-5	[諸入用銭書付]	席三郎渡し、借用心当、雑費など3貫500目の入用銭書付	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	状	15.7 × 7.6	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
379	東大史料 (購)	250	日雇工人前米味噌代式拾式文ツツ	日雇賃銀渡し方細目、炭・大燭・茶、唐人弁当・酒代の書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.5 × 79.8	
380	東大史料 (購)	251	寛	勝山町中宿、花島町中宿等にかかる入用銀の内訳を記した書付	戌	年	12 月 — 日	—	井福縁	状	15.0 × 37.7	
381	東大史料 (購)	252	〔呼出状〕	本山重濃右衛門、御用につき明日御役所へ出頭すべしとの書付	—	年	5 月 17 日	—	本山重濃右衛門	状	15.6 × 33.0	
382	東大史料 (購)	253	〔代金書付〕	酒、弁当などとして金5両2分3朱の受領証	—	年	3 月 16 日	東屋長二郎	上	状	16.0 × 31.5	前欠
383	東大史料 (購)	254	〔人名書付〕	「大蔵判金方之事 山田権之進、舟奉行 松本主、兼而発狂気有之 金子才吉」と記された書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.3 × 13.5	
384	東大史料 (購)	255	寛	法華宗長明寺卯兵衛、人別帳取調へのところ、何時此方人別に相加候哉相分申さざるにつき御尋	辰	年	9 月 — 日	向井元沖	本山藤之丞殿・藤田清九郎殿・北嶋和四郎殿	状	16.0 × 27.8	
385	東大史料 (購)	256	寛	1貫900文の代銭受領証	—	年	7 月 15 日	伏見屋	本山様	状	16.8 × 15.1	
386	東大史料 (購)	257	寛三番船荷渡之節請取高	白砂糖2112斤との書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	23.5 × 16.3	
387	東大史料 (購)	258-1	寛〔まず、町内帳面之者に相違無御座〕	伊勢町のますにつき町内の帳面にて相違ない旨通知	卯	年	5 月 — 日	伊勢町 (印)	本石灰町	状	— × —	
388	東大史料 (購)	258-2	差出申一札之事	紅毛四番割落札荷物のうち、青板1反を青崎半八郎のもとへ差し送るにあたって、懸合のうえ手板をたしかに受け取った旨書付	酉	年	— 月 — 日	赤主・清屋清五郎・請負人何何某	本山宛	状	16.0 × 30.8	
389	東大史料 (購)	259	〔人名書付〕	此者当時構、清美江罷越居候よし 至州広島竹内利左衛門、天草宮田村庄屋中村倉之助、元利左衛門江被召使罷在候よし 嶋原布津村百姓 儀兵衛」と記された書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.5 × 23.5	
390	東大史料 (購)	260-1	乍「檀口上之寛(浄土宗島原町帳面とめ、私建家江召置度)寛	明光が自身所有の建屋に嶋原町帳面とめ (37歳) を起居させることを願い出した書付	未	年	10 月 — 日	明光 (印)	御町御役人御衆中	状	16.5 × 29.7	
391	東大史料 (購)	260-2	寛(とめ、帳面之者、人柄別条なし)	嶋原町のとめにつき町内の帳面にて相違ない旨通知	未	年	10 月 — 日	島原町 (印)	本石灰町	状	16.8 × 23.2	
392	東大史料 (購)	261	〔箇所蔵銀差引勘定控〕	本石灰町箇所蔵銀の差引勘定控。差引項目として「赤瀬引」とある	寅	年	12 月 — 日	—	—	状	27.0 × 9.9	
393	東大史料 (購)	262-1	〔書簡〕	やす身代金につき詫ひ一札	—	年	— 月 — 日	—	—	状	14.9 × 82.0	前欠
394	東大史料 (購)	262-2	差上申一札之事	「銅座跡喜三太後家依頼により、町内武七様、やす奉公に差越…」	—	年	— 月 — 日	—	—	状	15.3 × 11.9	後欠
395	東大史料 (購)	262-3	〔書簡〕	やす一件につき本石灰町、唐津双方合意の上、内済を進める旨書付	—	年	7 月 3 日	(唐津打上村) 坂口五次兵衛永政 (花押)	本山重野右衛門様	状	16.3 × 72.6	
396	東大史料 (購)	263	〔代金書付縁〕	黄金及び銀腰掛等の受領証	明治6	年	10 月 — 日	(大区会、印文)	本石灰町本山藤十郎ほか	綴	13.5 × 12.6	
397	東大史料 (購)	264	〔宿町経費書付縁〕	惣高三百貫文。「透残り」として10人の人名書付も末尾に記載	—	年	— 月 — 日	—	—	綴	12.3 × 31.7	
398	東大史料 (購)	265	〔代銭書付〕	三口合計にて2貫84文、「三百文ツツ」、「四百文ツツ」、「六百文ツツ」にて各人から代銭を徴収	丑	年	7 月 — 日	—	—	状	13.5 × 22.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
399	東大史料 (購)	266-1	乍俣口上書 (中紺屋町帳面庄吉ら、私達家江召置度、渡世は料理職)	品川屋猪吉郎所有の建屋に中紺屋町帳面庄吉 (64歳) ほか2人を起居させることを願い出した書付	—	年	閏8月1日	品川屋猪吉郎 (印)	御町御役人御衆中	状	16.4 × 33.4	
400	東大史料 (購)	266-2	寛 (さた他一名、町内帳面之者に相違無之)	銀屋町のさたほか1人につき町内の帳面にて相違ない旨通知	[文政7] 年	9月	1日	銀屋町 (印)	本石灰町	状	— × —	
401	東大史料 (購)	266-3	寛 (庄吉、町内帳面之者に相違無之)	中紺屋町の庄吉につき町内の帳面にて相違ない旨通知	申	年	9月1日	中紺屋町 (印)	本石灰町	状	17.1 × 26.0	
402	東大史料 (購)	267	寛	午12月残として90枚、未1月×172枚余等として代銭書付	子	年	7月1日	筑武内	やから町本山重之丞様	状	16.3 × 17.4	
403	東大史料 (購)	268	[阿蘭陀、唐大小通事人名書付]	13人の人名書付。オランダ年番通詞は石橋助左衛門と名付多吉郎。唐年番通詞は彭城久兵衛と河間八十郎	—	年	1月1日	—	—	状	15.9 × 27.3	
404	東大史料 (購)	269	[新簡] (人相書)	豊後高田出生神主高木口川の入相書。「はな筋通り、せひ高き方」とある	—	年	1月1日	—	—	状	16.4 × 4.4	後欠
405	東大史料 (購)	270	[漢詩]	「勾芒既執筆牛欄…」とある漢詩文の写し。訓点あり。	文化15	年	1月1日	金澤豪	—	状	25.3 × 33.8	
406	東大史料 (購)	271	寛 (寛助、町内帳面之者に相違なし)	今町の喜助につき町内の帳面にて相違ない旨通知	子	年	4月1日	今町 (印)	—	状	16.8 × 21.9	
407	東大史料 (購)	272	[兵左衛門一件]	兵左衛門及び関係者の相聞関係について記した書付。兵左衛門については「唐船方ごぼれ物買取候由」、「此もの針屋重左衛門殿之所へ罷在、商売拔成不知」と記されている	[寛政] 年	1月	1日	—	—	状	15.9 × 72.9	
408	東大史料 (購)	273	寛	提灯張等として2貫52文の代銭書付	巳	年	極月9日	柳屋	本山様	状	13.5 × 27.3	
409	東大史料 (購)	274	寛七月鑑賞引取寛	本石灰町内の鑑賞の書付	丑	年	12月1日	—	—	状	16.1 × 90.0	
410	東大史料 (購)	275	乍俣口上之寛 (盗難届)	「木綿白茶二正明崎拾羽織」の紛失届。手持ちの品を調べたところ紛失が判明。浅五郎は盗難を疑っている	子	年	2月20日	浅五郎 (印)	本山重之丞殿	状	16.1 × 26.2	
411	東大史料 (購)	276	乍俣口上之寛 (盗難届)	「木綿紺浅黄立嶋男單物」など9品の紛失届。昨夜8つ時頃に紛失が判明。好太郎は盗難を疑っている	申	年	7月24日	好太郎 (印)	本山邦松殿	状	16.4 × 39.3	
412	東大史料 (購)	277	[貫銀明細]	本石灰町における定例メ高、酉年祭礼拝借銀返上納など2貫300目余の町入用銀書付	亥	年	12月1日	貫銀方 (印)	本石灰町	状	24.4 × 33.3	
413	東大史料 (購)	278	差出申御請書之事	首尾平病死跡式につき養育料受取に関する書付	文化12	年	12月1日	本石灰町首尾平母とみほか	本山重兵衛殿	状	16.4 × 54.6	
414	東大史料 (購)	279	旅行中別段手当	筆者日行使・小使の普渡海、秋渡海の旅費支給に対する入用銀の書付	—	年	1月1日	—	—	状	17.3 × 108.6	
415	東大史料 (購)	280	[包紙] 願書利助	包紙のみ	—	年	1月1日	—	—	包紙	24.6 × 17.2	
416	東大史料 (購)	281	[呼出状]	「御役所江可掃罷出事 六月晦日」と記された書付。東京大学史料編纂所購入分284の後半部分か	—	年	6月晦日	—	—	状	16.5 × 11.3	前欠
417	東大史料 (購)	282	[代金書付]	金1両1朱の代金書付	—	年	1月1日	遠州屋	上	状	16.7 × 13.6	前欠
418	東大史料 (購)	283	乍俣口上書 (盗難届)	「木綿紺目引嶋拾羽織」など2品の紛失届。昨夜4つ時頃に戸が開きかかっており紛失が判明。千右衛門は盗難を疑っている	申	年	10月28日	千右衛門 (印)	本山邦松殿	状	16.3 × 25.5	後欠
419	東大史料 (購)	284	[呼出状]	「本山重野右衛門 右誓詞被 仰付候条、明朔日六ツ半時麻上下着」と記された書付。東京大学史料編纂所購入分281の前半部分か	—	年	1月1日	—	本山重野右衛門	状	16.3 × 17.3	
420	東大史料 (購)	285	[諸処方書]	抱瀧洗い湯など	—	年	1月1日	—	—	状	16.4 × 50.4	
421	東大史料 (購)	286	[付箋]	「此年賦銀当朔十二月6向治四ヶ年之間…」と記された短冊状の書付	—	年	1月1日	—	—	付箋	12.3 × 2.2	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
422	東大史料 (購)	287	〔唐船売荷物商人渡告示〕	丑9番船・寅1番船から5番船の本売、別段売荷物送砂糖の商人渡しが行われる旨を記した書付	—	自6 年	4 月 7 日	長崎会所	—	状	16.4 × 8.0	
423	東大史料 (購)	288	(大和屋十右衛門一件)	大和国御所住屋大和屋十右衛門病死について、同人姪などの人別取調。東京大学史料編纂所購入分133の關係史料カ	—	年	— 月 — 日	—	—	状	①15.9 × ①7.9 ②15.9 × ②10.4	
424	東大史料 (購)	289	〔人名書付〕	「国産方掛 当所出張 中村和助」と記された人名書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.4 × 10.2	
425	東大史料 (購)	290	寛〔提灯代請求書〕	高張2ツ等として3貫500文の代銭書付	午	年	12 月 — 日	川越	本山様	状	14.8 × 38.9	
426	東大史料 (購)	291	〔紙漉〕	紙漉のみ	—	年	— 月 — 日	—	—	紐	— × —	
427	東大史料 (購)	292	森印借り銭引取高	籠銭からの借錢引左額及び人名を記した書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	12.4 × 67.3	
428	東大史料 (購)	293	寛〔魚代受取〕	しらす、たい等の代銭受領証	—	年	12 月 11 日	權助	御役場様	状	16.8 × 28.6	
429	東大史料 (購)	294	作〔襦口上之寛 (盗難届)	「一、本綿紺茶白立嶋男治 吉…」と記された書付。紛失届の断簡カ	—	年	— 月 — 日	—	—	状	16.5 × 12.8	後欠
430	東大史料 (購)	295	寛〔受取〕	3貫文の受領証	子	年	7 月 15 日	高善	やから町本山様	状	17.0 × 15.4	
431	東大史料 (購)	296	寛〔花色羅紗・黄へるへどあんなど〕	花色羅紗、黄へるへとあんなど反物の一反あたりの価格を記した書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	— × —	
432	東大史料 (購)	297	〔包紙〕	包紙のみ	—	年	— 月 — 日	—	—	包紙	19.0 × 24.9	
433	東大史料 (購)	298	寛〔いね、御町和十方江引請候ニ付、近日中差紙差出〕	丸山町居住のいねが近日中に本石灰町に差紙を差出する予定であることからしかるべき処置を依頼した書付	卯	年	12 月 — 日	丸山町 (印)	本石灰町	状	16.6 × 190.0	
434	東大史料 (購)	299	〔呼出状〕	御用のため本山福重に対する呼出状	—	年	8 月 17 日	後藤市之丞 (印)	頭取之名中	状	16.2 × 28.5	
435	東大史料 (購)	300	寛	諸雑費の人数割勘定控	—	自3 年	— 月 — 日	—	—	状	19.1 × 24.8	
436	東大史料 (購)	301	〔金高書付〕	本山・横瀬・荒木・今むらの項目ごとの金高書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	20.0 × 25.7	
437	東大史料 (購)	302	寛	受領証	—	年	3 月 26 日	美濃屋宗口 (印)	—	状	14.0 × 28.3	
438	東大史料 (購)	303	〔断簡〕	「右於御白書院老中列座豊前守申渡之 同九日」と記された書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	15.0 × 4.0	
439	東大史料 (購)	304	乍恐奉願上口上書	溜番の与七が浦上村の梅五郎という人物に襲撃された事件の顛末を報告するとともに、しかるべき処置を願い出した書付の下書。裏面は盗賊方の書類雛形	丑	年	7 月 — 日	溜番中	—	状	28.8 × 32.9	
440	東大史料 (購)	305	〔包紙〕 盗賊方一件書付	包紙のみ	—	年	— 月 — 日	—	—	袋	19.5 × 26.0	
441	東大史料 (購)	306	〔金高書付〕	本山・横瀬・荒木・今村・弦屋など項目ごとの金高書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	24.7 × 34.9	
442	東大史料 (購)	307	寛	馬町印、高張など1貫124文の代銭書付	辰	年	7 月 — 日	かこ町柳燈屋	本石灰町御役場	状	15.0 × 15.7	
443	東大史料 (購)	308	寛	村江亀太郎ほか籠銀長崎会所にて引取相渡候分につき書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	15.9 × 16.7	後欠
444	東大史料 (購)	309	〔書簡〕	隅州繁右衛門江盗品引渡のため本山重左衛門方江同人呼出につき書付	寅	年	12 月 — 日	西村順之助	—	状	16.7 × 30.0	
445	東大史料 (託)	1	子拾三番船附町雑用勘定帳 控	附町被下銀を箇所数に応じて割合	天明2	年	7 月 — 日	本石灰町	—	豎帳	25.5 × 18.5	
446	東大史料 (託)	2-1	卯四番船宿町雑用勘定帳 控	宿町へ被下銀を箇所数に応じて割合 (不足分の家持への分配)	寛政8	年	7 月 — 日	本石灰町	—	豎帳	26.0 × 18.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年 月 日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
447	東大史料 (託)	2-2	[長崎奉行宛を中違書写]	鎖港談判の見合わせにつき	文久3年5月12日	—	—	竖帳	26.0 × 18.2	
448	東大史料 (託)	3	子四番船宿町雑用勘定帳 控	仕役入用私方内訌、宿町へ被下銀を箇所数に応じて割合	文化元年12月1日	本石灰町(宿 本石灰町乙名 本山膳之丞)	—	竖帳	26.3 × 18.0	
449	東大史料 (託)	4	朱六番船附町雑用勘定帳 控	附町被下銀を68箇所に割合	—年1月1日	附町 本石灰町 (乙名 本山重 野右衛門 (印)・相頭平 田新兵衛 (印)・同佐藤 甚兵衛)	—	竖帳	25.7 × 18.5	
450	東大史料 (託)	5-1	本石灰町 貧家御救米願帳 帳 控	御救米奉願疾人数名前 (計69名)	嘉永2年2月1日	代乙名 本山重 之進・相頭竹 谷権兵衛・同 佐藤徳三郎	久松・土岐太郎 殿・高嶋作兵 衛殿	竖帳	25.5 × 17.5	
451	東大史料 (託)	5-2	(荒木伊助殿旅行のため 錯差し向けにつきき 人前200文宛割渡し)	荒木伊助から正月29日(10貫目)、7月2日(10貫目)、9月29日(6貫目)の3回にわたって普捨を受けた錢を本石灰町町人に分配した際の帳面控。5-1と綴紐で編綴されており、貧民救恤の一環であったものと考えられる	自〔酉〕年〔正〕月〔29〕日 至〔酉〕	—	—	横帳	14.5 × 40.5	
452	東大史料 (託)	6	本石灰町 貧家御救米願帳	御救米を願う者の人数名前 (計98名)	寛政10年2月1日	乙名 本山膳之丞 (本石灰町 乙名 本山膳之丞・同相頭 清水源右衛門・同佐藤甚 兵衛)	高嶋淺五郎 殿・高嶋作兵 衛殿	竖帳	26.5 × 18.5	
453	東大史料 (託)	7	本石灰町 貧家御救米願帳	御救米を願う者の人数名前 (計96名)	寛政9年10月1日	乙名 本山膳之丞 (本石灰町 乙名 本山膳之丞・同相頭 清水源右衛門・同佐藤甚 兵衛)	久松善兵衛 殿・高嶋淺五郎 殿	竖帳	25.5 × 18.0	
454	東大史料 (託)	8	本石灰町 貧家御救米願帳	御救米を願う者の人数名前 (計98名)	寛政7年6月1日	乙名 本山膳之丞 (本石灰町 乙名 本山膳之丞・同相頭 清水源右衛門・同佐藤甚 兵衛)	後藤五郎左衛 門殿・久松熊 十郎殿	竖帳	26.0 × 18.5	
455	東大史料 (託)	9	本石灰町 貧家御救米願帳	御救米を願う者の人数名前 (計80名)	安永9年2月1日	乙名 本山市野 右衛門(本石 灰町乙名 本山市 野右衛門・同相頭平田 新兵衛・同松 本貞助)	高嶋四郎兵衛 殿・福田十郎 右衛門殿	竖帳	26.5 × 18.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年 月 日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
456	東大史料（託）	10	本石灰町貴家御散米願帳	御散米を願う者の人数名前（計192名）	寛政元 年 6 月 一 日	乙名本山市野 石衛門（本石 灰町乙名本山 市野右衛門・ 同時組頭平田 新兵衛・同佐 藤喜兵衛）	高嶋加一郎 殿・高木清右 衛門殿	竖帳	25.5 × 19.2	
457	東大史料（託）	11	本石灰町貴家御散米願帳	御散米を願う者の人数名前（計95名）	寛政3 年 6 月 一 日	乙名本山市野 石衛門（本石 灰町乙名本山 市野右衛門・ 同時組頭平田 新兵衛・同清 水源右衛門）	後藤五郎左衛 門殿・久松熊 十郎殿	竖帳	25.5 × 19.0	
458	東大史料（託）	12	本石灰町貴家御散米願帳	御散米を願う者の人数名前（計94名）	寛政3 年 10 月 一 日	乙名本山市野 石衛門（本石 灰町乙名本山 市野右衛門・ 同時組頭平田 新兵衛・同清 水源右衛門）	後藤五郎左衛 門殿・久松熊 十郎殿	竖帳	26.0 × 18.5	
459	東大史料（託）	13	本石灰町貴家御散米願帳	御散米を願う者の人数名前（計94名）	寛政4 年 6 月 一 日	乙名本山膳之 丞（本石灰町 乙名本山膳之 丞・同時組頭 平田新兵衛・ 同清水源右衛 門）	久松熊十郎 殿・高嶋浅五 郎殿	竖帳	26.3 × 18.5	
460	東大史料（託）	14	本石灰町貴家御散米願帳	御散米を願う者の人数名前（97名）	寛政6 年 2 月 一 日	乙名本山膳之 丞（本石灰町 乙名本山膳之 丞・同時組頭 平田新兵衛・ 同清水源右衛 門）	後藤五郎左衛 門殿・高嶋作 兵衛殿	竖帳	26.0 × 18.5	
461	東大史料（託）	15	本石灰町貴家御散米願帳	御散米を願う者の人数名前（95名）	寛政6 年 10 月 一 日	乙名本山膳之 丞（本石灰町 乙名本山膳之 丞・同時組頭 清水源右衛 門・同佐藤嘉 蔵）	後藤五郎左衛 門殿・高嶋作 兵衛殿	竖帳	25.8 × 18.5	
462	東大史料（託）	16	本石灰町藩拝領銀割渡帳	箇所除家持・借屋の者へ通銀割り渡し	安永7 年 7 月 一 日	本山市野右衛 門・同時組頭 平田新兵衛・ 同松本貞助	—	竖帳	25.8 × 18.5	
463	東大史料（託）	17	本石灰町藩拝領銀割渡帳	箇所除家持・借屋の者へ通銀割り渡し	安永7 年 12 月 一 日	本石灰町乙名 本山市野右衛 門・本石灰町 組頭平田新兵 衛・同松本貞 助	—	竖帳	25.5 × 18.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
464	東大史料 (託)	18	本石灰町竜拝領銀割渡帳	箇所除家持・借屋の者へ竜銀割り渡し	安永4	年	7 月 一 日	—	—	縦帳	25.2 × 18.0	
465	東大史料 (託)	19	本石灰町竜拝領銀割渡帳	箇所除家持・借屋の者へ竜銀割り渡し	寛政7	年	7 月 一 日	本石灰町乙名 本山勝之丞・ 同町組頭清水 源右衛門・同 佐藤豊兵衛	—	縦帳	26.0 × 18.5	
466	東大史料 (託)	20	本石灰町竜拝領銀割渡帳	箇所除家持・借屋の者へ竜銀割り渡し	天明5	年	7 月 一 日	本石灰町乙名 本山市野右衛 門・同町組頭 平田新兵衛 (印)・同佐藤 豊兵衛(印)	—	縦帳	25.5 × 18.2	
467	東大史料 (託)	21	本石灰町竜拝領銀割渡帳	箇所除家持・借屋の者へ竜銀割り渡し	自天明4 至天明4	年	7 月 一 日	本石灰町乙名 本山市野右衛 門・同町組頭 平田新兵衛・ 同佐藤栄次郎	—	縦帳	26.0 × 18.0	
468	東大史料 (託)	22	本石灰町竜拝領銀割渡帳	箇所除家持・借屋の者へ竜銀割り渡し	安永9	年	7 月 一 日	本石灰町乙名 本山市野右衛 門・同町組頭 平田新兵衛・ 同松本貞助	—	縦帳	25.8 × 18.3	
469	東大史料 (託)	23	本石灰町竜拝領銀割渡帳	箇所除家持・借屋の者へ竜銀割り渡し	天明2	年	12 月 一 日	本石灰町乙名 本山市野右衛 門・同町組頭 平田新兵衛・ 同松本貞助	—	縦帳	25.5 × 18.0	
470	東大史料 (託)	24	御書附井同役中申談取 ペリ方請印	触書(競船取締・盗賊捜査につき)に対する請書	明和7	年	(蘭) 月 一 日	綿屋茂平次 (印)外69名	—	横帳	14.8 × 40.6	
471	東大史料 (託)	25	同門番給料二季勘定帳	喜太郎・弥助・末吉・友平・惣太郎の受取書	嘉永2	年	12 月 一 日	—	—	横帳	14.5 × 41.0	
472	東大史料 (託)	26	施銭渡方印形帳	借家ら29名に対する施し銭(住吉屋宇右衛門・竜田屋茂三 治・河内屋幸助ら各自5匁文ずつ出資)	天明3	年	5 月 一 日	住吉屋宇右衛 門・竜田屋茂 三治・河内屋 幸助	—	横帳	14.5 × 41.5	
473	東大史料 (託)	27	井戸対馬守様二御在勤 年行司蒙 仰候節進物 到来諸書留	奉行家来・手付・御勘定・町年寄らに対する進物書付、受 納到来物書付	嘉永元	年	7 月 一 日	本山美郷	—	横帳	14.7 × 39.5	
474	東大史料 (託)	28	御書付読聞印形帳	市中米屋に対する打ちこわし事件発生につき仰せ渡しの 請書	天明7	年	5 月 一 日	甲斐金左衛門 (印)外140名	—	横帳	14.7 × 41.5	
475	東大史料 (託)	29	諸届并諸願引替帳 二	町内における人別の移動、旅行切手などにつき	戊	年	8 月 一 日	本石灰町	—	横帳	14.5 × 41.5	
476	東大史料 (託)	30	大草能登守様三御在勤 之前 唐船雜用取締掛 蒙仰候書留	進物・到来物書付	天保3	年	6 月 21 日	本山美郷	—	横帳	15.0 × 39.3	
477	東大史料 (託)	31	永井筑前守様初御在勤 御書付読聞印形帳	諸色値段高値につき引き下げの旨触書請書	寛政2	年	3 月 一 日	竹谷勘右衛門 (印)外226名	—	横帳	14.5 × 40.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
478	東大史料 (託)	32	御書付御請印形帳	唐阿蘭陀持渡の品、無手板での売買を禁じる触書に対する 請書	西	年	閏6月1日	本石灰町(竹 合勘右衛門 (印)外22名、 (奥書)乙名本 山・相頭平田 新兵衛(印)・ 同佐藤甚兵衛 (印)	—	横帳	14.5 × 40.7	
479	東大史料 (託)	33	諸渡銀請取帳	板米蔵移しの節仲使買ほか諸入用	—	年	1月1日	御囲米掛	—	横帳	14.5 × 41.0	
480	東大史料 (託)	34	本石灰町之内濱崎路出 シ地願一件	本石灰町西側川端箇所前踏み出し地の利用につき願書写	自〔辰〕 至〔辰〕	年	10月1日	—	—	竖帳	26.0 × 18.0	
481	東大史料 (託)	35	郷中墓所地之儀二付被 仰渡候名目書	町居住者の家の墓地の場所	子	年	6月1日	本石灰町(本 石灰町乙名本 山重野右衛 門)	—	竖帳	25.3 × 18.5	〔御代官所江 差出候控〕
482	東大史料 (託)	36	曲淵和泉守様初御在勤 御扶助銀割渡請取印形 帳	貧窮につき扶助銀請取	文化3	年	11月1日	貞信(印)外12 名	本山膳之丞殿	竖帳	26.0 × 18.0	
483	東大史料 (託)	37	富講場所皆願立一件	諏訪社において一年二度開催の富講につき、豊前宇佐宮富 株場所皆御免願い	—	年	1月1日	—	—	竖帳	25.0 × 18.0	
484	東大史料 (託)	38	本石灰町電拝領銀割渡帳	箇所除家持・家代・借屋の者へ電銀割り渡し	寛政5	年	7月1日	本石灰町乙名 本山膳之丞・ 相頭平田新兵 衛(印)・同清 水派右衛門	—	竖帳	26.0 × 19.0	
485	東大史料 (託)	39	戸川 播磨守 様御在勤 御健ニ而疫病流行二付 薬方御救 御書付之号	疫病の処方につき帳書	〔酉〕	年	(6)月1日	本石灰町	頭取・年番・ 月役乙名江	竖帳	25.7 × 18.0	
486	東大史料 (託)	40	諸願諸同屋引替帳 弐	本石灰町における人別移動、往来切手、旅人逗留などに関 する届出を畫留めるとともに処理状況などを記した帳面	寛政11	年	正月1日	—	—	横帳	14.5 × 41.0	
487	東大史料 (託)	41	諸届井諸願引替帳 一	本石灰町における人別移動、往来切手、旅人逗留などに関 する届出を畫留めるとともに処理状況などを記した帳面、 本山ふさという人物の箇所持	寛政13	年	正月1日	本石灰町	—	横帳	15.0 × 41.5	
488	東大史料 (託)	42	諸届井諸願引替帳 一	本石灰町における人別移動、往来切手、旅人逗留などに関 する届出を畫留めるとともに処理状況などを記した帳面	寛政12	年	正月1日	—	—	横帳	14.5 × 40.0	
489	東大史料 (託)	43	諸願諸同屋引替帳 壹	本石灰町における人別移動、往来切手、旅人逗留などに関 する届出を畫留めるとともに処理状況などを記した帳面	寛政11	年	正月1日	—	—	横帳	14.5 × 42.0	
490	東大史料 (託)	44	諸届井諸願引替帳 二	本石灰町における人別移動、往来切手、旅人逗留などに関 する届出を畫留めるとともに処理状況などを記した帳面	寛政12	年	正月1日	—	—	横帳	14.5 × 40.5	
491	東大史料 (託)	45	諸届井諸願引替帳 二	本石灰町における人別移動、往来切手、旅人逗留などに関 する届出を畫留めるとともに処理状況などを記した帳面	寛政13	年	正月1日	本石灰町	—	横帳	14.5 × 41.5	
492	東大史料 (託)	46	諸届井諸願引替帳 壹	本石灰町における人別移動、往来切手、旅人逗留などに関 する届出を畫留めるとともに処理状況などを記した帳面	戊	年	8月1日	本石灰町	—	横帳	14.5 × 41.5	
493	東大史料 (託)	47	嘉永五年子十二月勘定 小訶帳	本石灰町における町入用銀等の差引勘定帳	嘉永5	年	12月1日	—	—	横帳	14.5 × 40.0	
494	東大史料 (託)	48	諸願井諸届引替帳 二	本石灰町における人別移動、往来切手、旅人逗留などに関 する届出を畫留めるとともに処理状況などを記した帳面	享和3	年	正月1日	—	—	横帳	15.0 × 42.0	
495	東大史料 (託)	49	弘化三年午十二月勘定 小訶帳	本石灰町における町入用銀等の差引勘定帳	弘化3	年	12月1日	—	—	横帳	14.5 × 40.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
496	東大史料 (託)	50	天保十三年寅十二月勘定小取帳	本石灰町における町入用銀等の差引勘定帳	天保13	年	12 月 一 日	—	—	状態	28.5 × 41.5	
497	東大史料 (託)	51	新内ふし 明儒夢泡雪	新内節の歌詞楽譜	—	年	一 月 一 日	—	—	豎帳	22.3 × 15.5	
498	東大史料 (託)	52	易学診解	四書五経の一つである『易経』の解説カ	—	年	一 月 一 日	佐久間順正 著、東京書肆 文永堂蔵	—	豎帳	23.5 × 15.7	木版
499	東大史料 (託)	53	三體千字文 完	楷書・行書・草書の手習書	—	年	一 月 一 日	愛石玉木先生 書、大坂千葉 久栄堂梓	—	豎帳	23.5 × 16.0	活版・木版 裏表紙「本 山」印
500	東大史料 (託)	54	四十八棚	書院棚図解	—	年	一 月 一 日	—	—	小横帳	16.8 × 23.5	木版
501	東大史料 (託)	55	印図 十八道金剛界	金剛界念珠私記	—	年	一 月 一 日	—	—	豎帳	20.0 × 14.2	木版
502	東大史料 (託)	56	寅十二月ヶ所割勘定控	箇所持各人ごとに箇所割金・地子銀書付	寅	年	12 月 一 日	—	—	横帳	14.5 × 41.5	
503	東大史料 (託)	57	天保十三寅十二月勘定小前帳	町入用勘定帳、貫銀・町給銀等	天保13	年	12 月 一 日	—	—	横帳	14.5 × 40.0	
504	東大史料 (託)	58	日用雑記	町乙名勘方日記	天明8	年	正 月 一 日	美郷	—	小横帳	14.5 × 21.0	
505	東大史料 (託)	59	沖出日記	浅井茂藤治船カ。船頭・水主名前、唐船漂着につき薩州坊之津へ遠見書と共に渡海記事ほか。	文化4	年	11 月 一 日	江川氏	—	小横帳	13.3 × 18.0	
506	東大史料 (託)	60	市中廻り方井大浦夜詰手覚	乙名加役「市中廻り方」の勤め方規定書、出役日割・月番順など。	安政6	年	12 月 一 日	本山美利	—	小横帳	13.0 × 17.5	
507	東大史料 (託)	61	八朔銀包数大宝恵	本石灰町・本山重兵衛・重之進差出八朔銀書付	嘉永6	年	7 月 一 日	本石灰町	—	小横帳	14.2 × 20.5	
508	東大史料 (託)	62	八朔銀向々請取覚帳	久松善兵衛用所・貫銀方・御普請方などによる銀子請取確認印あり	嘉永6	年	8 月 一 日	本石灰町	—	横帳	14.2 × 40.2	
509	東大史料 (託)	63	八朔銀向々請取覚帳	久松寛三郎用所・服部米七郎・御普請方などによる銀子請取確認印あり	慶応元	年	8 月 6 日	本石灰町	—	横帳	12.8 × 33.8	
510	東大史料 (託)	64	八朔銀向々請取覚帳	貫銀定役服部卯三郎・御普請方佐々木喜助らによる請取確認印あり	西	年	8 月 一 日	本石灰町	—	横帳	14.5 × 41.5	
511	東大史料 (託)	65	八朔銀向々請取覚帳	久松土岐大郎用所・貫銀方・御普請方などによる銀子請取確認印あり	嘉永5	年	8 月 一 日	本石灰町	—	横帳	14.5 × 38.7	
512	東大史料 (託)	66	八朔銀向々請取覚帳	福田猶之進用所・貫銀方・御普請方などによる銀子請取確認印あり	嘉永4	年	8 月 一 日	本石灰町	—	横帳	14.0 × 40.0	
513	東大史料 (託)	67	八朔銀向々請取覚帳	高木源之丞用所・貫銀方・御普請方などによる銀子請取確認印あり	元治元	年	8 月 一 日	本石灰町	—	横帳	13.0 × 34.0	
514	東大史料 (託)	68	八朔銀向々請取覚帳	久松新兵衛用所・貫銀方・御普請方などによる銀子請取確認印あり	弘化2	年	8 月 一 日	本石灰町	—	横帳	14.3 × 40.0	
515	東大史料 (託)	69	八朔銀向々請取覚帳	薬師寺久左衛門用所・貫銀方・御普請方などによる銀子請取確認印あり	安政5	年	8 月 一 日	—	—	横帳	14.0 × 40.0	
516	東大史料 (託)	70	八朔銀向々請取覚帳	薬師寺宇右衛門用所・貫銀方・御普請方などによる銀子請取確認印あり	弘化4	年	8 月 一 日	本石灰町	—	横帳	14.0 × 40.0	
517	東大史料 (託)	71	八朔銀包数覚帳	本石灰町中・重之進差出八朔銀町年寄七ヶ所包銀清帳	嘉永2	年	8 月 一 日	本石灰町	—	小横帳	14.3 × 20.3	「重兵衛年行 司中之所也」
518	東大史料 (託)	72-1	八朔銀包数大宝恵	本石灰町中・本山重兵衛・重之進差出八朔銀、町年寄七ヶ所包銀清帳	弘化2	年	7 月 一 日	—	—	小横帳	14.0 × 20.5	
519	東大史料 (託)	72-2	八朔銀包数覚帳	本石灰町中・本山重兵衛・重之進差出八朔銀、町年寄七ヶ所包銀清帳	安政4	年	7 月 一 日	—	—	小横帳	14.0 × 20.3	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
520	東大史料 (託)	73-1	(町年寄宛八朔御礼銀・割符御礼銀包紙)	八朔銀及び割符御礼銀の包紙。本山家文書に含まれていることから未使用もしくは反古であったと考えられる。片面に本石灰町中(八朔御礼・白銀92匁3分、割符御礼・白銀129匁3分)、もう片面に本石灰町中(八朔御礼・白銀8匁、割符御礼・白銀21匁7分)、乙名本山重兵衛(白銀5匁)、同見吉本山重之進(白銀2匁1分5厘)とある	戊	年	7月1日	(本石灰町中・乙名本山重兵衛・同見吉本山重之進)	—	包紙	31.5 × 45.8	包紙(33.0×46.5)あり
521	東大史料 (託)	73-2	(町年寄宛八朔御礼銀・割符御礼銀包紙)	八朔銀及び割符御礼銀の包紙。本山家文書に含まれていることから未使用もしくは反古であったと考えられる。片面に船改方本山勝之丞(白銀5匁)、本石灰町中(八朔御礼・白銀8匁、割符御礼・白銀21匁7分)、乙名本山勝之助(白銀2匁1分5厘)とある	—	年	1月1日	(船改方本山勝之丞・本石灰町中・乙名本山勝之助)	—	包紙	33.0 × 44.5	
522	東大史料 (託)	74	【袋】八朔銀一件	袋のみ	元治元	年	8月1日	役場	—	袋	32.2 × 18.2	
523	東大史料 (託)	75	明和五年壬十二月ヶ所割引方寛帳	箇所待町人各人につき箇所銀より町入用等差し引き勘定	明和5	年	12月1日	—	—	横帳	13.5 × 36.0	
524	東大史料 (託)	76	水野若狭守様御勝手役御賄寛書	際し此方御賄	天明6	年	9月1日	—	—	小横帳	13.0 × 18.0	
525	東大史料 (託)	77	日用見聞雑記	町乙名勤役中日記カ。銅座関係記事多し	宝暦7	年	正月1日	—	—	小横帳	16.5 × 24.0	
526	東大史料 (託)	78-1	松平石見守様御在勤被仰出 公事出入心得方書付	長崎奉行の松平石見守貴強在任中に発せられた公事出入の際の帳書	寛政11	年	11月1日	—	—	竖帳	25.5 × 17.5	
527	東大史料 (託)	78-2	松平石見守様二在勤之節公事方心得之趣御書付を以被仰出候二付同役中申談書	長崎奉行の松平石見守貴強在任中に発せられた帳書にともない、公事出入の際の乙名の職書について乙名組合で認識の共有を図った申談書	寛政11	年	11月1日	—	—	竖帳	25.5 × 17.5	
528	東大史料 (託)	79	年行司蒙 仰節 金銀取替帳	銀高・貫目借用、銅子返済書付	文化14	年	9月1日	河勤(印)	本山様	小横帳	16.5 × 24.0	
529	東大史料 (託)	80	町中申談候口達之寛書	冠婚葬祭が華美にならざるよう、乙名より達しの旨	卯	年	閏7月1日	本山重兵衛	—	竖帳	28.3 × 21.0	
530	東大史料 (託)	81	上	遊女町茶屋で芸者を呼んで飲食した代金の請求書	—	年	午4月1日	(仲之町)東屋長三郎	—	横帳	13.0 × 35.5	
531	東大史料 (託)	82	鈴木様御入用米差引帳	米皆掛量目と粳米の量目書付	〔酉〕	年	正月1日	本山手控	—	横帳	14.5 × 40.0	袋(22.0×16.5)あり
532	東大史料 (託)	83	松山惣右衛門様鈴木七十郎様御下向二付御用達被仰付候 手寛	本山重兵衛吟味方改役並・鈴木七十郎当地逗留中用達申し付けされるにつき、勤め方向書ほか	自文化9 至文化10	年	12月1日	本山	—	小横帳	20.5 × 14.5	
533	東大史料 (託)	84	柳生主膳正様西御役所江御入 松山惣右衛門様岩原御屋鋪江御入手寛	幕府役人・藩崎中の賄い方の手割、文化九年十二月中鈴木様御用達本山重兵衛動向日記ほか	文化8	年	7月朔日	本山	—	小横帳	13.5 × 18.0	
534	東大史料 (託)	85	渡方日録	本山重之丞、渡方掛乙名勤役中出役日記、市中應ず取除・唐船居場廻渡など	天保4	年	3月1日	本山	—	小横帳	14.0 × 21.0	
535	東大史料 (託)	86	(大坂・畿内一円大地震につき被害状況を知らせる書簡の写し)	伊賀上野地震の被害状況につき	(嘉永7)	年	6月1日	—	—	状	17.0 × 214.0	
536	東大史料 (託)	87	井戸列馬守様初在勤之節旅人改方本勤蒙 仰候節書留	沙汰書写し・進物控・到来控・献立	弘化3	年	8月18日	本山美郷	—	横帳	14.5 × 40.5	
537	東大史料 (託)	88	御書付御請印形帳	博打の禁止・唐船日雇の取締(貰い砂糖の受物配分につき)・技術の禁制などにつき長崎奉行所触書の請書、竹谷勘右衛門外42名の連印あり	天明8	年	2月1日	—	—	横帳	14.5 × 41.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
538	東大史料 (託)	89	御救米二付御書出流渡印形帳	長崎市中救米につき御書付(安易な御救いを受けないよう(二)の趣米知の旨請書・町中丸左衛門外89名連印)	安永7	年	7 月 1 日	—	—	横帳	14.0 × 40.5	
539	東大史料 (託)	90	騎射技物射手	射手竹迫吉摩助他24名(いずれも九州諸藩藩士カ)、中り外れ記録帳	安政7	年	3 月 25 日	—	—	横帳	14.5 × 42.5	
540	東大史料 (託)	91	出役之節筆者日行使并当料	九州諸国から回送される米の水揚げ及び御私にともなう出役の際に発生する、筆者と日行使の并当料及び使者の賃料などの書付	自子 至丑	年	1 月 1 日	—	—	横帳	13.5 × 36.0	
541	東大史料 (託)	92-1	火消年賦私入之覚	「本火」や「助火」にともなう支出などの差引勘定覚	寅	年	極 月 1 日	—	—	横帳	15.0 × 41.5	
542	東大史料 (託)	92-2	(火消年賦錢都合覚)	「本火」や「助火」にともなう支出額を町中46軒の家持・借家に割り当てた書付	寅	年	12 月 1 日	—	—	横帳	13.5 × 35.0	
543	東大史料 (託)	93-1	博奕三笠附等井門通札之儀二付被仰出候御書付読附せ候印形帳	博奕・三笠附・取退無尽及びそれに類する会合の禁止・鑑札の買入れを禁じた通書が江戸表において発せられたことから、本石灰町においても通書を遵守する旨を本石灰町住人369人が誓約した請書	明和5	年	10 月 1 日	金崎茂八 (印) 外368 名連印	—	横帳	14.5 × 41.5	
544	東大史料 (託)	93-2	ノ所竈出入差引	町入用費の支出細目に関する書付	天保8	年	7 月 1 日	—	—	横帳	13.5 × 35.5	
545	東大史料 (託)	94	申式番寧波船頭朱隠澄弘化四年末七月勘定小訳帳	本石灰町が宿町となった申式番寧波船(唐人70人)からの荷揚品の書付写。商売荷物・外売荷物・福田公御詠・御用心当子・聖堂格札・当用之品として項目立てして記載 被下銀・貴銀・八胡銀などの仕訳帳とノ所竈四部六部之所(支出金細目)からなる帳面	申	年	1 月 1 日	宿 本石灰町	—	小横帳	14.7 × 21.0	
546	東大史料 (託)	95	弘化四年末七月勘定小訳帳	被下銀・貴銀・八胡銀などの仕訳帳とノ所竈四部六部之所(支出金細目)からなる帳面	弘化4	年	7 月 1 日	—	—	小横帳	14.5 × 40.0	
547	東大史料 (託)	96	寅七月ノ所割勘定控	箇所持町人ごとに箇所銀からの貴銀・町入用を差引勘定した帳面	寅	年	7 月 1 日	—	—	横帳	15.0 × 41.5	
548	東大史料 (託)	97	申式番船臨時入用銀桁々請取帳	本石灰町が宿町もしくは附町となったと思われる申式番船に関連して発生した入用銀(日雇・長持運び足貫・井当代など)の書付。丸荷役・積荷役・荷見せ・会所渡・出帆・荷渡など、唐船貿易の諸手続きに従って日帳形式で記されている。	—	年	自7 月 8 日 至12 月 28 日	嘉兵太・宗平	—	横帳	14.5 × 41.0	
549	東大史料 (託)	98	子四番船權長持出入印形帳	本石灰町が宿町となった子四番船に関連して発生した入用銀(入用長持・權数書付など)の書付。唐船荷物丸荷役・積荷役・荷見せ・会所渡・出帆・荷渡など、唐船貿易の諸手続きに従って日帳形式で記されている。	子	年	6 月 1 日	宿 本石灰町	—	横帳	13.5 × 35.5	
550	東大史料 (託)	99	唐人番丑六番船修理諸調物并井当屋名前引替帳	本石灰町が宿町となった丑六番船修理にともなうて発生した井当・米・菜類の員数の書付、正月25日の井当屋として「嘉平次」という名前が記されている。	文政13	年	正 月 1 日	宿 本石灰町	—	横帳	14.5 × 40.8	
551	東大史料 (託)	100	卯吉番船附町雑用小前帳控	本石灰町が附町となった卯吉番船に関連して発生した入用銀(筆者・日行使井当代、小使・日雇賃金などの)の書付。丸荷役・積荷役・荷見せ・会所渡・銅積・荷渡など、唐船貿易の諸手続きに従って日帳形式で記されている。	卯	年	12 月 1 日	附町本石灰町 乙名本山勝之丞	—	横帳	13.5 × 36.0	
552	東大史料 (託)	101	子拾三番船附町雑用小前帳控	本石灰町が附町となったと思われる子拾三番船に関連して発生した入用銀(筆者・日行使井当代、小使・日雇賃金などの)の書付。丸荷役・積荷役・荷見せ・会所渡・銅積・荷渡など、唐船貿易の諸手続きに従って日帳形式で記されている。	子	年	1 月 1 日	本石灰町	—	横帳	13.5 × 36.0	
553	東大史料 (託)	102	卯三番船同四番船 彩船流三付諸入用小前帳	本石灰町が宿町もしくは附町となったと思われる卯三番船同四番船において2月7日から9日にかけて、彩船流が行われた際に発生した入用銀(乗船入用・小使日雇入用などの)の書付	辰	年	2 月 1 日	八右衛門・猪 曹助	—	横帳	13.5 × 35.0	
554	東大史料 (託)	103-1	悉万両簾入れ小割出シ目録	輸入織物類入れ簾落れ金額の書付	—	年	1 月 1 日	—	—	横帳	14.5 × 40.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
555	東大史料 (託)	103-2	(唐物)入札高差引き書付)	輸入織物類入札撤落札金額の書付	—	年	1 月 1 日	—	—	横帳	13.5 × 33.5	
556	東大史料 (託)	104	子八番船唐船方附町入用諸向銀渡し帳	本石灰町が附町となったと思われる子拾三番船に間違えて発生した入用銀(明船番賃・通船賃・弁当代など)の書付。日付ごとに請取印形を取っている	文化元	年	6 月 1 日	—	—	横帳	15.0 × 41.0	
557	東大史料 (託)	105	仰四番船南京船書留従平賀式部少輔孫二卿在勤 至中川飛騨守孫初御在勤	本石灰町が宿町となった仰四番船南京船(船頭楊樹堂・唐人教80人)の入津から出帆までの勤向日記	寛政7	年	6 月 14 日	宿本石灰町・附江戸町	—	小横帳	13.5 × 18.0	
558	東大史料 (託)	106	積銀一件申請書	積銀配当仕法開始につき、返納方法等願書、積銀踊町借用につき口達書、積銀配当仕法連印書号、など	文化14	年	8 月 1 日	〈高石恒次郎外84名〉	—	竖帳	25.5 × 18.5	
559	東大史料 (託)	107	本石灰町諸書留帳(大草能登守孫二卿在勤)	町乙名御用留。本石灰町より町年寄・加役乙名へ提出した書類の控え、町乙名御用日記、ほか。	文政13	年	正 月 1 日	〈本石灰町乙名本山重之丞〉	—	竖帳	28.5 × 20.0	
560	東大史料 (託)	108	丑六番船引合帳	丑12月11日信牌即より、唐船日雇頭・日雇賃金・販代、諸入用品代書付・勘定帳	文政13	年	1 月 1 日	鶴田	—	小横帳	13.5 × 18.0	
561	東大史料 (託)	109	波止場立合勤方并雑用相減候書付	波戸場立合勤方向書、水主・番船・通船入用等減少につき願書、ほか	〔酉〕	年	(12) 月 (18) 日	〈本山重野右衛門〉	—	横帳	14.5 × 41.5	
562	東大史料 (託)	110	客房直傳江戸筋元三っ目愚兼作 箱立や提竹と地つぶし 偏執	「鶴の港つこもりの道行」。長崎を舞台にした浄瑠璃・狂言の台本	—	年	1 月 1 日	倭好堂悦情(筆者) 瀬川権太郎	—	小横帳	14.5 × 21.0	
563	東大史料 (託)	111	佛道教経	仏教の教え。読み仮名をふる。	嘉永5	年	仲秋 月 下旬 日	—	—	竖帳	28.5 × 20.0	
564	東大史料 (託)	112-1	〔袋〕差紙入	袋の裏に内容物についての書書あり	文化11	年	12 月 1 日	—	—	袋	34.0 × 14.0	
565	東大史料 (託)	112-2	寛(人別送り状)	禅宗皓臺寺旦那さた(19歳)につき	文化11	年	12 月 1 日	諏訪町乙名西村次郎兵衛(印)	本石灰町乙名本山重兵衛殿	状	28.3 × 20.8	
566	東大史料 (託)	112-3	寛(人別送り状)	禅宗皓臺寺旦那紙屋甚兵衛借屋作之助(20歳)につき	文化11	年	12 月 1 日	江戸町乙名白濱(印) 漢入弥太	本石灰町乙名本山重兵衛殿	状	27.8 × 20.5	
567	東大史料 (託)	112-4	寛(人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那えつ(19歳)につき	文化11	年	12 月 1 日	東濱町乙名田口元次郎(印)	本石灰町乙名本山重兵衛殿	状	28.2 × 21.0	
568	東大史料 (託)	112-5	寛(人別送り状)	一向宗大光寺旦那勇藏女房もん(30歳)につき	文化11	年	12 月 1 日	今鍛冶屋町乙名金子恵吉郎(印)	本石灰町乙名本山重兵衛殿	状	28.3 × 26.0	
569	東大史料 (託)	112-6	寛(人別送り状)	一向宗光永寺旦那なる(25歳)につき	文化11	年	12 月 1 日	香合町乙名芦刈千代太郎(印)	本石灰町乙名本山重兵衛殿	状	28.0 × 20.0	
570	東大史料 (託)	112-7	寛(人別送り状)	一向宗大光寺旦那文友(27歳)・じゆん(2歳)につき	文化11	年	12 月 1 日	諏訪町乙名西村次郎兵衛(印) ⇒本石灰町乙名本山重兵衛殿	本石灰町乙名本山重兵衛殿	状	28.5 × 21.0	
571	東大史料 (託)	112-8	寛(人別送り状)	法華宗長照寺旦那つね(26歳)につき	文化11	年	12 月 1 日	諏訪町乙名西村次郎兵衛(印)	本石灰町乙名本山重兵衛殿	状	28.5 × 21.0	
572	東大史料 (託)	112-9	寛(人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那八郎右衛門借屋かな(40歳)につき	文化11	年	12 月 1 日	勝山町乙名馬田猪十郎(印)	本石灰町乙名本山重兵衛殿	状	27.5 × 25.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
573	東大史料 (託)	112-10	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那みや (24歳) につき	文化11	年	12 月 ー 日	新橋町乙名岩 清谷宗太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.5 × 27.0	
574	東大史料 (託)	112-11	寛 (人別送り状)	一向宗深養寺旦那浅五郎 (44歳) につき	文化11	年	12 月 ー 日	新石灰町乙名 南部權一郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.0 × 28.0	
575	東大史料 (託)	112-12	寛 (人別送り状)	浄土宗茂木村船津十五郎娘なみ (30歳) につき	文化11	年	12 月 ー 日	茂木村庄屋森 岡貞八郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.5 × 24.3	
576	東大史料 (託)	112-13	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那こと (6歳) につき	文化11	年	12 月 ー 日	江戸町乙名白 濱八弥太 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	27.2 × 21.0	
577	東大史料 (託)	112-14	寛 (人別送り状)	禪宗略臺寺旦那よね (22歳) につき	文化11	年	12 月 ー 日	丸山町乙名藤 野義作 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.0 × 20.5	
578	東大史料 (託)	112-15	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那たつ (16歳) につき	文化11	年	12 月 ー 日	船大工町乙名 荒木權太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.0 × 20.5	
579	東大史料 (託)	112-16	寛 (人別送り状)	一向宗深養寺旦那梅田源右衛門借屋富助 (40歳) ・同女房 (28歳) ・母 (73歳) につき	文化11	年	12 月 ー 日	東築町乙名荒 木龜八郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.3 × 30.5	
580	東大史料 (託)	112-17	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那又太郎 (6歳) につき	文化11	年	12 月 ー 日	引地町乙名桃 井彦次右衛門 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.0 × 31.3	
581	東大史料 (託)	112-18	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那築山多三家内房五郎 (23歳) につき	文化11	年	12 月 ー 日	銀座町乙名賀 古市郎右衛門 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.0 × 30.5	
582	東大史料 (託)	112-19	寛 (人別送り状)	一向宗西勝寺旦那けん (29歳) につき	文化11	年	12 月 ー 日	今風町乙名長 江隆四郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.3 × 21.3	
583	東大史料 (託)	113-1	[袋] 差紙入	袋の裏に内容物についての寛書あり	文化12	年	12 月 ー 日	本石灰町	ー	袋	31.0 × 14.0	
584	東大史料 (託)	113-2	寛 (人別送り状)	浄土宗茂木村亀藏従兄弟富助 (26歳) につき	文化12	年	12 月 ー 日	茂木村庄屋森 岡貞八郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.0 × 24.0	
585	東大史料 (託)	113-3	寛 (人別送り状)	一向宗観養寺旦那中村政八郎又兵衛 (32歳) につき	文化12	年	12 月 ー 日	東濱町乙名田 口元次郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.2 × 18.5	
586	東大史料 (託)	113-4	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那ます (66歳)	文化12	年	12 月 ー 日	万屋町乙名小 田官兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	27.8 × 33.8	
587	東大史料 (託)	113-5	寛 (人別送り状)	一向宗勸善寺旦那清藏 (55歳) ・同娘せい (22歳) ・同じき (8歳) につき	文化12	年	12 月 ー 日	今鯉治屋町乙 名金子恵吉郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	27.8 × 33.0	
588	東大史料 (託)	113-6	寛 (人別送り状)	真言宗延命寺旦那とは (57歳) につき	文化12	年	12 月 ー 日	大井手町乙名 林八郎太 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.5 × 21.0	
589	東大史料 (託)	113-7	寛 (人別送り状)	一向宗深養寺旦那松岡始庵娘みの (23歳) ・同うた (3歳) につき	文化12	年	12 月 ー 日	船大工町乙名 荒木權太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.2 × 35.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
590	東大史料 (託)	113-8	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那きよ (25歳) につき	文化12	年	12 月 一 日	寄合町乙名芦 知千代太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.8 × 21.0	
591	東大史料 (託)	113-9	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那外尾廣右衛門 (31歳) ・同女房 (29歳) につき	文化12	年	12 月 一 日	船大工町乙名 荒木権太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.2 × 35.0	
592	東大史料 (託)	113-10	寛 (人別送り状)	一向宗正豊寺旦那村田傳右衛門娘とも借屋庄人 (62歳) 他 女房・梓・孫合計6名につき	文化12	年	12 月 一 日	夷濱町乙名田 口元次郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.5 × 24.0	
593	東大史料 (託)	113-11	寛 (人別送り状)	浄土宗三寶寺旦那市太郎 (41歳) につき	文化12	年	12 月 一 日	桜町乙名黒川 勘八郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.0 × 21.0	
594	東大史料 (託)	113-12	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那安川熊次郎家代安川屋慶次郎母まさ (48歳) ・娘みつ (14歳) につき	文化12	年	12 月 一 日	東濱町乙名田 口元次郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.5 × 20.8	
595	東大史料 (託)	113-13	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那其太郎 (21歳) につき	文化12	年	12 月 一 日	西上町乙名宮 敬次郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.0 × 25.5	
596	東大史料 (託)	113-14	寛 (人別送り状)	禅宗略臺寺旦那長仙 (11歳) につき	文化12	年	12 月 一 日	八幡町乙名木 下潤太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.0 × 20.3	
597	東大史料 (託)	113-15	寛 (人別送り状)	禅宗略臺寺旦那なみ (37歳) につき	文化12	年	12 月 一 日	寄合町乙名芦 知千代太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	29.0 × 21.0	
598	東大史料 (託)	113-16	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那喜市 (29歳) につき	文化12	年	12 月 一 日	東濱町乙名田 口元次郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.5 × 17.3	
599	東大史料 (託)	113-17	寛 (人別送り状)	一向宗深崇寺旦那文八女房 (48歳) ・同人子つる (12歳) ・ 同文次郎 (6歳) につき	文化12	年	12 月 一 日	船大工町乙名 荒木権太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.3 × 40.8	
600	東大史料 (託)	114-1	[袋] 差紙入	袋の裏に内容物についての寛書あり	文化13	年	12 月 一 日	本石灰町	—	袋	37.5 × 13.0	
601	東大史料 (託)	114-2	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那源次郎伴菊三郎 (2歳) につき	文化13	年	12 月 一 日	浦五嶋町乙名 守田寛三郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.0 × 25.0	
602	東大史料 (託)	114-3	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那さな (42歳) につき	文化13	年	3 月 一 日	久松通次郎内 帆足其右衛門 (印)	本山重兵衛殿	状	28.0 × 26.0	
603	東大史料 (託)	114-4	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那熊本屋卯三郎 (16歳) につき	文化13	年	12 月 一 日	桜嶋町乙名境 徳松 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.0 × 20.3	
604	東大史料 (託)	114-5	寛 (人別送り状)	浄土宗三寶寺旦那今啓輔 (27歳) につき	文化13	年	12 月 一 日	新廻善町乙名 角谷亀吉 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.0 × 20.3	
605	東大史料 (託)	114-6	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那たけ (23歳) につき	文化13	年	12 月 一 日	新大工町乙名 北嶋三弥太 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.3 × 22.5	
606	東大史料 (託)	114-7	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那善四郎 (42歳) につき	文化13	年	12 月 一 日	新石灰町組合 乙名浅井宇十 郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.0 × 26.5	
607	東大史料 (託)	114-8	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那のふ (35歳) ・きく (3歳) につき	文化13	年	12 月 一 日	今魚町乙名長 江啓四郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.8 × 25.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年 月 日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
608	東大史料 (託)	114-9	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那町屋敷借屋しけ (66歳)につき	文化13 年 12 月 ー 日	寄合町乙名芦 刈千代太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.3 × 21.0	
609	東大史料 (託)	114-10	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那森安茂四郎借屋伊三郎 (49歳) につき	文化13 年 12 月 ー 日	出来大工町乙 名若杉喜徳郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.0 × 19.7	
610	東大史料 (託)	114-11	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那さく (40歳) につき	文化13 年 12 月 ー 日	西古川町乙名 前國源之丞 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.5 × 32.0	
611	東大史料 (託)	114-12	寛 (人別送り状)	禪宗晴臺寺旦那佐藤忠八郎借屋嘉四郎 (43歳) につき	文化13 年 12 月 ー 日	今籠町乙名淺 井幸十郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.3 × 34.3	
612	東大史料 (託)	114-13	寛 (人別送り状)	一向宗深崇寺旦那愛助 (45歳) につき	文化13 年 12 月 ー 日	本紙屋町乙名 中村作之進 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.0 × 21.0	
613	東大史料 (託)	114-14	寛 (人別送り状)	一向宗深崇寺旦那すん (38歳) につき	文化13 年 12 月 ー 日	東古川町乙名 宇野熊之丞 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.8 × 21.5	
614	東大史料 (託)	114-15	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那かや (3歳) につき	文化13 年 12 月 ー 日	東濱町乙名田 口元次郎 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.3 × 21.2	
615	東大史料 (託)	114-16	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那いち (58歳) につき	文化13 年 12 月 ー 日	西古川町乙名 前國源之丞 (印)	本石灰町乙名 本山重兵衛殿	状	28.5 × 31.0	
616	東大史料 (託)	115-1	[袋] 差紙入	中に人別送り状の綴 (20通) 入り	天保12 年 12 月 ー 日	本石灰町	ー	袋	38.5 × 13.0	
617	東大史料 (託)	115-2	寛 (人別送り状)	禪宗略台寺旦那とき (27歳) につき	天保12 年 12 月 ー 日	堀町乙名藤田 邦三郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.5 × 20.0	
618	東大史料 (託)	115-3	寛 (人別送り状)	一向宗光源寺旦那重助 (58歳) 他2名につき	天保12 年 12 月 ー 日	諏訪町乙名西 村次郎兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.5 × 23.0	
619	東大史料 (託)	115-4	寛 (人別送り状)	一向宗光源寺旦那太兵衛 (29歳) につき	天保12 年 12 月 ー 日	高木定四郎内 次内莊兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	25.0 × 21.5	
620	東大史料 (託)	115-5	寛 (人別送り状)	一向宗西勝寺旦那しか (35歳) につき	天保12 年 12 月 ー 日	本下町乙名清 田禪助 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 19.5	
621	東大史料 (託)	115-6	寛 (人別送り状)	浄土宗茂木村船津百松從弟く (30歳) ・伴助次郎につき	天保12 年 12 月 ー 日	茂木村庄屋森 岡幸一郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 24.0	
622	東大史料 (託)	115-7	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那ふじ (60歳) につき	天保12 年 12 月 ー 日	万屋町代乙名 小田長之丞 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
623	東大史料 (託)	115-8	寛 (人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那里郷善四郎家内五三郎 (35歳) 他1名につ き	天保12 年 12 月 ー 日	浦上村山里庄 屋高谷官十郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進 (マテ) 殿	状	27.0 × 30.0	
624	東大史料 (託)	115-9	寛 (人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那横山基次郎 (23歳) につき	天保12 年 12 月 ー 日	今籠町乙名高 石左右作 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.5 × 20.0	
625	東大史料 (託)	115-10	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那小川慶右衛門 (51歳) 他1名につき	天保12 年 12 月 ー 日	万屋町代乙名 小田長之丞 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 19.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
626	東大史料 (託)	115-11	寛 (人別送り状)	浄土宗浄安寺旦那てる (12歳) につき	天保12	年	12 月 ー 日	銅座跡支配乙名北嶋傳助 (印) 他1名	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 19.5	
627	東大史料 (託)	115-12	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那弥三郎 (38歳) につき	天保12	年	12 月 ー 日	長崎村庄屋森田三郎助 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
628	東大史料 (託)	115-13	寛 (人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那玄貞 (27歳) につき	天保12	年	12 月 ー 日	大村町乙名田邊源之助 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
629	東大史料 (託)	115-14	寛 (人別送り状)	一向宗源崇寺旦那兵藏 (19歳) につき	天保12	年	11 月 ー 日	長崎村庄屋森田三郎助 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
630	東大史料 (託)	115-15	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那津知 (34歳) につき	天保12	年	12 月 ー 日	東濱町乙名田口米太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
631	東大史料 (託)	115-16	寛 (人別送り状)	禅宗光雲寺旦那森田三郎助家内米次郎女房事むめ (41歳) につき	天保12	年	閏正 月 ー 日	長崎村庄屋森田三郎助 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.5 × 19.0	
632	東大史料 (託)	115-17	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那源十郎 (26歳) につき	天保12	年	12 月 ー 日	万屋町代乙名小田長之丞 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.5 × 20.0	
633	東大史料 (託)	115-18	寛 (人別送り状)	一向宗観善寺旦那熊之助 (30歳) につき	天保12	年	12 月 ー 日	勝山町乙名馬田佐十郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
634	東大史料 (託)	115-19	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那高野平郷さち母家内浅太郎 (17歳) 他1名につき	天保12	年	12 月 ー 日	長崎村庄屋森田三郎助 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
635	東大史料 (託)	115-20	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那たか (25歳) につき	天保12	年	10 月 ー 日	新石灰町乙名南部六太夫 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.5 × 20.0	
636	東大史料 (託)	115-21	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺旦那本庄才助家内吉田謙治他家族2名につき	[天保12]	年	12 月 ー 日	唐人番梅頭本庄才助 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.5 × 30.0	
637	東大史料 (託)	116-1	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺家内よし (28歳) 差紙、本石灰町日行使八右衛門方へ引請につき	文化5	年	12 月 ー 日	玉泉院	本山重太夫殿	状	30.0 × 36.5	
638	東大史料 (託)	116-2	寛 (人別送り状)	浄土宗三寶寺旦那恒之助 (3歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	西濱町乙名高松栄八郎 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	28.0 × 20.0	
639	東大史料 (託)	116-3	寛 (人別送り状)	浄土宗三寶寺旦那藤田亥七郎 (29歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	堀町乙名藤田清九郎 (印)	本石灰町乙名 本山重左衛門殿	状	28.5 × 27.0	
640	東大史料 (託)	116-4	寛 (人別送り状)	禅宗睦量寺旦那みち (54歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	小川町乙名立石善三太 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	28.0 × 24.0	
641	東大史料 (託)	116-5	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那たき (17歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	重上町乙名宮崎三郎右衛門 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	28.5 × 21.0	
642	東大史料 (託)	116-6	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那江崎寿安 (33歳) ・同女房・子・父・同女房合計5名につき	文化5	年	12 月 ー 日	今鶴治屋町乙名金子恵吉郎 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	28.0 × 28.3	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
643	東大史料 (託)	116-7	寛 (人別送り状)	一向宗西勝寺旦那しけ (29歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	西中町乙名横田市郎八 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	28.5 × 21.5	
644	東大史料 (託)	116-8	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那吉村七之助借屋利代(八女房とよ (49歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	船津町乙名帯屋作次郎 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	29.5 × 26.0	
645	東大史料 (託)	116-9	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那源五郎女房よね (61歳) ・ 子清兵衛 (26歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	出来鍛冶屋町乙名中尾八郎 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	28.5 × 26.5	
646	東大史料 (託)	116-10	寛 (人別送り状)	浄土宗三寶寺旦那まし (64歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	今博多町乙名北嶋傳四郎 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	28.5 × 25.2	
647	東大史料 (託)	116-11	寛 (人別送り状)	一向宗常永寺旦那藤平九郎借屋しか(34歳) ・ 赤瀬元東 (12歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	銅座跡支配乙名村尾三右衛門 (印) 他1名	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	28.5 × 21.0	
648	東大史料 (託)	116-12	寛 (人別送り状)	一向宗深崇寺旦那神田清三郎借屋喜久之助 (30歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	廻屋町乙名吉野新五郎 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	28.0 × 20.0	
649	東大史料 (託)	116-13	寛 (人別送り状)	浄土宗浄安寺旦那萬次郎 (14歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	牧田行四郎 (印) 他1名	本山重太夫殿	状	28.0 × 39.5	
650	東大史料 (託)	116-14	寛 (人別送り状)	一向宗西勝寺旦那のら (41歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	船大工町乙名荒木傳兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	27.5 × 20.0	
651	東大史料 (託)	116-15	寛 (人別送り状)	浄土宗茂木村木場名平助伯母ませ (50歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	茂木村庄屋森岡種左衛門 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	29.0 × 20.0	
652	東大史料 (託)	116-16	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那たか (39歳) ・ 娘いと (12歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	真濱町乙名田口元次郎 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	27.5 × 30.0	
653	東大史料 (託)	116-17	寛 (人別送り状)	禅宗光雲寺旦那とみ (19歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	江戸町乙名白濱茂四郎 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	28.0 × 20.5	
654	東大史料 (託)	116-18	寛 (人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那とめ (34歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	長崎村庄屋森田貞六 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	28.0 × 20.5	
655	東大史料 (託)	116-19	寛 (人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那たま (25歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	江戸町乙名白濱茂四郎 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	28.0 × 20.5	
656	東大史料 (託)	116-20	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那吟蔵 (25歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	後醍醐町乙名末次忠助 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	28.0 × 25.0	
657	東大史料 (託)	116-21	寛 (人別送り状)	一向宗深崇寺旦那かめ (38歳) につき	文化5	年	12 月 ー 日	船大工町荒木傳兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	27.5 × 20.0	
658	東大史料 (託)	116-22	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那町屋鋪借屋みさ (43歳) 他娘2名につき	文化5	年	12 月 ー 日	本籍町乙名田口源五郎 (印)	本石灰町乙名 本山重太夫殿	状	27.5 × 28.5	
659	東大史料 (託)	117-1	[袋] 差紙入	中に入別送り状の綴 (37通) 入り	天保13	年	12 月 ー 日	本石灰町	ー	綴 (袋共)	32.5 × 13.5	
660	東大史料 (託)	117-2	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那由太郎 (47歳) 他家族2名につき	天保13	年	12 月 ー 日	東古川町乙名宇野種太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.5 × 22.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
661	東大史料 (託)	117-3	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那井上喜三八借屋いへ (25歳) につき	天保13	年	8 月 一 日	油屋町乙名村尾三右衛門 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 13.5	
662	東大史料 (託)	117-4	寛 (人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那周林 (33歳) につき	天保13	年	11 月 一 日	桜町乙名境武平 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.5 × 19.0	
663	東大史料 (託)	117-5	寛 (人別送り状)	浄土宗浄安寺旦那とら (30歳) につき	天保13	年	7 月 一 日	桑合町乙名芦荻高之進 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.5 × 20.0	
664	東大史料 (託)	117-6	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那久太郎 (27歳) 他家族4名につき	天保13	年	12 月 一 日	西築町乙名荒木天蔵 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.5 × 31.0	
665	東大史料 (託)	117-7	寛 (人別送り状)	浄土宗浄安寺旦那糸ひ (8歳) につき	天保13	年	12 月 一 日	内中町乙名梶嶋富次郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
666	東大史料 (託)	117-8	寛 (人別送り状)	一向宗西勝寺旦那井上弥兵衛娘みつ (26歳) につき	天保13	年	8 月 一 日	東中町組合東上町乙名宮崎興一郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.5 × 20.0	
667	東大史料 (託)	117-9	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那黒精惣左衛門借屋熊太郎 (34歳) につき	天保13	年	8 月 一 日	東中町組合東上町乙名宮崎興一郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.5 × 20.0	
668	東大史料 (託)	117-10	寛 (人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那万屋和吉借屋清蔵 (56歳) 他家族2名につき	天保13	年	12 月 一 日	大黒町乙名徳岡勘十郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 40.0	
669	東大史料 (託)	117-11	寛 (人別送り状)	禅宗略台寺旦那中川十郎借屋たせ (74歳) につき	天保13	年	11 月 一 日	江戸町乙名白兵重三郎 (印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	27.0 × 20.0	
670	東大史料 (託)	117-12	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那若木屋緒八借屋みよ家内せひ (25歳) 他1名につき	天保13	年	12 月 一 日	後興善町乙名末次太一郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
671	東大史料 (託)	117-13	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那茂八 (27歳) につき	天保13	年	12 月 一 日	船大工町乙名荒木伝蔵 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
672	東大史料 (託)	117-14	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那はな (48歳) につき	天保13	年	12 月 一 日	船大工町乙名荒木伝蔵 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
673	東大史料 (託)	117-15	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那とも (43歳) につき	天保13	年	10 月 一 日	浮船町乙名家原文平 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
674	東大史料 (託)	117-16	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那作平 (65歳) につき	天保13	年	12 月 一 日	船大工町乙名荒木伝蔵 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 19.0	
675	東大史料 (託)	117-17	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那亀吉娘よし (2歳) につき	天保13	年	12 月 一 日	船大工町乙名荒木伝蔵 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 19.0	
676	東大史料 (託)	117-18	寛 (人別送り状)	一向宗榮崇寺旦那岩五郎 (11歳) につき	天保13	年	12 月 一 日	桶屋町乙名藤昇一郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 26.5	
677	東大史料 (託)	117-19	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那森巻之助借屋永太郎 (29歳) につき	天保13	年	12 月 一 日	新興善町乙名角谷作助 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
678	東大史料 (託)	117-20	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那保助 (52歳) 他2名につき	天保13	年	12 月 一 日	船大工町乙名荒木伝蔵 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 24.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
679	東大史料 (託)	117-21	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那くら (19歳) につき	天保3	年	12 月 ー 日	本絰屋町乙名 横瀬淵之助 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.5 × 20.0	
680	東大史料 (託)	117-22	寛 (人別送り状)	浄土宗三宝寺旦那内田元次郎 (20歳) 他2名につき	天保3	年	12 月 ー 日	北馬町乙名中 村幸之進 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 29.0	
681	東大史料 (託)	117-23	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那菊屋仁兵衛 (44歳) につき	天保3	年	12 月 ー 日	船大工町乙名 荒木伝蔵 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.5	
682	東大史料 (託)	117-24	寛 (人別送り状)	浄土宗三宝寺旦那いよ (26歳) につき	天保3	年	7 月 ー 日	香合町乙名芦 河高之進 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.5 × 20.5	
683	東大史料 (託)	117-25	寛 (人別送り状)	一向宗西勝寺旦那小川屋徳七借屋源右衛門 (71歳) ・同女 房につき	天保3	年	12 月 ー 日	大黒町乙名徳 屋範十郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 34.5	
684	東大史料 (託)	117-26	寛 (人別送り状)	浄土宗茂木村上木壩宅蔵従弟普蔵 (49歳) 他1名につき	天保3	年	12 月 ー 日	茂木村庄屋森 岡幸一郎 (印)	本石灰町乙名 本 (マツ) 山 重之丞殿	状	28.5 × 25.5	
685	東大史料 (託)	117-27	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那たかにつき	天保3	年	12 月 ー 日	本下町乙名清 田禰助 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 19.5	
686	東大史料 (託)	117-28	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺旦那三浦八太郎借屋ふし (58歳) につき	天保3	年	11 月 ー 日	金屋町乙名松 田又之助 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 19.0	
687	東大史料 (託)	117-29	寛 (人別送り状)	浄土宗三宝寺旦那町屋鋪借屋さよ (64歳) 他名につき	天保3	年	12 月 ー 日	丸山町乙名藤 野猪代松 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 19.0	
688	東大史料 (託)	117-30	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那とく (16歳) につき	天保3	年	12 月 ー 日	香合町乙名芦 河高之進 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.5 × 20.5	
689	東大史料 (託)	117-31	寛 (人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那末吉 (14歳) 他3名につき	天保3	年	10 月 ー 日	出来鍛冶町乙 名中尾峰之助 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 26.0	
690	東大史料 (託)	117-32	寛 (人別送り状)	浄土宗茂木村田手原ぐに娘さめ (16歳) につき	天保3	年	12 月 ー 日	茂木村庄屋森 岡幸一郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	28.0 × 25.0	
691	東大史料 (託)	117-33	寛 (人別送り状)	一向宗深崇寺旦那高階宗之進 (44歳) 他2名につき	天保3	年	12 月 ー 日	船大工町乙名 荒木伝蔵 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 24.0	
692	東大史料 (託)	117-34	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那とく (34歳) につき	天保3	年	12 月 ー 日	万屋町代乙名 小口長之丞 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.5	
693	東大史料 (託)	117-35	寛 (人別送り状)	一向宗光源寺旦那るひ (8歳) につき	天保3	年	12 月 ー 日	出来大工町乙 名若杉傳重郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 18.5	
694	東大史料 (託)	117-36	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那かう (25歳) につき	天保3	年	11 月 ー 日	本五嶋町乙名 犬塚幸右衛門 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
695	東大史料 (託)	117-37	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那飛鳥助次郎子松次郎 (27歳) につき	天保3	年	12 月 ー 日	船津町乙名市 屋徳三郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 25.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
696	東大史料 (託)	117-38	寛 (人別送り状)	禪宗善徳寺旦那政次郎 (27歳) につき	天保13	年	12 月 ー 日	新石灰町乙名 南部助之進 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 18.5	
697	東大史料 (託)	118-1	[袋] 卯年差紙入	中に人別送り状の綴 (22通) 入り	[天保14]	年	12 月 ー 日	本石灰町	ー	綴 (袋共)	36.0 × 11.5	
698	東大史料 (託)	118-2	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那豊吉家内かめ (45歳) につき	天保14	年	9 月 ー 日	丸山町乙名猪 代松 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.0 × 19.5	
699	東大史料 (託)	118-3	寛 (人別送り状)	禪宗皓台寺旦那豊四郎 (5歳) につき	天保14	年	12 月 ー 日	西古川町乙名 源八郎 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
700	東大史料 (託)	118-4	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那傳藏 (26歳) につき	天保14	年	12 月 ー 日	東上町乙名興 一郎 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
701	東大史料 (託)	118-5	寛 (人別送り状)	浄土宗悟真寺旦那稻佐郷石左衛門後家たね (47歳) につき	天保14	年	12 月 ー 日	洲村庄屋志賀 九郎助 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.5 × 20.0	
702	東大史料 (託)	118-6	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那那ノ左衛門家内なか (25歳) につき	天保14	年	9 月 ー 日	寄合町乙名高 之進 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.5 × 19.0	
703	東大史料 (託)	118-7	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那源吉 (24歳) 他1名につき	天保14	年	12 月 ー 日	西古川町乙名 源八郎 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.5 × 26.0	
704	東大史料 (託)	118-8	寛 (人別送り状)	浄土宗日見村とめ従弟ひさ (67歳) につき	天保14	年	12 月 ー 日	石村藩前茂木 村庄屋森岡幸 一郎 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.5 × 20.0	
705	東大史料 (託)	118-9	寛 (人別送り状)	禪宗皓台寺旦那しけ (21歳) につき	天保14	年	8 月 ー 日	新石灰町乙名 南部兵太夫 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.5 × 20.0	
706	東大史料 (託)	118-10	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那平藏 (34歳) につき	天保14	年	12 月 ー 日	今紺屋町乙名 権之助 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.5 × 20.0	
707	東大史料 (託)	118-11	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那重兵衛 (57歳) につき	天保14	年	12 月 ー 日	万屋町代乙名 長之丞 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.5 × 20.0	
708	東大史料 (託)	118-12	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那興兵衛娘つた (29歳) 他1名	天保14	年	12 月 ー 日	東湊町乙名米 太郎 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.5 × 19.0	
709	東大史料 (託)	118-13	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那むろ (23歳) につき	天保14	年	6 月 ー 日	丸山町乙名猪 代松 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.5 × 19.5	
710	東大史料 (託)	118-14	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那かめ (7歳) につき	天保14	年	12 月 ー 日	東湊町乙名米 太郎 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
711	東大史料 (託)	118-15	寛 (人別送り状)	一向衆深崇寺旦那勤兵衛子勇藏 (20歳) につき	天保14	年	12 月 ー 日	真中町乙名勝 右衛門 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.5 × 19.5	
712	東大史料 (託)	118-16	寛 (人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那から (18歳) 他1名につき	天保14	年	12 月 ー 日	新石灰町乙名 南部兵太夫 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
713	東大史料 (託)	118-17	寛 (人別送り状)	禪宗皓台寺旦那猪三郎借屋とせ (30歳) 他1名につき	天保14	年	6 月 ー 日	豊後町乙名菊 太郎 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
714	東大史料 (託)	118-18	寛 (人別送り状)	禪宗皓台寺旦那中山本平次 (51歳) 他5名につき	天保14	年	7 月 ー 日	上糴町乙名左 右作 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.5 × 40.0	
715	東大史料 (託)	118-19	寛 (人別送り状)	一向宗観善寺旦那とひ (21歳) につき	天保14	年	12 月 ー 日	東築町乙名荒 木栄之助 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.0 × 20.0	
716	東大史料 (託)	118-20	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那伊三郎 (16歳) につき	天保14	年	12 月 ー 日	八幡町乙名木 下勇之助 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.0 × 20.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦	横	備考
717	東大史料 (託)	118-21	寛 (人別送り状)	一向宗観音寺旦那たま (23歳) につき	天保14	年	12 月 ー 日	寄合町乙名高 之進 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.0 × 20.0		
718	東大史料 (託)	118-22	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那ぬひ借屋とめ (62歳) につき	天保14	年	7 月 ー 日	油屋町乙名定 次郎 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	28.0 × 20.0		
719	東大史料 (託)	118-23	寛 (人別送り状)	禅宗光雲寺旦那馬場細末松家内いね (30歳) につき	天保14	年	7 月 ー 日	長崎村庄屋森 田三郎助 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.5 × 20.0		
720	東大史料 (託)	119-1	[袋] 辰年差紙入	中に人別送り状の綴 (22通) 入り	[天保15]	年	ー 月 ー 日	本石灰町	ー	袋	30.0 × 13.5		
721	東大史料 (託)	119-2	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺旦那よし借屋とめ家内すまにつき	天保15	年	8 月 ー 日	丸山町乙名猪 代松 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	27.0 × 20.0		
722	東大史料 (託)	119-3	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那小嶋細いね家内長山娘すまにつき	天保15	年	12 月 ー 日	長崎村庄屋森 田三郎助 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	ー × ー		
723	東大史料 (託)	119-4	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那要吉につき	天保15	年	12 月 ー 日	油屋町乙名定 次郎 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	ー × ー		
724	東大史料 (託)	119-5	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺旦那吉次郎につき	天保15	年	12 月 ー 日	今紺屋町乙名 福之助 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	ー × ー		
725	東大史料 (託)	119-6	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那小嶋細藤五郎家内りんにつき	天保15	年	12 月 ー 日	長崎村庄屋森 田三郎助 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	ー × ー		
726	東大史料 (託)	119-7	寛 (人別送り状)	一向宗光源寺旦那善次につき	天保15	年	12 月 ー 日	酒屋町乙名三 右衛門 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	ー × ー		
727	東大史料 (託)	119-8	寛 (人別送り状)	浄土宗茂木村船津吉蔵伴増太郎につき	天保15	年	12 月 ー 日	茂木村庄屋森 岡幸一郎 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	ー × ー		
728	東大史料 (託)	119-9	寛 (人別送り状)	一向宗光源寺旦那みつにつき	天保15	年	12 月 ー 日	東濱町乙名米 太郎 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	ー × ー		
729	東大史料 (託)	119-10	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺旦那りきにつき	天保15	年	12 月 ー 日	八幡町乙名木 下勇之助 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	ー × ー		
730	東大史料 (託)	119-11	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那借助借屋まつ他3名につき	天保15	年	7 月 ー 日	新石灰町乙名 助之進 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	ー × ー		
731	東大史料 (託)	119-12	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那薑平次子徳太郎につき	天保15	年	12 月 ー 日	榎津町乙名豊 八 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	ー × ー		
732	東大史料 (託)	119-13	寛 (人別送り状)	浄土宗茂木村藤田尾貞右衛門姉あさ他1名につき	天保15	年	12 月 ー 日	茂木村庄屋森 岡幸一郎 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	ー × ー		
733	東大史料 (託)	119-14	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺旦那長右衛門借屋次郎(他1名)につき	天保15	年	12 月 ー 日	八幡町乙名木 下勇之助 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	ー × ー		
734	東大史料 (託)	119-15	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那右衛門姉さくにつき	天保15	年	12 月 ー 日	油屋町乙名定 次郎 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	ー × ー		
735	東大史料 (託)	119-16	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那治兵衛につき	天保15	年	5 月 ー 日	新石灰町乙名 南部兵太夫 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	ー × ー		
736	東大史料 (託)	119-17	寛 (人別送り状)	一向宗光源寺旦那小嶋細卯平太家内とら他1名につき	天保15	年	4 月 ー 日	長崎村庄屋森 田三郎助 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	ー × ー		

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦	横	備考
737	東大史料 (託)	119-18	寛 (人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那寺野御金左衛門子源助他1名につき	天保15	年	12月1日	浦上村洲庄屋 志賀九郎助 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	—	× —	
738	東大史料 (託)	119-19	寛 (人別送り状)	一向正宗寛寺旦那高野平綱伊三郎家内つち母しなにつき	天保15	年	12月1日	長崎村庄屋森 田三郎助 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	—	× —	
739	東大史料 (託)	119-20	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那じゆんにつき	天保15	年	12月1日	油屋町乙名定 次郎 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	—	× —	
740	東大史料 (託)	119-21	寛 (人別送り状)	一向宗海蔵寺家内たにつき	天保15	年	12月1日	野母村海蔵寺 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	—	× —	
741	東大史料 (託)	119-22	寛 (人別送り状)	禪宗春徳寺旦那政四郎につき	天保15	年	12月1日	重古川町乙名 種太郎 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	—	× —	
742	東大史料 (託)	119-23	寛 (人別送り状)	一向宗光源寺旦那ゑんにつき	天保15	年	12月1日	八幡町乙名木 下勇之助 (印)	本石灰町乙名 重之丞殿	状	—	× —	
743	東大史料 (託)	120-1	[銭] 戊年差紙入	中の人別送り状の綴 (15通) 入り	[天保9]	年	1月1日	本石灰町	—	袋	36.5 × 12.5		
744	東大史料 (託)	120-2	寛 (人別送り状)	一向正宗寛寺旦那高野平綱喜平太女房せいにつき	天保9	年	12月1日	長崎村庄屋森 田三郎助 (印)	本石灰町乙名 西村常太郎殿	状	27.0 × 20.0		
745	東大史料 (託)	120-3	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那惣三郎につき	天保9	年	12月1日	東濱町乙名田 口米太郎 (印)	本石灰町乙名 西村常太郎殿	状	—	× —	
746	東大史料 (託)	120-4	寛 (人別送り状)	一向正宗寛寺旦那森又平次家内藤三郎につき	天保9	年	12月1日	今石灰町乙名 中尾幸三郎 (印)	本石灰町乙名 西村常太郎殿	状	—	× —	
747	東大史料 (託)	120-5	寛 (人別送り状)	一向正宗寛寺旦那菊太郎につき	天保9	年	12月1日	油屋町乙名村 尾三右衛門 (印)	本石灰町代乙 名西村恒太郎 殿	状	—	× —	
748	東大史料 (託)	120-6	寛 (人別送り状)	禪宗皓台寺旦那茂四郎につき	天保9	年	12月1日	油屋町乙名村 尾三右衛門 (印)	本石灰町代乙 名西村恒太郎 殿	状	—	× —	
749	東大史料 (託)	120-7	寛 (人別送り状)	禪宗永昌寺旦那松尾喜十郎借屋弥兵衛女房ひさ他1名につき	天保9	年	12月1日	本博多町乙名 高石次八郎 (印)	本石灰町代乙 名西村恒太郎 殿	状	—	× —	
750	東大史料 (託)	120-8	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那他5名につき	天保9	年	9月1日	今魚町乙名長 江晋作 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	—	× —	
751	東大史料 (託)	120-9	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那いしにつき	天保9	年	12月1日	万屋町代乙名 小田長之丞 (印)	本石灰町代乙 名西村恒太郎 殿	状	—	× —	
752	東大史料 (託)	120-10	寛 (人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那俊平他4名につき	天保9	年	12月1日	西上町乙名宮 三九郎 (印)	本石灰町代乙 名西村恒太郎 殿	状	—	× —	
753	東大史料 (託)	120-11	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那らくにつき	天保9	年	12月1日	新大工町乙名 小嶋要之助 (印)	本石灰町代乙 名西村恒太郎 殿	状	—	× —	
754	東大史料 (託)	120-12	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那小嶋綱吉郎太家内文祐他2名につき	天保9	年	12月1日	長崎村庄屋森 田三郎助 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	—	× —	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦	横	備考
765	東大史料 (託)	120-13	覚 (人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那もりにつき	天保9	年	12 月 一 日	万屋町代乙名 小田長之丞 (印)	本石灰町代乙名 名西村恒太郎 殿	状	—	× —	
766	東大史料 (託)	120-14	覚 (人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那富永屋仁兵衛借屋才兵衛につき	天保9	年	12 月 一 日	伊勢町乙名西 川六次郎 (印)	本石灰町代乙名 名西村恒太郎 殿	状	—	× —	
767	東大史料 (託)	120-15	覚 (人別送り状)	一向宗深崇寺旦那作十郎他2名につき	天保9	年	12 月 一 日	西上町乙名宮 三九郎 (印)	本石灰町代乙名 名西村恒太郎 殿	状	—	× —	
768	東大史料 (託)	120-16	覚 (人別送り状)	禪宗略台寺旦那平次につき	天保9	年	12 月 一 日	万屋町代乙名 小田長之丞 (印)	本石灰町代乙名 名西村恒太郎 殿	状	—	× —	
769	東大史料 (託)	121-1	[袋] 差紙入	中に人別送り状の綴 (13通) 入り	天保11	年	一 月 一 日	本石灰町 今簗町乙名高 石恒之助 (印)	—	袋	29.0 × 13.5		
760	東大史料 (託)	121-2	覚 (人別送り状)	禪宗永昌寺旦那なかにつき	天保11	年	12 月 一 日	大黒町 徳岡 政八郎→本石 灰町乙名本山 重之丞殿	本石灰町乙名 名西村恒太郎 殿	状	27.0 × 20.0		
761	東大史料 (託)	121-3	覚 (人別送り状)	一向宗観善寺旦那源藏女房りゆうにつき	天保11	年	12 月 一 日	今町松田市太 夫	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	—	× —	
762	東大史料 (託)	121-4	覚 (人別送り状)	禪宗永昌寺旦那あさにつき	天保11	年	12 月 一 日	—	—	状	—	× —	
763	東大史料 (託)	121-5	覚 (人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那玉屋次平娘さく借屋卯三郎女房とみ他1 名につき	天保11	年	12 月 一 日	八百屋町代乙名 名黒川孫四郎	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	—	× —	
764	東大史料 (託)	121-6	覚 (人別送り状)	禪宗略台寺旦那中野周助借屋顕立他3名につき	天保11	年	12 月 一 日	外浦町乙名中 村松之助	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	—	× —	
765	東大史料 (託)	121-7	覚 (人別送り状)	禪宗善徳寺旦那伊三郎につき	天保11	年	12 月 一 日	平戸町乙名石 本卯之助	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	—	× —	
766	東大史料 (託)	121-8	覚 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那すなにつき	天保11	年	12 月 一 日	船大工町 荒 木作之助	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	—	× —	
767	東大史料 (託)	121-9	覚 (人別送り状)	禪宗略台寺旦那木内豊三郎借屋さと他1名につき	天保11	年	12 月 一 日	船漕町 帯屋 惣三郎	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	—	× —	
768	東大史料 (託)	121-10	覚 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那貞五郎につき	天保11	年	8 月 一 日	今組屋町 田 中福之助	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	—	× —	
769	東大史料 (託)	121-11	覚 (人別送り状)	浄土宗三宝寺旦那茂兵衛家内林五郎につき	天保11	年	12 月 一 日	新石灰町 南 部兵太夫	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	—	× —	
770	東大史料 (託)	121-12	覚 (人別送り状)	浄土宗三宝寺旦那たかにつき	天保11	年	12 月 一 日	諏訪町 西村 次郎兵衛	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	—	× —	
771	東大史料 (託)	121-13	覚 (人別送り状)	一向宗深崇寺旦那得平孫八郎借屋崇七につき	天保11	年	12 月 一 日	大黒町 徳岡 政八郎	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	—	× —	
772	東大史料 (託)	121-14	覚 (人別送り状)	宝輪寺旦那真言宗大智院孫治助	[天保11]	年	12 月 一 日	宝輪寺	本山重之丞	状	—	× —	
773	東大史料 (託)	122-1	覚 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那豊吉家内くま (26歳) につき	天保11	年	12 月 一 日	丸山町乙名緒 代松 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0		
774	東大史料 (託)	122-2	覚 (人別送り状)	一向宗正覚寺旦那とめ家内さく (18歳) につき	天保11	年	12 月 一 日	丸山町乙名緒 代松 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0		
775	東大史料 (託)	122-3	覚 (人別送り状)	浄土宗三宝寺旦那との借屋つま (28歳) につき	弘化2	年	12 月 一 日	丸山町乙名緒 代松 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0		
776	東大史料 (託)	122-4	覚 (人別送り状)	禪宗皓臺寺旦那いせ (24歳) につき	弘化2	年	8 月 一 日	小川町乙名末 十郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	27.0 × 20.0		

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦	横	備考
777	東大史料 (託)	123-1	[袋] 弘化三歳午年差紙入	中に人別送り状の綴 (17通) 入)	弘化3	年	1 月 1 日	本石灰町	—	袋	31.0 × 13.0		
778	東大史料 (託)	123-2	寛 (人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那金兵衛家内與平につき	弘化3	年	12 月 1 日	出来鍛冶屋町 中尾和四郎 (印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	27.5 × 20.0		
779	東大史料 (託)	123-3	寛 (人別送り状)	一向衆光永寺旦那泉重次郎家内次兵衛(他)1名につき	弘化3	年	12 月 1 日	引地町乙名嶋 谷多之助 (印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	— × —		
780	東大史料 (託)	123-4	寛 (人別送り状)	浄土宗日見村亀吉弟忠兵衛につき	弘化3	年	12 月 1 日	日見村庄屋井 出口官兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	— × —		
781	東大史料 (託)	123-5	寛 (人別送り状)	浄土宗三宝寺旦那いづにつき	弘化3	年	12 月 1 日	新石灰町乙名 南部助之進 (印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	— × —		
782	東大史料 (託)	123-6	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺旦那せいにつき	弘化3	年	12 月 1 日	東古川町乙名 宇野種太郎 (印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	— × —		
783	東大史料 (託)	123-7	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那きにつき	弘化3	年	12 月 1 日	本篠町乙名田 口牧三郎 (印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	— × —		
784	東大史料 (託)	123-8	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺旦那寛兵衛につき	弘化3	年	12 月 1 日	本紙屋町乙名 中村丑松 (印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	— × —		
785	東大史料 (託)	123-9	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那久次郎女房きよにつき	弘化3	年	12 月 1 日	江戸町乙名白 濱芳助(印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	— × —		
786	東大史料 (託)	123-10	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那片瀬御簀源吉妹けんにつき	弘化3	年	12 月 1 日	長崎村庄屋森 田三郎助 (印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	— × —		
787	東大史料 (託)	123-11	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那ゐにつき	弘化3	年	12 月 1 日	新石灰町乙名 南部助之進 (印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	— × —		
788	東大史料 (託)	123-12	寛 (人別送り状)	浄土宗茂木村上木場源三郎母とめにつき	弘化3	年	12 月 1 日	茂木村庄屋森 岡幸一郎 (印)	本石灰町代乙 名本山福重殿	状	— × —		
789	東大史料 (託)	123-13	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那しめにつき	弘化3	年	12 月 1 日	船大工町乙名 荒木伝蔵 (印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	— × —		
790	東大史料 (託)	123-14	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那又次郎につき	弘化3	年	12 月 1 日	今籠町乙名高 石左右作 (印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	— × —		
791	東大史料 (託)	123-15	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那勝三郎につき	弘化3	年	12 月 1 日	西上町乙名宮 三九郎(印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	— × —		
792	東大史料 (託)	123-16	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那太田素太夫妹くまにつき	弘化3	年	12 月 1 日	御役所附船頭 吉村正左衛門 (印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	— × —		
793	東大史料 (託)	123-17	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那神代十四郎倅神代千太郎につき	弘化3	年	12 月 1 日	榑津町乙名西 淳三郎(印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	— × —		
794	東大史料 (託)	123-18	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那吉村酉之助他2名につき	弘化3	年	11 月 1 日	船番簀頭三原 正太郎(印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	— × —		

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦	横	備考
795	東大史料(託)	124-1	〔袋〕末年差紙入	中に人別送り状の綴(14通)、包紙入り状1通、そのほか状2通あり	〔弘化4〕	年	12月	一日	本石灰町	—	綴 (袋共)	32.5 × 14.0	
796	東大史料(託)	124-2	寛(人別送り状)	一向宗大光寺旦那大神長十郎娘はるにつき	弘化4	年	12月	一日	西中町代乙名 徳間勇之丞 本山福重殿	状	— × —		
797	東大史料(託)	124-3	寛(人別送り状)	禅宗高林寺旦那西山郷伝之助家内いどにつき	弘化4	年	12月	一日	長崎村庄屋森 田三郎助 (印)	状	— × —		
798	東大史料(託)	124-4	寛(人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那里郷伊八家内なつにつき	弘化4	年	12月	一日	浦上村山里庄 屋高谷百十郎 (印)	状	— × —		
799	東大史料(託)	124-5	寛(人別送り状)	一向宗大光寺旦那深山屋藤七借屋寛藏につき	弘化4	年	12月	一日	八幡町代乙名 高石新一郎 (印)	状	— × —		
800	東大史料(託)	124-6	寛(人別送り状)	一向宗大光寺旦那まさ他1名につき	弘化4	年	12月	一日	袋町乙名東屋 金之助(印)	状	— × —		
801	東大史料(託)	124-7	寛(人別送り状)	一向宗観善寺旦那馬場郷浦助家内鳳助につき	弘化4	年	12月	一日	長崎村庄屋森 田三郎助 (印)	状	— × —		
802	東大史料(託)	124-8	寛(人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那嘉吉娘いよにつき	弘化4	年	12月	一日	上筑後町乙名 今井善藏 (印)	状	— × —		
803	東大史料(託)	124-9	寛(人別送り状)	浄土宗大音寺旦那哲四郎につき	弘化4	年	12月	一日	南馬町乙名津 田昌太郎 (印)	状	— × —		
804	東大史料(託)	124-10	寛(人別送り状)	一向宗大光寺旦那くまにつき	弘化4	年	12月	一日	船大工町乙名 荒木伝藏 (印)	状	— × —		
805	東大史料(託)	124-11	寛(人別送り状)	一向宗観善寺旦那町屋敷借屋忠太郎につき	弘化4	年	12月	一日	榎津町乙名西 淳三郎(印)	状	— × —		
806	東大史料(託)	124-12	寛(人別送り状)	一向宗大光寺旦那和四郎他2名につき	弘化4	年	12月	一日	万屋町代乙名 小田長之丞 (印)	状	— × —		
807	東大史料(託)	124-13	寛(人別送り状)	一向宗大光寺旦那しなにつき	弘化4	年	12月	一日	東古川町乙名 中村三太平 (印)	状	— × —		
808	東大史料(託)	124-14	寛(人別送り状)	一向宗大光寺旦那わかにつき	弘化4	年	12月	一日	寄合町乙名芦 知高之進 (印)	状	— × —		
809	東大史料(託)	124-15	寛(人別送り状)	一向宗深崇寺旦那和田屋伊兵衛他家係6名につき	弘化4	年	12月	一日	船大工町乙名 荒木伝藏 (印)	状	— × —		
810	東大史料(託)	124-16	寛	忠太郎につき近日差紙差出しにつき	〔弘化4〕	年	12月	一日	榎津町(印)	状	13.5 × 16.5		
811	東大史料(託)	124-17	寛	いよにつき近日中差紙差出しにつき	〔弘化4〕	年	12月	一日	上筑後町 (印)	状	17.0 × 21.0		
812	東大史料(託)	124-18	引請書(寛)	吉五郎家内吉太郎、村内喜三太方へ引越し参るにつき差紙依頼	〔弘化4〕	年	12月	一日	野母村(印) (野母村庄屋 岩永雄松)	包紙 状	27.0 × 19.5 17.0 × 25.5		
813	東大史料(託)	124-19	差紙請取書(寛)	一向宗ふく坪吉三郎差紙請取	〔弘化4〕	年	12月	一日	野母村庄屋岩 永雄松(印)	包紙 状	27.5 × 20.5 17.0 × 28.0		

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦	横	備考
814	東大史料 (託)	125-1	[袋] 辰年差紙袋	中に人別送り状の綴 (29通) 入り	[安政3]	年	1 月	1 日	(本石灰町)	—	袋	37.5 × 12.0	
815	東大史料 (託)	125-2	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那よねにつき	安政3	年	12 月	1 日	西濱町乙名高松奉七郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	29.0 × 19.5	
816	東大史料 (託)	125-3	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那武田佐兵衛家内熊太郎につき	安政3	年	12 月	1 日	散使年番服部三石衛門(印) ⇒本山重之進殿	本山重之進殿	状	— × —	
817	東大史料 (託)	125-4	寛 (人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那松本屋秀太郎につき	安政3	年	12 月	1 日	西古川町代乙名賀古勝三郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	— × —	
818	東大史料 (託)	125-5	寛 (人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那福松屋茂吉借屋さくにつき	安政3	年	8 月	1 日	上筑後町乙名今井安十郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	— × —	
819	東大史料 (託)	125-6	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那まさにつき	安政3	年	12 月	1 日	下筑後町乙名徳岡範十郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	— × —	
820	東大史料 (託)	125-7	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺旦那恵助につき	安政3	年	12 月	1 日	油屋町乙名村尾恵三二 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	— × —	
821	東大史料 (託)	125-8	寛 (人別送り状)	浄土宗本場名田手原伊太郎従弟徳五郎他2名につき	安政3	年	12 月	1 日	苅木村庄屋森岡貴三郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	— × —	
822	東大史料 (託)	125-9	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那平七他2名につき	安政3	年	12 月	1 日	油屋町乙名村尾恵三二 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	— × —	
823	東大史料 (託)	125-10	寛 (人別送り状)	禅宗光雲寺旦那馬場綱長之助子忠吉につき	安政3	年	12 月	1 日	長崎村庄屋森田三郎兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	— × —	
824	東大史料 (託)	125-11	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那なかにつき	安政3	年	12 月	1 日	金屋町乙名松田仙蔵(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	— × —	
825	東大史料 (託)	125-12	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那那西田嘉三右衛門弟正人他1名につき	安政3	年	12 月	1 日	寄合町乙名芦刈善太夫 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	— × —	
826	東大史料 (託)	125-13	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那那和三郎につき	安政3	年	12 月	1 日	油屋町乙名村尾恵三二 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	— × —	
827	東大史料 (託)	125-14	寛 (人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那与作につき	安政3	年	12 月	1 日	西濱町乙名高松奉七郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	— × —	
828	東大史料 (託)	125-15	寛 (人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那柳屋和重につき	安政3	年	12 月	1 日	新石灰町乙名南部助之進 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	— × —	
829	東大史料 (託)	125-16	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那吉原武八家内金吾につき	[安政3]	年	12 月	1 日	吉原武八 (印)	本山重之進殿	状	— × —	
830	東大史料 (託)	125-17	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那つわ他1名につき	安政3	年	12 月	1 日	東濱町代乙名峰梅太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	— × —	
831	東大史料 (託)	125-18	寛 (人別送り状)	禅宗永昌寺旦那くらにつき	安政3	年	12 月	1 日	榎津町乙名西淳三郎(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	— × —	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦	横	備考
832	東大史料 (託)	125-19	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那だけ他1名につき	安政3	年	12 月 一 日	西古川町乙名 前園勝次郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
833	東大史料 (託)	125-20	寛 (人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那熊吉につき	安政3	年	12 月 一 日	船大工町乙名 荒木良太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
834	東大史料 (託)	125-21	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那町屋敷借屋ますにつき	安政3	年	12 月 一 日	本博多町乙名 高石茂三郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
835	東大史料 (託)	125-22	寛 (人別送り状)	禪宗禪林寺旦那よしにつき	安政3	年	12 月 一 日	中箱屋町乙名 小西安次郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
836	東大史料 (託)	125-23	寛 (人別送り状)	一向宗光源寺旦那つきにつき	安政3	年	12 月 一 日	本興善町乙名 北嶋惣太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
837	東大史料 (託)	125-24	寛 (人別送り状)	真言宗清水寺旦那千代他1名につき	安政3	年	9 月 一 日	新石灰町代乙 名南部為十郎 (印)	本石灰町代乙 名本山重之進 殿	状	—	× —	
838	東大史料 (託)	125-25	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那青森につき	安政3	年	12 月 一 日	泊屋町乙名村 尾重三二 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
839	東大史料 (託)	125-26	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那手附埴田昇三他1名につき	安政3	年	12 月 一 日	唐人番船頭松 江兼作(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
840	東大史料 (託)	125-27	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那福砂屋嘉助他4名につき	安政3	年	12 月 一 日	船大工町乙名 荒木良太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
841	東大史料 (託)	125-28	寛 (人別送り状)	禪宗皓台寺旦那伊太郎他2名につき	安政3	年	9 月 一 日	新石灰町代乙 名南部為十郎 (印)	本石灰町代乙 名本山重之進 殿	状	—	× —	
842	東大史料 (託)	125-29	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那きくにつき	安政3	年	12 月 一 日	外浦町乙名中 村昌三郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
843	東大史料 (託)	125-30	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那坂屋祥右衛門娘せひにつき	安政3	年	12 月 一 日	豊後町代乙名 田中作三郎 (印)	本石灰町代乙 名本山重之進 殿	状	—	× —	
844	東大史料 (託)	126-1	[袋] 寛年差紙入	中に人別送り状の綴 (31通) 入	[嘉永7]	年	一 月 一 日	(本石灰町)	—	袋	37.0	× 13.0	
845	東大史料 (託)	126-2	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那いちにつき	嘉永7	年	12 月 一 日	寄合町乙名声 苅善太夫 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	27.5	× 20.5	
846	東大史料 (託)	126-3	寛 (人別送り状)	浄土宗日見村りつ娘たまにつき	嘉永7	年	12 月 一 日	日見村庄屋本 多宮兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
847	東大史料 (託)	126-4	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那小嶋郷三左衛門家内まつにつき	嘉永7	年	12 月 一 日	長崎村庄屋森 田三郎兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
848	東大史料 (託)	126-5	寛 (人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那熊五郎につき	嘉永7	年	12 月 一 日	平戸町乙名石 本卯之助 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦	横	備考
849	東大史料 (託)	126-6	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那系につき	嘉永7	年	5 月 ー 日	丸山町乙名藤野初右衛門 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
850	東大史料 (託)	126-7	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那さどにつき	嘉永7	年	12 月 ー 日	本吉川町代乙名三浦辰之助 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
851	東大史料 (託)	126-8	寛 (人別送り状)	一向宗光源寺旦那しけにつき	嘉永7	年	12 月 ー 日	寄合町乙名芦刈善太夫 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
852	東大史料 (託)	126-9	寛 (人別送り状)	浄土宗宮署名弥五右衛門姉い系につき	嘉永7	年	12 月 ー 日	茂木村頭取庄屋森岡平左衛門 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
853	東大史料 (託)	126-10	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺檀那願成寺帳面彦太郎につき	嘉永7	年	12 月 ー 日	願成寺 (印)	本山重之進殿	状	ー	×	ー
854	東大史料 (託)	126-11	寛 (人別送り状)	禅宗睿徳寺旦那けいにつき	嘉永7	年	12 月 ー 日	恵美酒町乙名伊東福太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
855	東大史料 (託)	126-12	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那長野丈八(借置恒太郎他)名につき	嘉永7	年	12 月 ー 日	後興善町乙名末次喜三右衛門 (印)	本石灰町代乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
856	東大史料 (託)	126-13	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那ふみ他1名につき	嘉永7	年	12 月 ー 日	榎津町乙名西淳三郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
857	東大史料 (託)	126-14	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那市太郎につき	嘉永7	年	12 月 ー 日	船大工町乙名菅木傳藏 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
858	東大史料 (託)	126-15	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那直次につき	嘉永7	年	12 月 ー 日	銀座町乙名寛古常之助 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
859	東大史料 (託)	126-16	寛 (人別送り状)	一向宗光雲寺旦那いま他3名につき	嘉永7	年	12 月 ー 日	中紺屋町代乙名名中尾仁吉郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
860	東大史料 (託)	126-17	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那豊嶋伊兵衛借屋いわけにつき	嘉永7	年	12 月 ー 日	船津町代乙名末次忠助 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
861	東大史料 (託)	126-18	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那くにつき	嘉永7	年	12 月 ー 日	鶴屋町代乙名宇野種太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
862	東大史料 (託)	126-19	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺檀那願成寺帳面麟松につき	嘉永7	年	12 月 ー 日	願成寺 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
863	東大史料 (託)	126-20	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那富益七郎借置辰太郎妹かめにつき	嘉永7	年	12 月 ー 日	本紺屋町乙名横瀬徳兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
864	東大史料 (託)	126-21	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那つるにつき	嘉永7	年	5 月 ー 日	寄合町乙名芦刈善太夫 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
865	東大史料 (託)	126-22	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那かにつき	嘉永7	年	12 月 ー 日	本大工町代乙名南部為十郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
866	東大史料 (託)	126-23	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那品川カ松僧屋伊三郎につき	嘉永7	年	12 月 一 日	銅座跡支配高石左右作 (印)・同中村幸之進 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	－ × 一	
867	東大史料 (託)	126-24	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那そひにつき	嘉永7	年	12 月 一 日	丸山町乙名藤野初右衛門 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	－ × 一	
868	東大史料 (託)	126-25	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那弥三次につき	嘉永7	年	12 月 一 日	東濱町乙名田口元次郎唐船出迎二付本竜町代乙名峰梅太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	－ × 一	
869	東大史料 (託)	126-26	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那たけにつき	嘉永7	年	12 月 一 日	東古川町乙名中村恒次郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	－ × 一	
870	東大史料 (託)	126-27	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那小嶋綱庄太郎家内弥八につき	嘉永7	年	12 月 一 日	長崎村庄屋森田三郎兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	－ × 一	
871	東大史料 (託)	126-28	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那小嶋綱平兵衛家内いちにつき	嘉永7	年	12 月 一 日	長崎村庄屋森野初兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	－ × 一	
872	東大史料 (託)	126-29	寛 (人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那しげにつき	嘉永7	年	12 月 一 日	今魚町代乙名横瀬高太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	－ × 一	
873	東大史料 (託)	126-30	寛 (人別送り状)	禅宗春徳寺旦那森山屋常次郎につき	嘉永7	年	12 月 一 日	隨屋町乙名峯仙右衛門 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	－ × 一	
874	東大史料 (託)	126-31	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺旦那熊太郎につき	嘉永7	年	12 月 一 日	丸山町乙名藤野初右衛門 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	－ × 一	
875	東大史料 (託)	126-32	寛 (人別送り状)	一向宗観善寺旦那茂吉につき	嘉永7	年	12 月 一 日	本博多町乙名高石茂三郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	－ × 一	
876	東大史料 (託)	127-1	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺旦那しげにつき	嘉永元	年	12 月 一 日	羅方町乙名西村次郎吉 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	27.0 × 20.0	
877	東大史料 (託)	127-2	寛 (人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那恒次郎につき	嘉永元	年	12 月 一 日	西上町乙名岩三九郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	－ × 一	
878	東大史料 (託)	127-3	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺旦那つたにつき	嘉永元	年	12 月 一 日	大井手町乙名林昌之丞 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	－ × 一	
879	東大史料 (託)	127-4	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那勝次郎他1名につき	嘉永元	年	12 月 一 日	新大工町乙名黒川孫四郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	－ × 一	
880	東大史料 (託)	127-5	寛 (人別送り状)	浄土宗三寶寺旦那小嶋綱三左衛門家内周皆につき	嘉永元	年	12 月 一 日	長崎村庄屋森田三郎助 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	－ × 一	
881	東大史料 (託)	127-6	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺旦那那系ひにつき	嘉永元	年	12 月 一 日	出来鍛冶屋町乙名中尾駒作 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	－ × 一	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦	横	備考
882	東大史料 (託)	127-7	寛 (人別送り状)	浄土宗日見村友次郎伴重吉につき	嘉永元	年	12 月 一 日	日見村庄屋井手口官兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
883	東大史料 (託)	127-8	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那いそにつき	嘉永元	年	12 月 一 日	惠美酒町乙名 伊東福太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
884	東大史料 (託)	127-9	寛 (人別送り状)	一向宗光源寺旦那関治他2名につき	嘉永元	年	12 月 一 日	八百屋町代乙名 今井安十郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
885	東大史料 (託)	127-10	寛 (人別送り状)	禪宗高林寺旦那馬場綱末松家内さいにつき	嘉永元	年	12 月 一 日	長崎村庄屋森田三郎助 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
886	東大史料 (託)	127-11	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那中川綱嘉兵衛家内あいにつき	嘉永元	年	12 月 一 日	長崎村庄屋森田三郎助 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
887	東大史料 (託)	127-12	寛 (人別送り状)	浄土宗三寶寺旦那ふさにつき	嘉永元	年	12 月 一 日	袋町乙名糸屋釜之助 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
888	東大史料 (託)	127-13	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那勇永都につき	嘉永元	年	12 月 一 日	新石灰町乙名南部助之進 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
889	東大史料 (託)	127-14	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那大和屋政右衛門家内仙右衛門につき	嘉永元	年	12 月 一 日	出来鍛冶町乙名中尾駒作 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
890	東大史料 (託)	127-15	寛 (人別送り状)	浄土宗浄安寺旦那のふにつき	嘉永元	年	12 月 一 日	出来大工町乙名若杉得重郎 (印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	—	× —	
891	東大史料 (託)	127-16	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那やす他1名につき	嘉永元	年	12 月 一 日	丸山町乙名藤野緒代松 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
892	東大史料 (託)	127-17	寛 (人別送り状)	浄土宗三寶寺旦那和助につき	嘉永元	年	12 月 一 日	重上町乙名宮崎興一郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
893	東大史料 (託)	127-18	寛 (人別送り状)	浄土宗三寶寺旦那市太郎につき	嘉永元	年	12 月 一 日	今鍛冶町乙名金子嘉作 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
894	東大史料 (託)	127-19	寛 (人別送り状)	一向宗光源寺旦那小嶋御平兵衛家内長三郎につき	嘉永元	年	12 月 一 日	長崎村庄屋森田三郎助 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
895	東大史料 (託)	127-20	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那むめにつき	嘉永元	年	12 月 一 日	万屋町乙名吉野茂登吉 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
896	東大史料 (託)	127-21	寛 (人別送り状)	禪宗禅林寺旦那高村藤四郎借屋平太郎他4名につき	嘉永元	年	12 月 一 日	藤屋町乙名峯駒太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
897	東大史料 (託)	127-22	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那いのにつき	嘉永元	年	12 月 一 日	今魚町乙名長江啓四郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
898	東大史料 (託)	127-23	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那岩太郎女房りき他1名につき	嘉永元	年	10 月 一 日	本五嶋町乙名大塚繁松 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦	横	備考
899	東大史料 (託)	127-24	寛 (人別送り状)	浄土宗本願庄吉姉みきにつき	嘉永元	年	12 月 一 日	茂木村庄屋森 岡幸一郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之丞殿	状	—	× —	
900	東大史料 (託)	127-25	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那さゐにつき	嘉永元	年	12 月 一 日	大井手町乙名 林昌之丞 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
901	東大史料 (託)	127-26	寛 (人別送り状)	禅宗春徳寺旦那つねにつき	嘉永元	年	12 月 一 日	寄合町乙名芦 知高之進 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
902	東大史料 (託)	127-27	寛 (人別送り状)	浄土宗新照院旦那みよにつき	嘉永元	年	12 月 一 日	恵美酒町乙名 伊東福太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
903	東大史料 (託)	127-28	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺旦那唐人番松浦百三郎召仕そめにつき	嘉永元	年	8 月 一 日	唐人番船頭倉 田多蔵 (印)	本石灰町乙名 本山福重殿	状	—	× —	
904	東大史料 (託)	128-1	[袋] 酉年差紙入	中に人別送り状の綴 (20通) 入り	[嘉永2]	年	一 月 一 日	〈本石灰町〉	—	袋	34.5	× 12.0	
905	東大史料 (託)	128-2	寛 (人別送り状)	真言宗仁作につき	嘉永2	年	12 月 一 日	文殊院 (印)	本石灰町	状	26.0	× 20.0	
906	東大史料 (託)	128-3	寛 (人別送り状)	禅宗高林寺旦那馬場綱忠兵衛家内菊之助につき	嘉永2	年	12 月 一 日	長崎村庄屋森 田三郎兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
907	東大史料 (託)	128-4	寛 (人別送り状)	一向宗西勝寺旦那つきにつき	嘉永2	年	12 月 一 日	寄合町乙名芦 知高之進 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
908	東大史料 (託)	128-5	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那亀太郎女房くみにつき	嘉永2	年	12 月 一 日	大黒町乙名徳 岡範十郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
909	東大史料 (託)	128-6	寛 (人別送り状)	禅宗永昌寺旦那なお孫品吉につき	嘉永2	年	12 月 一 日	泊屋町乙名村 尾三十郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
910	東大史料 (託)	128-7	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那高野平郷喜平太家内勘助につき	嘉永2	年	12 月 一 日	長崎村庄屋森 田三郎兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
911	東大史料 (託)	128-8	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那小嶋綱はつ家内利右衛門他1名につき	嘉永2	年	12 月 一 日	長崎村庄屋森 田三郎兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
912	東大史料 (託)	128-9	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那今村源蔵娘ふてにつき	嘉永2	年	12 月 一 日	西瀬町乙名高 松亀之進 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
913	東大史料 (託)	128-10	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那嘉吉につき	嘉永2	年	12 月 一 日	新石灰町乙名 南部助之進 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
914	東大史料 (託)	128-11	寛 (人別送り状)	一向宗深栄寺旦那いゑにつき	嘉永2	年	12 月 一 日	船大工町乙名 荒不傳蔵 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
915	東大史料 (託)	128-12	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那西山綱なる家内忠右衛門他1名につき	嘉永2	年	12 月 一 日	長崎村庄屋森 田三郎兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	
916	東大史料 (託)	128-13	寛 (人別送り状)	浄土宗三寶寺旦那蔵次郎につき	嘉永2	年	12 月 一 日	古町乙名堀喜 八郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	—	× —	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦	横	備考
917	東大史料 (託)	128-14	寛 (人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那池嶋屋與人借屋龜吉父長蔵につき	嘉永2	年	12 月 一 日	西中町乙名横田藤十郎 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	—	× —	
918	東大史料 (託)	128-15	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那吉平女房はな他1名につき	嘉永2	年	12 月 一 日	西濱町乙名高松龜之進 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	—	× —	
919	東大史料 (託)	128-16	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那徳次郎につき	嘉永2	年	12 月 一 日	丸山町乙名藤野猪代松 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	—	× —	
920	東大史料 (託)	128-17	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那新助他2名につき	嘉永2	年	12 月 一 日	丸山町乙名藤野猪代松 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	—	× —	
921	東大史料 (託)	128-18	寛 (人別送り状)	真言宗延命寺旦那灸ひにつき	嘉永2	年	11 月 一 日	丸山町乙名藤野猪代松 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	—	× —	
922	東大史料 (託)	128-19	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那徳藏候いへんにつき	嘉永2	年	12 月 一 日	泊屋町乙名村尾三十郎 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	—	× —	
923	東大史料 (託)	128-20	寛 (人別送り状)	禪宗皓台寺旦那留次につき	嘉永2	年	12 月 一 日	寄合町乙名芦沢高之進 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	—	× —	
924	東大史料 (託)	128-21	寛 (人別送り状)	一向宗西勝寺旦那久次郎他3名につき	嘉永2	年	12 月 一 日	西濱町乙名高松龜之進 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	—	× —	
925	東大史料 (託)	129-1	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那小嶋御善五郎家内せいにつき	嘉永3	年	12 月 一 日	長崎村庄屋森田三郎兵衛 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	27.5	× 20.0	
926	東大史料 (託)	129-2	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那那卯吉につき	嘉永3	年	12 月 一 日	大黒町乙名徳岡勇之丞 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	—	× —	
927	東大史料 (託)	129-3	寛 (人別送り状)	浄土宗日見村直吉妹めにつき	嘉永3	年	12 月 一 日	日見村庄屋本多官兵衛 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	—	× —	
928	東大史料 (託)	129-4	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那那利右衛門他2名につき	嘉永3	年	12 月 一 日	八幡町乙名木下勇之助 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	—	× —	
929	東大史料 (託)	129-5	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那みきにつき	嘉永3	年	12 月 一 日	今鍛冶屋町乙名金子嘉作 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	—	× —	
930	東大史料 (託)	129-6	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那ちよにつき	嘉永3	年	12 月 一 日	船大工町乙名荒木傳蔵 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	—	× —	
931	東大史料 (託)	129-7	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那つるにつき	嘉永3	年	12 月 一 日	御船頭年寄清水源之丞 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	—	× —	
932	東大史料 (託)	129-8	寛 (人別送り状)	禪宗禪林寺旦那さおにつき	嘉永3	年	12 月 一 日	諏方町乙名西村次郎吉 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	—	× —	
933	東大史料 (託)	129-9	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那くまにつき	嘉永3	年	12 月 一 日	花嶋町乙名若杉伴作 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	—	× —	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦	横	備考
934	東大史料 (託)	129-10	寛 (人別送り状)	一向宗松茂屋新助伯父市兵衛女房ひさにつき	嘉永3	年	12 月 ー 日	本五嶋町代乙名竹下又一郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
935	東大史料 (託)	129-11	寛 (人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那いちにつき	嘉永3	年	12 月 ー 日	本大工町代乙名小嶋曾根占 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
936	東大史料 (託)	129-12	寛 (人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那かにつき	嘉永3	年	12 月 ー 日	花崎町乙名若杉生作 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
937	東大史料 (託)	129-13	寛 (人別送り状)	一向宗光源寺旦那しまにつき	嘉永3	年	12 月 ー 日	平戸町乙名石本卯之助 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
938	東大史料 (託)	129-14	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那小嶋郷平兵衛家内伝次につき	嘉永3	年	12 月 ー 日	長崎村庄屋森田三郎兵衛 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
939	東大史料 (託)	129-15	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那山口屋重右衛門借屋きん他3名につき	嘉永3	年	12 月 ー 日	新石灰町乙名南部助之進 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
940	東大史料 (託)	129-16	寛 (人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那藤武飲三郎妹もどにつき	嘉永3	年	12 月 ー 日	村瀬太郎右衛門 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
941	東大史料 (託)	129-17	寛 (人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那阿部猪三郎借屋のし他4名につき	嘉永3	年	12 月 ー 日	大村町組合今下町乙名野口豊太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
942	東大史料 (託)	129-18	寛 (人別送り状)	浄土宗浄安寺旦那てう他1名につき	嘉永3	年	12 月 ー 日	瀬屋町代乙名宇野種太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
943	東大史料 (託)	129-19	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那町屋緒借家菊太郎他1名につき	嘉永3	年	12 月 ー 日	東濱町乙名田口米太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
944	東大史料 (託)	129-20	寛 (人別送り状)	浄土宗浄安寺旦那やすにつき	嘉永3	年	12 月 ー 日	寄合町乙名芦刈高之進 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
945	東大史料 (託)	129-21	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那すへにつき	嘉永3	年	12 月 ー 日	北馬町乙名中村幸作 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
946	東大史料 (託)	129-22	寛 (人別送り状)	浄土宗なおにつき	嘉永3	年	10 月 ー 日	茂木村庄屋森岡幸一郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
947	東大史料 (託)	129-23	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那正作他6名につき	嘉永3	年	12 月 ー 日	横瀬町乙名横瀬富太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
948	東大史料 (託)	129-24	寛 (人別送り状)	浄土宗無量寺旦那八蔵娘たかにつき	〔嘉永3〕	年	12 月 ー 日	花島町庄屋深堀寺太郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー
949	東大史料 (託)	130-1	〔袋〕亥年差紙入	中に人別送り状の綴 (18通) 入り	〔嘉永4〕	年	ー 月 ー 日	〔本石灰町〕	ー	袋	32.5	×	13.0
950	東大史料 (託)	130-2	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那むらにつき	嘉永4	年	12 月 ー 日	豊後町代乙名桃井駒一郎 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	27.0	×	20.0
951	東大史料 (託)	130-3	寛 (人別送り状)	真言宗延命寺旦那ゑひにつき	嘉永4	年	12 月 ー 日	銀屋町乙名賀古常之助 (印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー	×	ー

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦	横	備考
952	東大史料 (託)	130-4	寛 (人別送り状)	一向宗光源寺旦那吉他1名につき	嘉永4	年	12 月 ー 日	八百屋町代乙名今井安十郎 (印)	本石灰町乙名本山重之丞殿	状	ー	×	ー
953	東大史料 (託)	130-5	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那耕作孫松次郎につき	嘉永4	年	12 月 ー 日	本紺屋町乙名横瀬昌太郎 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	ー	×	ー
954	東大史料 (託)	130-6	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那もとにつき	嘉永4	年	12 月 ー 日	出来鍛冶屋町乙名中尾政之進 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	ー	×	ー
955	東大史料 (託)	130-7	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那るいにつき	嘉永4	年	12 月 ー 日	新石灰町乙名南部助之進 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	ー	×	ー
956	東大史料 (託)	130-8	寛 (人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那安太郎他1名につき	嘉永4	年	12 月 ー 日	油屋町乙名村尾三十郎 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	ー	×	ー
957	東大史料 (託)	130-9	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那つねにつき	嘉永4	年	12 月 ー 日	銅座郷支配賀古常之助 (印)、同八尾平一 (印)、同金子羅作 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	ー	×	ー
958	東大史料 (託)	130-10	寛 (人別送り状)	禪宗永昌寺旦那せつにつき	嘉永4	年	12 月 ー 日	大黒町乙名徳岡勇之丞 (印)	本石灰町乙名本山重之丞殿	状	ー	×	ー
959	東大史料 (託)	130-11	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那てん他1名につき	嘉永4	年	12 月 ー 日	銅座郷支配賀古常之助 (印)、同八尾平一 (印)、同金子羅作 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	ー	×	ー
960	東大史料 (託)	130-12	寛 (人別送り状)	禪宗高林寺旦那嘉平他1名につき	嘉永4	年	12 月 ー 日	長崎村庄屋森田三郎兵衛 (印)	本石灰町乙名本山重之丞殿	状	ー	×	ー
961	東大史料 (託)	130-13	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那本河内郷つま家内くもにつき	嘉永4	年	12 月 ー 日	長崎村庄屋森田三郎兵衛 (印)	本石灰町乙名本山重之丞殿	状	ー	×	ー
962	東大史料 (託)	130-14	寛 (人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那清兵衛他1名につき	嘉永4	年	12 月 ー 日	船大工町乙名荒木傳蔵 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	ー	×	ー
963	東大史料 (託)	130-15	寛 (人別送り状)	浄土宗法泉寺大嶋屋藏之助借屋ゆきにつき	嘉永4	年	12 月 ー 日	丸山町乙名藤野猪代松 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	ー	×	ー
964	東大史料 (託)	130-16	寛 (人別送り状)	一向宗深崇寺旦那とよにつき	嘉永4	年	12 月 ー 日	寄合町乙名芦刈善大夫 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	ー	×	ー
965	東大史料 (託)	130-17	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那つなにつき	嘉永4	年	12 月 ー 日	堀町乙名藤田邦次郎 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	ー	×	ー
966	東大史料 (託)	130-18	寛 (人別送り状)	浄土宗浄安寺旦那りんにつき	嘉永4	年	12 月 ー 日	本紙屋町乙名中村丑松 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	ー	×	ー

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
967	東大史料 (託)	130-19	寛 (人別送り状)	一向宗古賀村松平倅末吉につき	嘉永4	年	12 月 ー 日	右村庄屋田中常三郎(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー × ー	
968	東大史料 (託)	無番	(本山家系図)	藤原秀郷から寛文二年に死去した当主定重までの系図。	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	卷子	13.0 × 515.0 (本紙のみ)	
969	東大史料 (託)	131-1	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺旦那傳之丞につき	嘉永6	年	12 月 ー 日	本古川町代乙名三浦辰之助(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	27.0 × 20.0	
970	東大史料 (託)	131-2	寛 (人別送り状)	浄土宗三寶寺高見和兵衛子敬十郎につき	嘉永6	年	12 月 ー 日	檀津町乙名西淳三郎(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー × ー	
971	東大史料 (託)	131-3	寛 (人別送り状)	浄土宗三寶寺唐人番倉田秋平倅倉田栄作につき	嘉永6	年	12 月 ー 日	唐人番船頭本庄才助(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー × ー	
972	東大史料 (託)	131-4	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那きくにつき	嘉永6	年	12 月 ー 日	内中町乙名柁嶋又造(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー × ー	
973	東大史料 (託)	131-5	寛 (人別送り状)	一向宗光源寺旦那牧助につき	嘉永6	年	12 月 ー 日	下筑後町乙名徳尚範十郎(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー × ー	
974	東大史料 (託)	131-6	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那森本屋正藏娘まさにつき	嘉永6	年	12 月 ー 日	船大工町乙名荒木傳藏(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー × ー	
975	東大史料 (託)	131-7	寛 (人別送り状)	一向宗大光寺旦那巳之松につき	嘉永6	年	12 月 ー 日	本籠町代乙名臺梅太郎(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー × ー	
976	東大史料 (託)	131-8	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺旦那るひにつき	嘉永6	年	12 月 ー 日	丸山町乙名藤野初右衛門(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー × ー	
977	東大史料 (託)	131-9	寛 (人別送り状)	浄土宗大音寺旦那清藏他2名につき	嘉永6	年	12 月 ー 日	東下町乙名清田安右衛門(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー × ー	
978	東大史料 (託)	131-10	寛 (人別送り状)	禅宗皓台寺旦那たけにつき	嘉永6	年	12 月 ー 日	本大工町代乙名南部為十郎(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー × ー	
979	東大史料 (託)	131-11	寛 (人別送り状)	浄土宗三宝寺旦那久兵衛娘やすにつき	嘉永6	年	12 月 ー 日	今鏡治屋町乙名金子嘉作(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー × ー	
980	東大史料 (託)	131-12	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那武内幸十郎借屋清吉他4名につき	嘉永6	年	12 月 ー 日	出来鏡治屋町乙名中尾政之進(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー × ー	
981	東大史料 (託)	131-13	寛 (人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那惣太郎につき	嘉永6	年	12 月 ー 日	本紙屋町乙名中村丑松(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー × ー	
982	東大史料 (託)	131-14	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那かめにつき	嘉永6	年	12 月 ー 日	丸山町乙名藤野初右衛門(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー × ー	
983	東大史料 (託)	131-15	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那馬場郷忠兵衛家内たけ他1名につき	嘉永6	年	12 月 ー 日	長崎村庄屋森田三郎兵衛(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー × ー	
984	東大史料 (託)	131-16	寛 (人別送り状)	浄土宗浄安寺旦那正三郎につき	嘉永6	年	12 月 ー 日	新石灰町乙名南部助之進(印)	本石灰町乙名 本山重之進殿	状	ー × ー	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
995	東大史料 (託)	131-17	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那ふしにつき	嘉永6	年	12 月 一 日	材木町乙名澤井猶太郎 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	一 × 一	
996	東大史料 (託)	131-18	寛 (人別送り状)	法華宗長照寺旦那みせにつき	嘉永6	年	12 月 一 日	出来大工町乙名若杉常重郎 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	一 × 一	
997	東大史料 (託)	131-19	寛 (人別送り状)	法華宗本蓮寺旦那高野平獨吉藏家内慶太郎につき	嘉永6	年	12 月 一 日	長崎村丘屋森田三郎兵衛 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	一 × 一	
998	東大史料 (託)	131-20	寛 (人別送り状)	一向宗光永寺旦那南瀬崎御藏番番久次従弟與市につき	嘉永6	年	12 月 一 日	瀬崎御藏預年番上運能右衛門 (印) ・同頭取伊藤太久右之進	本石灰町乙名本山重之進殿	状	一 × 一	
999	東大史料 (託)	131-21	寛 (人別送り状)	浄土宗聖徳寺旦那はつにつき	嘉永6	年	12 月 一 日	丸山町乙名藤野初右衛門 (印)	本石灰町乙名本山重之進殿	状	一 × 一	
990	東大史料 (託)	132	〔袋〕 申年差紙入	余白に中身の人別送り状の寛書が記されている。		年	一 月 一 日	本石灰町	一	袋	37.5 × 12.0	
991	東大史料 (託)	133	寛 (人別送り状)	一向宗正寛寺旦那伊助 (21歳) につき	天保11	年	8 月 一 日	香合町乙名芦知高之進 (印)	本石灰町乙名本山重之丞殿	状	26.5 × 20.0	
992	東大史料 (託)	134	〔袋〕 戌年差紙入	余白に中身の人別送り状の寛書が記されている。		年	一 月 一 日		一	袋	37.0 × 13.0	
993	東大史料 (託)	135	〔包紙〕 ケ所 龜割渡諸書附入	八日出銀、十一日割渡	嘉永5	年	12 月 一 日	一	一	包紙	26.5 × 38.0	
994	東大史料 (託)	136	〔袋〕 卯年差紙入	包紙のみ。余白に中身の人別送り状の寛書が記されている。	一	年	一 月 一 日	一	一	袋	31.5 × 14.0	
995	東大史料 (託)	137	〔袋〕 本石灰町差紙入	包紙のみ	天保8	年	6 月 一 日	(本石灰町)	一	袋	37.0 × 11.5	
996	東大史料 (託)	138	〔袋〕 丑年差紙入	包紙のみ。余白に中身の人別送り状の寛書が記されている。		年	一 月 一 日	(本石灰町)	一	袋	37.5 × 13.5	
997	東大史料 (託)	139-1	〔包紙〕 本石灰町ひてヨリ本博多町作次郎相手取滞銀出入一件 拾八通	139-2~17を包紙にて一括	一	年	一 月 一 日	横井彦次右衛門・中尾八郎・馬田猪十郎	一	包紙	35.0 × 23.5	
998	東大史料 (託)	139-2	乍憚奉願口上書	日数三十日間御請御滞予願い	文化15	年	正 月 一 日	仙次郎 (印)	高石平次兵衛殿	状	27.5 × 35.0	
999	東大史料 (託)	139-3	乍恐奉願口上書	啓右衛門死後役儀を引き受けた勝太郎に出銀するよう仰せ付けくれたされたき旨横断	子	年	5 月 一 日	本博多町川嶋 (印) 乙名本 (奥書) 乙名本山重兵衛 (印)	御年番所	状	31.0 × 165.0	
1000	東大史料 (託)	139-4	差出申年証証文之事	借錢返済出入、訴訟年番乙名衆へお下げの上、私人は法奴方納得受け入れにつき	文政2	年	12 月 一 日	仙次郎・東古川町村田直太郎・西上町井蔵	本博多町川嶋ひて殿	状	17.0 × 46.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年 月 日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
1001	東大史料 (託)	139-5	差上申口証文之事	年部銀滞出入一件、双方内済相整うにつき	文政2 年 12 月 ー 日	本博多町川嶋 仙次郎・東古 川町村田直太 郎・本石灰町 ひて・西上町 并蔵	中尾八郎殿・ 馬田猪十郎殿	状	16.5 × 54.5	
1002	東大史料 (託)	139-6	乍恐奉願口上書	本博多町啓右衛門親出入、返答書差出しを日数三十日間御 猶予願	子 年 12 月 26 日	三原勝太郎 (印)・村田 直太郎 (印)	御年番所	状	26.5 × 39.5	
1003	東大史料 (託)	139-7	乍恐御答奉申上候口上書	本石灰町ひて方親出入につき、何れも納得するよう御理解 仰せ聞かせ下されべき旨	文化14 年 正 月 ー 日	仙次郎 (印)	御年番所	状	28.3 × 122.5	
1004	東大史料 (託)	139-8	乍憚奉願口上書	加印の者と私仙次郎とで28両余を出金するので、承知・請 け取りくれるよう仰せ付け下されたく	子 年 7 月 ー 日	仙次郎 (印)	高石平次兵衛 殿	状	27.0 × 80.5	
1005	東大史料 (託)	139-9	乍恐御答奉申上候書附	元江戸ヶ所宿老筆者三原啓右衛門方へ預け銀、啓右衛門 死後年間返済が止まったため訴訟の願末につき	文化14 年 4 月 ー 日	本石灰町ひて (印)	御年番所	状	27.5 × 123.5	
1006	東大史料 (託)	139-10	乍恐奉願口上書	長崎会所手伝役を譲り、ひて取替銀返済仕法を請けたき旨	子 年 正 月 ー 日	川嶋仙次郎 (印)	町御役人衆中	状	28.0 × 107.5	
1007	東大史料 (託)	139-11	乍憚口上書	本石灰町ひて方年親出入御請書差上げ、日数30日延願い	丑 年 12 月 ー 日	仙次郎 (印)	高石平次兵衛 殿	状	27.5 × 31.0	
1008	東大史料 (託)	139-12	乍恐口上書	元年戦銀高当節半高二而承知致呉候願	文政元 年 11 月 ー 日	啓右衛門伴仙 次郎 (印)・加 印三原勝太郎 (印)・同村 田直太郎 (印)	御年番所	状	27.5 × 78.0	
1009	東大史料 (託)	139-13	乍憚奉願口上書	取締方立直候迄猶予願	文化13 年 4 月 ー 日	仙次郎 (印)	高石平次兵衛 殿	状	27.5 × 65.0	
1010	東大史料 (託)	139-14	〔算書〕	仙次郎・勝太郎・直太郎・ひて各々が提出した願書の内容 とその年月日の書付	ー 年 ー 月 ー 日	ー	ー	状	17.0 × 20.0	
1011	東大史料 (託)	139-15	乍恐奉願口上書	仙次郎返答日延願	文化13 年 12 月 ー 日	本博多町仙次 郎 (印)	御年番所	状	27.5 × 40.5	
1012	東大史料 (託)	139-16	乍恐御答申上候	ひて、身すから引受度段願	文化15 年 2 月 ー 日	本博多町啓右 衛門伴仙次郎 (印)・諸人 勝太郎 (印)・ 同忠蔵伴直太 郎 (印)	御年番所	状	27.5 × 62.0	
1013	東大史料 (託)	139-17	乍憚口上書	三原啓右衛門借用年賦銀始末、江戸会所筆者役の義、忠 蔵加印の義につき申上書	子 年 5 月 ー 日	三原勝太郎 (印)・村田 直太郎 (印)	御町御役人中	状	27.5 × 109.5	
1014	東大史料 (託)	140-1	〔駕籠人数数ほか書付〕	他に、太鼓持・三味線持・屋台など36人を両日分。他に「人 数揃之節」14人ともあり、諏訪神事の本石灰町の人数動員 に関する書付カ	ー 年 ー 月 ー 日	ー	ー	状	16.5 × 6.5	
1015	東大史料 (託)	140-2	〔本山重兵衛・金子恵 吉郎宛書簡〕	御開運鎮段々延引仕り、遠路御飛脚御差立くだされにつき 書状	ー 年 9 月 5 日	長島嘉左衛門 ・長島右源太 郎様	下田御出張所 本山重兵衛 様・金子恵吉 郎様	状	15.5 × 75.5	
1016	東大史料 (託)	140-3	〔本山重兵衛宛書簡〕	難送一件義、漸く御裁許落着につき御伺旁御宅江何候仕 候得共、下田方江御出役御留守中につき御内儀様へ一寸 拝願仕候迄にて、昨年已来御地滞在中段々御手厚与煩相 守向候得共混雑のみにつき書状	〔戊〕 年 10 月 29 日	石本勝之丞 (従天直佐伊 紀津村)	本山重兵衛様	状	18.5 × 161.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
1017	東大史料 (託)	140-4	[本山重兵衛・金子恵吉郎宛書簡]	下田新田収納方御見届けとしてお越しにつき、調達銀元利込御出張所へ差し遣わしの旨承知した旨を報知した書状	—	年	8月27日	長島宇源太・長島甚左衛門	下田御出張所 本山重兵衛 様・金子恵吉郎様	状	17.0 × 95.5	
1018	東大史料 (託)	140-5	[本山重兵衛宛書簡]	「以前之振合本証札認被差送候間、御請取可被遊候、古証札并是証札ハ此館大庄屋方江御返」とある。また包紙裏書に「戊五月四日豊後町儀兵衛方ハ届来ハ、引替証文一通添」と記されている。	[戊]	年	4月26日	天草二江村長 嶋甚左衛門	於長崎本山重兵衛様	状	27.5 × 30.0	
1019	東大史料 (託)	140-6	[本山重兵衛・金子恵吉郎宛書簡]	返弁が延引している銀子を元利ともに10月7日と8日に返済した旨を報知した書状	—	年	10月13日	長島甚左衛門 ・長島宇源太	於富岡本山重兵衛様・金子恵吉郎様	状	16.0 × 80.0	
1020	東大史料 (託)	140-7	[本山重兵衛・金子恵吉郎宛書簡]	返弁が延引している銀子を早々に支払う旨を報知した書状	—	年	10月7日	長島甚左衛門 ・長島宇源太	本山重兵衛 様・金子恵吉郎様	状	15.5 × 68.0	
1021	東大史料 (託)	140-8	丑十二月鑑貸引取高	鑑賃の徴収に関する金額・名前書付	[丑]	年	[12]月一日	—	—	状	16.0 × 112.0	
1022	東大史料 (託)	140-9	[本山重兵衛宛書簡]	借用銀子半高分返済の件につき書状	[戊]	年	12月21日	(従嶋原有家)本多久左衛門	本山重兵衛様	状	16.0 × 106.0	
1023	東大史料 (託)	140-10	返事之控	鯛売立代鯛をもって借用銀子を返済、香細は石本勝之丞に依頼してあると申し越された件につき書状	—	年	12月24日	本山 (重兵衛)	本多 (久左衛門)	状	16.0 × 51.0	
1024	東大史料 (託)	140-11	[書簡] (夜前者御繁用之中)	私身持ち悪しきにつきお詫ひの旨ほか	—	年	一月15日	—	—	状	16.0 × 109.5	
1025	東大史料 (託)	140-12	[包紙] 丑六番船書付入	包紙のみ	—	年	一月一日	—	—	包紙	23.0 × 32.5	
1026	東大史料 (託)	140-13	[丑六番船]に関する手形・書付	丑六番船帆田・船箇洗い、彩船送出等仰せ付け	—	年	12月23日	唐方会所	中尾作七郎 様・本山重之丞様	状	18.0 × 70.5	
1027	東大史料 (託)	140-14	[丑六番船]に関する手形・書付	丑六番船御封申請があるか尋ね	—	年	正月24日	唐方会所	本山重之丞様	状	18.5 × 31.5	
1028	東大史料 (託)	140-15	[丑六番船]に関する手形・書付	丑六番船仕掛精荷役明日仰せ付け	—	年	正月12日	唐方会所	本山重之丞様	状	14.0 × 27.0	
1029	東大史料 (託)	140-16	[丑六番船]に関する手形・書付	唐船仕役仰せ付け書、爪鷺甲目利見分掛調子、ほか	—	年	2月5日	唐方會所	中尾作十郎 様・守田寛三郎様・本山重之丞様・立石松之進様・西川丈兵衛様	状	16.5 × 40.5	
1030	東大史料 (託)	140-17	[丑六番船]に関する手形・書付	丑六番船丸荷役明日仰せ付けられるにつき	—	年	12月18日	唐方会所	山本(マヅ)重之丞様	状	14.0 × 20.5	
1031	東大史料 (託)	140-18	[丑六番船]に関する手形・書付	丑六番船昆布種新地前場所替仰せ付けにつき	—	年	3月11日	唐方会所	本山重之丞様	状	14.5 × 34.0	
1032	東大史料 (託)	140-19	[丑六番船]に関する手形・書付	丑六番船仕掛精荷役明日仰せ付けられるにつき	—	年	正月13日	唐方会所	本山重之丞様	状	14.0 × 25.0	
1033	東大史料 (託)	140-20	[丑六番船]に関する手形・書付	丑六番船精荷役等明日仰せ付けられるにつき	—	年	正月11日	唐方会所	本山重之丞様	状	14.0 × 35.5	
1034	東大史料 (託)	140-21	[丑六番船]に関する手形・書付	船々寒天運分、今日は延引につき	—	年	閏3月21日	唐方会所	中尾作十郎 様・守田寛三郎様・本山重之丞様・立石松之進様・西川丈兵衛様	状	14.0 × 40.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
1035	東大史料 (託)	140-22	[丑六番船]に関する手形・書付]	丑六番船昆布掛積役仕役仰せ付けられるにつき	—	年	3 月 2 日	唐方会所	本山重之丞様	状	14.0 × 28.0	
1036	東大史料 (託)	140-23	[丑六番船]に関する手形・書付]	丑六番船昆布掛積等明日仰せ付けられるにつき	—	年	3 月 6 日	唐方会所	本山重之丞様	状	14.0 × 38.0	
1037	東大史料 (託)	140-24	[丑六番船]に関する手形・書付]	丑六番船他船々寒天選分新地蔵入、明日より仰せ付けられるにつき	—	年	閏3 月 19 日	唐方会所	中尾作十郎様・守田寛三郎様・本山重之丞様・立石松之進様・西川丈兵衛様	状	14.0 × 41.5	
1038	東大史料 (託)	140-25	[丑六番船]に関する手形・書付]	丑六番船唐人百人出、崇福寺において願成就誦経、お聞き済み下されたく	—	年	正 月 26 日	唐方会所	本山重之丞様	状	14.0 × 41.5	
1039	東大史料 (託)	140-26	[丑六番船]に関する手形・書付]	丑六番船本買荷物商人渡等明日仰せ付けられるにつき	—	年	3 月 26 日	唐方会所	本山重之丞様	状	14.0 × 35.5	
1040	東大史料 (託)	140-27	[丑六番船]に関する手形・書付]	別段売荷見寄板帳、今日中に差し出すよう	—	年	正 月 26 日	長崎会所	本山重之丞様	状	16.5 × 12.5	
1041	東大史料 (託)	140-28	[丑六番船]に関する手形・書付]	丑六番船本船において崇福寺より誦経、明日仰せ付けられるにつき	—	年	正 月 20 日	唐方会所	本山重之丞様	状	14.0 × 29.0	
1042	東大史料 (託)	140-29	[丑六番船]に関する手形・書付]	明日別段調仰せ付けにつき	—	年	正 月 12 日	長崎会所	本山重之丞様・村尾三右衛門様	状	13.5 × 10.0	
1043	東大史料 (託)	140-30	[丑六番船]に関する手形・書付]	本売荷見せ改めのため荷物蔵出仰せ付けられるにつき	—	年	正 月 15 日	長崎会所	本山重之丞様・村尾三右衛門様	状	13.5 × 12.0	
1044	東大史料 (託)	140-31	[丑六番船]に関する手形・書付]	丑六番船仕掛丸荷役明日仰せ付けられるにつき	—	年	12 月 20 日	唐方会所	本山重之丞様	状	14.0 × 24.5	
1045	東大史料 (託)	140-32	[丑六番船]に関する手形・書付]	丑六番船種残昆布掛積等明日仰せ付けられるにつき	—	年	閏3 月 12 日	唐方会所	本山重之丞様	状	14.0 × 35.0	
1046	東大史料 (託)	140-33	[丑六番船]に関する手形・書付]	丑六番船にて崇福寺の僧本船において誦経、明後日仰せ付けられるにつき	—	年	正 月 19 日	唐方会所	本山重之丞様	状	14.0 × 41.0	
1047	東大史料 (託)	140-34	[丑六番船]に関する手形・書付]	丑六番船先乗仰せ付けられるにつき	—	年	2 月 20 日	長崎会所	本山重之丞様・村尾三右衛門様	状	14.0 × 10.0	
1048	東大史料 (託)	140-35	[丑六番船]に関する手形・書付]	丑六番船仕懸丸荷役明日仰せ付けられるにつき	—	年	12 月 19 日	唐方会所	本山重之丞様	状	14.0 × 31.0	
1049	東大史料 (託)	140-36	[丑六番船]に関する手形・書付]	丑六番船丸荷役明日仰せ付けられるにつき	—	年	12 月 17 日	唐方会所	本山重之丞様	状	14.0 × 32.5	
1050	東大史料 (託)	140-37	[丑六番船]に関する手形・書付]	丑六番船仕掛本売荷渡し等明日仰せ付けられるにつき	—	年	3 月 27 日	唐方会所	本山重之丞様・立石松之進様	状	14.0 × 41.5	
1051	東大史料 (託)	140-38	[丑六番船]に関する手形・書付]	唐船浮合の義、御年番所より催促につき	—	年	正 月 9 日	唐方会所	中尾作十郎様・守田寛三郎様・本山重之丞様	状	17.5 × 46.5	
1052	東大史料 (託)	140-39	[丑六番船]に関する手形・書付]	丑六番船他船々大改之品蔵出し等明日仰せ付けられるにつき	—	年	正 月 5 日	唐方会所	中尾作十郎様・守田寛三郎様・本山重之丞様	状	14.0 × 66.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
1053	東大史料 (託)	140-40	[丑六番船に関する手形・書付]	丑六・七番船銅積明日仰せ付けられるにつき	—	年	2月22日	唐方会所	本山重之丞様・立石松之丞様	状	14.0 × 34.0	
1054	東大史料 (託)	140-41	[丑六番船に関する手形・書付]	丑六番船唐人50人上陸取具手廻等持卸、明日仰せ付けられるにつき	—	年	12月11日	唐方会所	本山重之丞様	状	14.0 × 33.0	
1055	東大史料 (託)	140-42	[丑六番船に関する手形・書付]	丑四・六番船後物役所において帳合、明日仰せ付けられるにつき	—	年	4月6日	唐方会所	中尾作十郎・本山重之丞様	状	14.0 × 35.0	
1056	東大史料 (託)	140-43	[丑六番船に関する手形・書付]	丑七番船帆柱修理廿日の間唐人五拾人宛出、六番船銅積、明日仰せ付けられるにつき	—	年	2月23日	唐方会所	本山重之丞様・立石松之丞様	状	14.0 × 48.0	
1057	東大史料 (託)	140-44	[丑六番船に関する手形・書付]	丑四〜八番船後物荷送見分、明日仰せ付けられるにつき	—	年	閏3月21日	唐方会所	中尾作十郎様・守田寛三郎様・本山重之丞様・立石松之丞様・西山丈兵衛様	状	14.0 × 40.0	
1058	東大史料 (託)	140-45	[丑六番船に関する手形・書付]	丑六番船御封を受け取っているか、船居に挽付道掛等出来しているか、知らせ下されたく	—	年	12月23日	唐方会所	山本(ママ)重之丞様	状	18.5 × 27.5	
1059	東大史料 (託)	140-46	[丑六番船に関する手形・書付]	丑六番船丸荷役明喚仰せ付けられるにつき	—	年	12月17日	長崎会所	本山重之丞様・村尾三右衛門様	状	14.0 × 12.5	
1060	東大史料 (託)	140-47	[丑六番船に関する手形・書付]	丑六番船丸荷役明日仰せ付けられるにつき	—	年	12月18日	長崎会所	本山重之丞様・村尾三右衛門様	状	13.5 × 10.0	
1061	東大史料 (託)	140-48	[丑六番船に関する手形・書付]	丑六番船仕掛丸荷役明日仰せ付けられるにつき	—	年	12月19日	長崎会所	本山重之丞様・村尾三右衛門様	状	13.5 × 10.0	
1062	東大史料 (託)	140-49	[丑六番船に関する手形・書付]	明日、丑六番船館内より食物等持出し、本船へ積乗帰館に日行使見習を勤めているにもかかわらず、度々不束の次第あり、格別の訳をもって寛恕を受け、以来万端身持を改める旨	—	年	12月13日	唐方会所	本山重之丞様	状	14.0 × 31.0	
1063	東大史料 (託)	141	差出申一札之事		文化5	年	11月晦日	辰次(印)	本山膳之丞殿	状	27.5 × 143.0	竜田屋茂三次(印)他2名の奥印あり
1064	東大史料 (託)	142	[今石灰町 茂八宅にて同町由太郎ら博奕相催後近極端、右船末御札につき、茂八・伝蔵・助五郎申口書付]	茂八方にて町内伝蔵・助五郎その他打ち寄り博奕を催し、召し捕らえられた事件について、茂八・伝蔵・助五郎の申口	丑	年	4月一日	茂八(印)・伝蔵(印)	本山重兵衛様・相頭御衆中	状	27.5 × 176.0	茂八五人組惣代大五郎(印)他7名奥印あり
1065	東大史料 (託)	143-1	乍恐口上之覚	阿蘭陀通詞小川徳右衛門の役様相續をめぐる身内間の出入につき書付	丑	年	8月一日	小川徳右衛門	—	状	19.0 × 261.0	
1066	東大史料 (託)	143-2	乍恐口上之覚	阿蘭陀通詞小川徳右衛門の役様相續をめぐる身内間の出入につき書付	丑	年	8月一日	小川徳右衛門	—	状	19.0 × 211.0	
1067	東大史料 (託)	144	[天草新田方役様に関する書留]	正作新田開発諸積り書、下田村況書付、下田普請場所見分桁々につき	—	年	一月一日	—	—	豎帳	25.0 × 17.5	
1068	東大史料 (託)	145	[市中倉家への救恤につき達書写]	市中倉家にて暮らした方難治の者へ救銀、例年の救銀に加え、特別に救銀下されるにつき	子	年	12月一日	(余所)	—	豎帳	25.5 × 17.5	
1069	東大史料 (託)	146	類焼之者江貸付銭名前帳附右年賦返済請取書	出火類焼につき1人20匁文預賞し渡し、返済分は10ヶ年季で種銀から差し引く。金子借用を受けているのは9人、返済銭を受け取っているのは本石灰町森本永蔵・利田伊兵衛の2名。	嘉永5	年	5月一日	本石灰町役場	—	豎帳	27.5 × 20.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
1070	東大史料 (託)	147	銅座跡発端ヨリ之實書	享保期銅吹所設置時からの「銅座跡」の経緯、地子銀の扱い、奉行による銅座跡巡見、等につき	—	年	— 月 — 日	—	—	縦帳	25.0 × 17.5	
1071	東大史料 (託)	148	竹谷勘右衛門方江私入候銀子仕法割合帳	先年町方實役竹谷勘右衛門より町入用として銀借用、この度返済につき、10ヶ年季にて役場が税箇所より金を引き取り、返済する旨	天保8	年	12 月 — 日	役場	—	縦帳	27.5 × 20.0	
1072	東大史料 (託)	149	由緒書	本山家由緒書、長崎へ正保元年にやってきた初代から四代までの相關関係を記す	—	年	— 月 — 日	—	—	縦帳	27.5 × 20.5	
1073	東大史料 (託)	150	五拾ヶ年以後 謄文写	小浜本多湯大夫・本多堵左衛門が小山清四郎(天草の銀主)から借用した金子証文の写。13通分。	自「寛政」至「文化」	年	— 月 — 日	—	—	縦帳	27.0 × 20.0	
1074	東大史料 (託)	151-1	文政十一年つちのえわ 乃寛政暦	寛政暦は高橋至時、間重富らによって「厩象考成」を参考にして寛政9 (1797) 年に編成、翌寛政10 (1798) 年以降、天保13 (1842) 年の天保暦制定まで45年間続いた厩書	文政10	年	— 月 — 日	伊勢度会郡山田 實曲主水	—	状	27.5 × 177.0	木版
1075	東大史料 (託)	151-2	文政十三かのかえとら乃 寛政暦	寛政暦は高橋至時、間重富らによって「厩象考成」を参考にして寛政9 (1797) 年に編成、翌寛政10 (1798) 年以降、天保13 (1842) 年の天保暦制定まで45年間続いた厩書	文政12	年	— 月 — 日	伊勢度会郡山田 實曲主水	—	状	27.5 × 144.0	木版
1076	東大史料 (託)	151-3	文政十四年かのとのお 乃寛政暦	寛政暦は高橋至時、間重富らによって「厩象考成」を参考にして寛政9 (1797) 年に編成、翌寛政10 (1798) 年以降、天保13 (1842) 年の天保暦制定まで45年間続いた厩書	文政13	年	— 月 — 日	伊勢度会郡山田 實曲主水	—	状	27.5 × 143.0	木版
1077	東大史料 (託)	152-1	文政六年みつのとのお つし乃寛政暦	寛政暦は高橋至時、間重富らによって「厩象考成」を参考にして寛政9 (1797) 年に編成、翌寛政10 (1798) 年以降、天保13 (1842) 年の天保暦制定まで45年間続いた厩書	文政5	年	— 月 — 日	伊勢度会郡山田 實曲主水	—	状	— × —	木版
1078	東大史料 (託)	152-2	文政四年かのとのおみ乃 寛政暦	寛政暦は高橋至時、間重富らによって「厩象考成」を参考にして寛政9 (1797) 年に編成、翌寛政10 (1798) 年以降、天保13 (1842) 年の天保暦制定まで45年間続いた厩書	文政3	年	— 月 — 日	伊勢度会郡山田 實曲主水	—	状	— × —	木版
1079	東大史料 (託)	152-3	文政十二年つちのとのお うし乃寛政暦	寛政暦は高橋至時、間重富らによって「厩象考成」を参考にして寛政9 (1797) 年に編成、翌寛政10 (1798) 年以降、天保13 (1842) 年の天保暦制定まで45年間続いた厩書	文政11	年	— 月 — 日	伊勢度会郡山田 實曲主水	—	状	— × —	木版
1080	東大史料 (託)	152-4	文政五年みつのおえむま 寛政暦	寛政暦は高橋至時、間重富らによって「厩象考成」を参考にして寛政9 (1797) 年に編成、翌寛政10 (1798) 年以降、天保13 (1842) 年の天保暦制定まで45年間続いた厩書	文政4	年	— 月 — 日	伊勢度会郡山田 實曲主水	—	状	— × —	木版
1081	東大史料 (託)	152-5	文政七年きのおえさる乃 寛政暦	寛政暦は高橋至時、間重富らによって「厩象考成」を参考にして寛政9 (1797) 年に編成、翌寛政10 (1798) 年以降、天保13 (1842) 年の天保暦制定まで45年間続いた厩書	文政6	年	— 月 — 日	伊勢度会郡山田 實曲主水	—	状	— × —	木版
1082	東大史料 (託)	152-6	天保三年みつのおえたと 乃寛政暦	寛政暦は高橋至時、間重富らによって「厩象考成」を参考にして寛政9 (1797) 年に編成、翌寛政10 (1798) 年以降、天保13 (1842) 年の天保暦制定まで45年間続いた厩書	天保2	年	— 月 — 日	伊勢度会郡山田 實曲主水	—	状	— × —	木版
1083	東大史料 (託)	153-1	〔井福口安積銀差引勘定返納証〕	井福家は本山重野右衛門の生家であり、口安の父常安は口中医師を務めていた。口安は文化14年に木屋と三右衛門、常安は文化3年に西松運との間でそれぞれ金銭出入を記にしている。口安は積銀返納という項目名で長崎会所から受用銀の引金を受けており、153-1～13まではその引金返納証に該当するものと思われる。	子	年	12 月 — 日	長崎会所	(本石灰町)	状	25.0 × 70.0	
1084	東大史料 (託)	153-2	〔井福口安積銀差引勘定返納証〕	井福家は本山重野右衛門の生家であり、口安の父常安は口中医師を務めていた。口安は文化14年に木屋と三右衛門、常安は文化3年に西松運との間でそれぞれ金銭出入を記にしている。口安は積銀返納という項目名で長崎会所から受用銀の引金を受けており、153-1～13まではその引金返納証に該当するものと思われる。	亥	年	12 月 — 日	長崎会所	(本石灰町)	状	23.0 × 71.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
1085	東大史料 (託)	153-3	〔井福口安積銀差引勘定返納証〕	井福家は本山重野右衛門の生家であり、口安の父常安は口中医師を務めていた。口安は文化14年に木屋与三右衛門、常安は文化3年に西松溪との間でそれぞれ金銭出入を起している。口安は積銀返納という項目名で長崎会所から受用銀の引金を受けており、153-1～13まではその引去返納証に該当するものと思われる。	西	年	7 月 1 日	長崎会所	(井福口安)	状	25.0 × 23.0	
1086	東大史料 (託)	153-4	〔井福口安積銀差引勘定返納証〕	井福家は本山重野右衛門の生家であり、口安の父常安は口中医師を務めていた。口安は文化14年に木屋与三右衛門、常安は文化3年に西松溪との間でそれぞれ金銭出入を起している。口安は積銀返納という項目名で長崎会所から受用銀の引金を受けており、153-1～13まではその引去返納証に該当するものと思われる。	丑	年	12 月 1 日	長崎会所	(井福口安)	状	24.5 × 19.0	
1087	東大史料 (託)	153-5	〔井福口安積銀差引勘定返納証〕	井福家は本山重野右衛門の生家であり、口安の父常安は口中医師を務めていた。口安は文化14年に木屋与三右衛門、常安は文化3年に西松溪との間でそれぞれ金銭出入を起している。口安は積銀返納という項目名で長崎会所から受用銀の引金を受けており、153-1～13まではその引去返納証に該当するものと思われる。	丑	年	7 月 1 日	長崎会所	(井福口安)	状	24.0 × 27.0	
1088	東大史料 (託)	153-6	〔井福口安積銀差引勘定返納証〕	井福家は本山重野右衛門の生家であり、口安の父常安は口中医師を務めていた。口安は文化14年に木屋与三右衛門、常安は文化3年に西松溪との間でそれぞれ金銭出入を起している。口安は積銀返納という項目名で長崎会所から受用銀の引金を受けており、153-1～13まではその引去返納証に該当するものと思われる。	子	年	12 月 1 日	長崎会所	(井福口安)	状	25.0 × 41.5	
1089	東大史料 (託)	153-7	〔井福口安積銀差引勘定返納証〕	井福家は本山重野右衛門の生家であり、口安の父常安は口中医師を務めていた。口安は文化14年に木屋与三右衛門、常安は文化3年に西松溪との間でそれぞれ金銭出入を起している。口安は積銀返納という項目名で長崎会所から受用銀の引金を受けており、153-1～13まではその引去返納証に該当するものと思われる。	亥	年	7 月 1 日	長崎会所	(井福口安)	状	25.0 × 38.0	
1090	東大史料 (託)	153-8	〔井福口安積銀差引勘定返納証〕	井福家は本山重野右衛門の生家であり、口安の父常安は口中医師を務めていた。口安は文化14年に木屋与三右衛門、常安は文化3年に西松溪との間でそれぞれ金銭出入を起している。口安は積銀返納という項目名で長崎会所から受用銀の引金を受けており、153-1～13まではその引去返納証に該当するものと思われる。	〔文政3〕	年	7 月 1 日	長崎会所	(井福口安)	状	25.0 × .54.5	
1091	東大史料 (託)	153-9	〔井福口安積銀差引勘定返納証〕	井福家は本山重野右衛門の生家であり、口安の父常安は口中医師を務めていた。口安は文化14年に木屋与三右衛門、常安は文化3年に西松溪との間でそれぞれ金銭出入を起している。口安は積銀返納という項目名で長崎会所から受用銀の引金を受けており、153-1～13まではその引去返納証に該当するものと思われる。	卯	年	7 月 1 日	長崎会所	(井福口安)	状	25.0 × 26.5	
1092	東大史料 (託)	153-10	〔井福口安積銀差引勘定返納証〕	井福家は本山重野右衛門の生家であり、口安の父常安は口中医師を務めていた。口安は文化14年に木屋与三右衛門、常安は文化3年に西松溪との間でそれぞれ金銭出入を起している。口安は積銀返納という項目名で長崎会所から受用銀の引金を受けており、153-1～13まではその引去返納証に該当するものと思われる。	卯	年	12 月 1 日	長崎会所	(井福口安)	状	25.0 × 56.5	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
1093	東大史料 (託)	153-11	〔井福口安積 銀差引勘 定返納証〕	井福家は本山重野右衛門の生家であり、口安の父常安は口 中医師を務めていた。口安は文化14年に木屋与三右衛門、 常安は文化13年に西松溪との間でそれぞれ金銭出入を起こ している。口安は積銀返納という項目名で長崎会所から受 用銀の引去を受けており、153-1～13まではその引去返納 証に該当するものと思われる。	巳	年	7 月 一 日	長崎会所	(井福口安)	状	25.0 × 25.0	
1094	東大史料 (託)	153-12	〔井福口安積 銀差引勘 定返納証〕	井福家は本山重野右衛門の生家であり、口安の父常安は口 中医師を務めていた。口安は文化14年に木屋与三右衛門、 常安は文化13年に西松溪との間でそれぞれ金銭出入を起こ している。口安は積銀返納という項目名で長崎会所から受 用銀の引去を受けており、153-1～13まではその引去返納 証に該当するものと思われる。	亥	年	12 月 一 日	長崎会所	(井福口安)	状	25.0 × 44.5	
1095	東大史料 (託)	153-13	〔井福口安積 銀差引勘 定返納証〕	井福家は本山重野右衛門の生家であり、口安の父常安は口 中医師を務めていた。口安は文化14年に木屋与三右衛門、 常安は文化13年に西松溪との間でそれぞれ金銭出入を起こ している。口安は積銀返納という項目名で長崎会所から受 用銀の引去を受けており、153-1～13まではその引去返納 証に該当するものと思われる。	巳	年	12 月 一 日	長崎会所	(井福口安)	状	25.0 × ー	
1096	東大史料 (託)	154	鶴伊勢物語 五段目宗 岡館王水洸	歌舞伎狂言「鶴伊勢物語」の台本	明治15	年	冬 月 一 日	記善亀田屋	ー	横帳	33.0 × 12.5	
1097	東大史料 (託)	155	佐賀征討記 上	明治7年に勃発した土族反乱の一つ佐賀の乱の順未記。上 下2冊揃	ー	年	一 月 一 日	ー	ー	竖帳	23.0 × 16.0	裏表紙 「本山蔵書」
1098	東大史料 (託)	156	佐賀征討記 下	明治7年に勃発した土族反乱の一つ佐賀の乱の順未記。上 下2冊揃	ー	年	一 月 一 日	ー	ー	竖帳	22.5 × 15.5	裏表紙 「本山蔵書」
1099	東大史料 (託)	157	北村正治先生書	留字手本	ー	年	一 月 一 日	佐藤幸太郎	ー	竖帳	27.0 × 19.0	
1100	東大史料 (託)	158	長屋建規則	長崎県知事や農商務省からの令達のうち「長屋建規則」、 「下水便所構造規則」、「駄類伝染病予防心得」の3本を収 録。裏表紙に失書きにて「諸経緯ハい速ニ勤務係リ江御差 戻シノ程 奉依頼候也」とあることから、本石灰町内で回覧 されたものと考えられる。	明治19	年	9 月 28 日	本石灰町事務 係	ー	竖帳	21.5 × 15.5	
1101	東大史料 (託)	159	証	本石灰町鶴田嘉三太が「明治7年地券税庁費金」として4銭 5厘を払い込みしことを証明する書付	明治8	年	1 月 24 日	長崎県租税課 (印)	(本石灰町) 鶴田嘉三太	状	16.5 × 15.0	
1102	東大史料 (託)	160	樹藝考	稻、麦、雑穀、菜、木綿、たばこなどの部門ごとに作物の生 育方法を解説した農書	[明治18]	年	(5) 月 一 日	(広瀬)	ー	竖帳	24.0 × 17.0	
1103	東大史料 (託)	161	天保十三寅十二月勘定	地子銀、貫銀などの勘定差引帳。2枚とも綴穴の形跡があ ることから未編綴もしくは外れたものカ	ー	年	一 月 一 日	ー	ー	横帳	14.0 × 41.0	
1104	東大史料 (託)	162	矢上御着之事 長崎御 着之事	長崎奉行の矢上・長崎到着時の出迎えの段取りを述べた 書付	ー	年	一 月 一 日	ー	ー	竖帳	26.0 × 18.0	
1105	東大史料 (託)	163	寛	本山家(本石灰町御役場)に納品したと思われる提灯代の 書付	午	年	7 月 一 日	本かこ町燈灯 屋	本山様御役場	状	17.0 × 21.0	
1106	東大史料 (託)	164	〔匿名手本忠臣蔵〕	『匿名手本忠臣蔵』の新簡カ。「長炬」「上野介」の名が複 数確認できる。江戸城内での勘定接遇をめぐる場面を記し た部分と考えられる。	ー	年	一 月 一 日	ー	ー	竖帳	25.5 × 17.0	前後欠
1107	東大史料 (託)	165	〔差引勘定書付〕	品物の購入代銀の書付	ー	年	一 月 一 日	ー	ー	状	24.0 × 23.0	
1108	東大史料 (託)	166	欠番	ー	ー	年	一 月 一 日	ー	ー	ー	ー × ー	
1109	東大史料 (託)	167	西九月六日御着 土方 出雲守様三御在勤	長崎奉行土方出雲守の三回目の長崎着任時に年番町年寄 を經由して提出された誓詞。自分たちが切支丹でないこ と、宗門改を油断なく履行する旨を述べている。	文政9	年	正 月 8 日	ー	(年番福田安 右衛門殿市 之丞殿)	竖帳	30.5 × 22.5	後欠

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
1110	東大史料 (託)	168	〔寛十二月入用銀書付〕	寛十二月における出費として「本火」、「助火」、「番賃引」、「火渡」の4項目「賃目あまり」を書付	寛	年	12 月 ー 日	ー	ー	状	40.5 × 27.5	
1111	東大史料 (託)	169	〔除檀繰〕	檀那寺変更にとまなう檀家人別除手形繰り	〔卯〕	年	〔12〕 月 ー 日	ー	ー	繰 (状)	33.0 × 11.5	
1112	東大史料 (託)	170	覚	本山家 (本石灰町御役場) に納品したと思われる提灯代の書付	子	年	7 月 ー 日	燈灯屋	本山様	状	13.5 × 36.0	
1113	東大史料 (託)	171	〔袋〕借屋かり書付入	袋のみ	安政6	年	8 月 ー 日	本石灰町役場	ー	袋	30.0 × 22.5	
1114	東大史料 (託)	172-1	乍得御答書	船本茂平太から大黒町乙名の徳田範十郎へと差し出された借錢返済日延の願書。貸主の松本保助が本石灰町の住人であり、町役場間で掛合を行っているような記述がみられることから、本山家文書に伝来することになったものと思われる。	未	年	11 月 ー 日	船本茂平太 (印)	徳田範十郎殿	状	31.0 × 30.0	包紙あり (39.5×27.0)
1115	東大史料 (託)	172-2	〔包紙〕上	包紙のみ	ー	年	ー 月 ー 日	清次郎妹きく・親類之者	ー	包紙	36.0 × 31.0	
1116	東大史料 (託)	172-3	乍得奉願口上之覚	本石灰町の松本保助が大黒町の船本茂平太に貸した銀子が延々と日延され返済されていないことを訴え出した書付	未	年	9 月 ー 日	本石灰町 松本保助 (印)	本山重太夫殿	包紙 状	34.0 × 25.0 28.0 × 36.5	
1117	東大史料 (託)	172-4	〔包紙〕上	包紙のみ	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	包紙 状	28.0 × 17.0	
1118	東大史料 (託)	172-5	〔白紙〕	白紙	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	状	22.0 × 41.5	
1119	東大史料 (託)	172-6	〔長崎町人名前書付〕	銀屋町吉太郎、諏訪町友蔵、町内定右衛門、儀八の4人の名前書付	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	状	26.5 × 41.0	
1120	東大史料 (託)	172-7	〔包紙〕上	包紙のみ	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	包紙	40.0 × 27.0	
1121	東大史料 (託)	172-8	〔包紙〕写 書付	包紙のみ	ー	年	ー 月 ー 日	ー	ー	包紙	25.0 × 20.5	
1122	東大史料 (託)	173	〔包紙〕書付 吉通	包紙のみ	ー	年	ー 月 ー 日	竹谷仁右衛門	ー	包紙	44.5 × 31.5	
1123	東大史料 (託)	174	乍恐以書付御答申上候口上書	本博多町の仙二郎から返済が滞っている貸銀の返済を訴え出した書状。ひては独身ということもあり、貸銀の返済が行われなければ日々の暮らしが立ち行かないと懇訴している。	文化13	年	12 月 ー 日	本石灰町ひて (印)	御年番所	包紙 状	40.5 × 24.0 31.5 × 89.5	上書付箋3点 「子五月本石灰町ひて」 本博多町川嶋仙次郎 相手取御年番所江願 出候書付」 「啓右衛門差出候年賦証文入」
1124	東大史料 (託)	175	〔包紙〕上	包紙のみ	〔子〕	年	〔5〕 月 ー 日	本石灰町ひて (印)	ー	包紙	37.5 × 26.0	
1125	東大史料 (託)	176	借用申銀子之事	借用主の伝兵衛から本山重之丞に対する金一両の借金証文	寛	年	2 月 7 日	借用主伝兵衛 (印)	本山重之丞殿	状	17.0 × 24.5	
1126	東大史料 (託)	177	〔袋〕土屋紀伊守様二御在勤之節 於町内丸山町源吉玉泉院書付旅人治兵衛喧嘩一件	袋のみ	申	年	2 月 16 日	乙名本山重左衛門・組頭佐藤基兵衛・同平田新兵衛・日行使嘉兵太・俵使掛り成田嘉平次・同竹内兵太夫・御用番藤川彦六	ー	袋	31.5 × 12.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
1127	東大史料 (託)	178	〔差引勘定書付〕	「番貫引」、「丸渡」、「百九拾九人」、「六十人」、「ケ所割」などの勘定書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	18.0 × 20.5	
1128	東大史料 (託)	179	乍恐以書付奉願候	来港の外国人たちが丸山遊廓を遊歩するだけでなく、酒宴を催し投石などの狼藉にまで及んでいることから、丸山・寄合町町の遊女屋連名で一連の不法行為に対する取締を求めた願書	文久2	年	12 月 — 日	丸山町遊女屋大坂屋孫八 (印) 他7名、寄合町遊女屋筑後屋忠左衛門 (印) 他19名 (奥書) 乙名磯野初右衛門 (印) 他1名	盗賊御吟味方御役場	状	32.5 × 162.0	
1129	東大史料 (託)	180	乍恐以奉願口上書	去申年六・七月頃、出島東手練腰外井江戸町辺ニヶ所に繋ぎ留めて置いた材木盗難事件につき吟味願	西	年	12 月 — 日	本下町平戸屋源吉 (印) (奥書) 代乙名藤田新助 (印)	盗賊御吟味方御役場	状	31.0 × 90.0	
1130	東大史料 (託)	181	年賦銀極証文之事	元利高3貫296文の返済方法につき取り決め	文化8	年	12 月 — 日	年賦納主三原啓石衛門判・親類加印・田代忠藏判・同田代勝太郎判 (奥書) 山口利平次	原田ひて殿	状	27.0 × 77.0	
1131	東大史料 (託)	182	〔兵三郎・みつ出入一伴につき書付〕	兵三郎様みつに対し出入あり、当四月御町へ差し出した願書の内容につき、みつ側の存寄書付書、兵三郎をみつが打撃したとの言や抜荷事件へのみつ側の関与につき	宝暦11	年	6 月 21 日	川崎五平次後家借家みつ (印)	—	状	27.0 × 157.5	
1132	東大史料 (託)	183	差上申一札之事	唐紅毛入札商売のためやってきた京都寺町通竹屋町木屋組六兵衛を、数日間、無届で逗留させたことについての詫書	午	年	正 月 11 日	西築町大崎屋吉次 (印)	旅人御政方	状	27.0 × 61.5	後欠
1133	東大史料 (託)	184	乍恐奉願口上書	青貝細工職渡世王之助より本龍町初太郎を相手取る跳青貝物代金滞難送出入、残金10両を払うよう仰せ付け下されたく	万延元	年	7 月 — 日	今魚町西竹屋玉之助 (印)	御町 御役場	状	32.0 × 175.5	
1134	東大史料 (託)	185	(白紙)	白紙3枚一括	—	年	— 月 — 日	—	—	状	— × —	
1135	東大史料 (託)	186	〔包紙〕	ハ朔御礼・割符御礼白銀入包紙	—	年	— 月 — 日	市中取締方本山重之丞・本石灰町中・代乙名西村恒太郎	—	包紙	30.5 × 43.5	
1136	東大史料 (託)	187	〔袋〕薩州蔵屋鋪御館入井同所御下宿町一件書留	袋のみ	—	年	— 月 — 日	本山膳之丞	—	袋	23.5 × 15.0	
1137	東大史料 (託)	188	書付 (豊葦原開ケ始り…)	神道・神国思想を述べる著書の抜粋カ	—	年	— 月 — 日	—	—	整帳	25.0 × 20.0	
1138	東大史料 (託)	189	寛	代銀6貫408両請取	午	年	12 月 17 日	弦伊 (印)	御町方御役場	状	16.5 × 22.0	
1139	東大史料 (託)	190	寛	晒ほか代金メ10貫532文請求	—	年	7 月 3 日	成永店	本山様	状	16.0 × 24.5	
1140	東大史料 (託)	191	寛	唐人屋敷火之番貫請の白砂織買請け、加州本吉宝生丸船にて加州紺屋又助方へ差し送りたいにつき	申	年	4 月 16 日	和泉屋傳五郎 (印)	本山重左衛門殿・貫古市郎右衛門殿	状	25.5 × 30.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
1141	東大史料 (託)	192	寛	日麗貫砂糖高千斤之内七百斤薩州鹿兒島上町立山仁平方江差送り候二付船積之願	巳	年	8 月 一 日	江上奥左衛門 (印)	本山膳之丞殿・三浦惣之丞殿	状	27.5 × 30.0	
1142	東大史料 (託)	193	寛	唐人屋敷火之番貫砂糖高163斤対州素茂兵衛方江差送りにつき船積之願	未	年	閏2 月 3 日	和泉屋傳五郎 (印)	本山重左衛門殿・實古市郎右衛門殿	状	25.5 × 30.0	
1143	東大史料 (託)	194	寛	寅三番割吉番白砂糖1620斤長崎商人河内屋紹又兵衛落札荷物の内私買い受け、長崎本商人中岡屋梅之助へ売り渡しにつき、宿老へ御釣合下されたき旨	卯	年	5 月 一 日	銅座跡平山傳五郎 (印)	本山膳之丞殿・藤田源九郎殿	状	27.5 × 25.5	
1144	東大史料 (託)	195	寛	唐船方日麗貫砂糖高498斤防州吉敷郡山口小田文七方江差送りにつき船積の願	巳	年	9 月 (12) 日	和泉屋傳五郎 (印)	本山膳之丞殿	状	25.0 × 35.0	
1145	東大史料 (託)	196	寛	唐人屋敷火之番貫砂糖高190斤対馬御国御用につき御買物役山内茂八方へ差送りにつき船積の願	未	年	正 月 10 日	和泉屋傳五郎 (印)	本山重左衛門殿・實古市郎右衛門殿	状	25.5 × 27.0	
1146	東大史料 (託)	197	寛	唐人屋敷火之番貫砂糖高800斤対馬御国御用につき御勘定小茂田縫石衛門方へ差送りにつき船積の願	未	年	2 月 28 日	和泉屋傳五郎 (印)	本山重左衛門殿・實古市郎右衛門殿	状	25.5 × 29.5	
1147	東大史料 (託)	198	一札之事	御町当年御神事踊師匠、入札をもって仰せ付けられ、銀600目請取	天明4	年	7 月 一 日	踊師匠西築町横面二而小嶋郷住居久次郎 (印)・請負人今籠町横面二而右同断鶴田伊三次 (印)	本山重野右衛門殿・組頭中	状	27.5 × 36.5	
1148	東大史料 (託)	199	寛	唐三番割吉番白砂糖1620斤長崎商人河内屋紹又兵衛落札荷物の内此度私買い請けにつき、宿老衆へ御釣合下されたき旨	卯	年	5 月 一 日	銅座跡平山傳五郎 (印)	本山膳之丞殿・藤田源九郎殿	状	27.5 × 28.5	
1149	東大史料 (託)	200	[本山重之丞殿・組頭御衆中宛書簡]	半ヶ所代銀800目にて御町内松本茂八郎方へ売り渡したつき、名前書・御町儀願い上げ	天保10	年	一 月 一 日	売主五嶋屋久兵衛 (印)・右請人平田新兵衛 (印)	本山重之丞殿・組頭御衆中	状	26.5 × 31.0	前欠
1150	東大史料 (託)	201	[本石灰町貫銀高書付]	本石灰町分貫銀高書付、定例ノ高・歳暮銀・新地入目・御普請方入目など	子	年	12 月 一 日	貫銀方 (印)	本石灰町	状	25.0 × 35.0	
1151	東大史料 (託)	202	[本石灰町貫銀高書付]	本石灰町分貫銀高書付、定例ノ高・歳暮銀・新地入目・御普請方入目など	丑	年	7 月 一 日	貫銀方 (印)	本石灰町	状	24.5 × 35.0	
1152	東大史料 (託)	203	諸国巡検上使入手国分ケ之書付	「…惣ノ八手 弐拾四人」、諸国地域ブロックごとに分けて書付る	延享3	年	写 月 一 日	—	—	状	15.0 × 39.5	
1153	東大史料 (託)	204	[抜帳物取押の通報者への対応に関する書簡]	抜帳物取押の節、情報を知らせた者へ、取り押さえた品物直立代銀のうち3割を渡す方式について、年限のところ継続につき	—	年	一 月 一 日	—	—	状	18.5 × 79.0	後欠
1154	東大史料 (託)	205	[京都日野屋七兵衛方へかかる龍田屋・住吉屋兩人組合商売一件につき書簡]	京都日野屋七兵衛方へかかる龍田屋・住吉屋兩人組合商売一件、内済相整候所相違なく御座候	辰	年	7 月 一 日	龍田屋茂三次 (印)・住吉屋宇右衛門 (印)	石本幸四郎殿・田口惣兵衛殿・小嶋和四郎殿	状	17.5 × 57.0	前欠
1155	東大史料 (託)	206	[地子銀・町内町人持船数・八朔御礼銀に関する書付]	地子銀・町内町人持船数・八朔御礼銀の差出先など書付	—	年	一 月 一 日	—	—	状	15.5 × 45.5	前後欠
1156	東大史料 (託)	207	口上之寛	昨夜私門先に捨子があつたので、状況を御届	—	年	一 月 一 日	—	—	状	27.0 × 18.0	後欠

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
1157	東大史料 (託)	208	〔本 山 重 兵 衛 宛 受 用 銀・船 改 方 加 役 料 明 細 書 付〕	本 山 重 兵 衛 あ て に 支 給 さ れ た 受 用 銀 (4 貫 目) ・ 船 改 方 加 役 料 (300 目) 並 び に 御 取 扱 な ど の 引 去 を 書 付	—	年	一 月 一 日	—	—	状	15.5 × 21.0	
1158	東大史料 (託)	209	寛	私 方 懸 り 三 輪 与 一 郎 江 間 合 候 加 役 料 月 割 小 訳 書 付、市 中 取 締 方 加 役 料・船 改 方 加 役 料	〔文化13〕	年	3 月 一 日	—	—	状	15.0 × 25.0	
1159	東大史料 (託)	210-1	〔本 山 勝 之 丞 宛 受 用 銀・加 役 料 明 細 書 付〕	本 山 勝 之 丞 受 用 銀・加 役 料 よ り 吉 割 の 銀 高 書 付	—	年	一 月 一 日	—	—	状	28.0 × 10.5	
1160	東大史料 (託)	210-2	〔役 者 ・ 警 固 附 料 等 書 付〕	役 者 三 日 附 料 (48 匁) ・ 警 固 而 日 附 料 (50 目)、同 人 数 揃 附 料 (14 匁) 書 付	—	年	一 月 一 日	—	—	状	25.0 × 11.0	後 欠
1161	東大史料 (託)	211-1	〔本 石 灰 町 銭 代 引 差 引 勘 定 書 付〕	本 石 灰 町 口、銀 高 6 匁 944 匁 余 の 旨 書 付	戊	年	12 月 一 日	—	—	状	27.0 × 10.0	
1162	東大史料 (託)	211-2	寛	上 酒 代 金 受 け 取 り	—	年	7 月 11 日	砂 茂	本 山 様	状	16.0 × 16.0	
1163	東大史料 (託)	211-3	寛	銘 酒 代 金 受 け 取 り	午	年	7 月 11 日	(印) (長 崎 倉) 「ヤマヨ」高	本 山 様	状	15.5 × 15.5	
1164	東大史料 (託)	211-4	寛	す 海 老 ・ 小 い か ・ は も ・ ち か つ を 代 金 請 取	—	年	7 月 11 日	儀 助	—	状	17.5 × 16.0	
1165	東大史料 (託)	212-1	〔本 石 灰 町 銭 代 引 差 引 勘 定 書 付〕	本 石 灰 町 ケ 所 蔵 口、銀 高 書 付	午	年	12 月 一 日	—	—	状	27.0 × 10.0	
1166	東大史料 (託)	212-2	〔書 付〕 (一、貳 拾 ヶ 文 本 石 灰 町) と の み 墨 書	「一、貳 拾 ヶ 文 本 石 灰 町」 と の み 墨 書	—	年	一 月 一 日	—	—	状	25.0 × 9.0	
1167	東大史料 (託)	213	寛 十 二 月 鑑 引 当 貨 銭 取 立	鑑 引 当 貨 銭 を 取 り 立 て た 金 額 を 人 別 こ と に 書 付	〔寛〕	年	〔12〕 月 一 日	—	—	状	16.0 × 109.0	
1168	東大史料 (託)	214	〔箇 所 銀 差 引 勘 定 書 付〕	町 内 人 別 こ と に 地 子 銀・綿 屋 年 鑑・御 米 代 な ど 差 引 勘 定、竹 権・佐 藤・鶴 傳 な ど 名 前 あ り	—	年	一 月 一 日	—	—	横 帳	12.5 × 35.0	
1169	東大史料 (託)	215	〔本 山 重 野 右 衛 門 年 番 乙 名 引 銀 高 書 付〕	本 山 重 野 右 衛 門 の 年 番 乙 名 勤 役 に と ち な う 引 銀 高 の 書 付	自 〔卯〕 年 〔正〕 月 〔5〕 至 〔辰〕	—	—	—	—	状	— × —	
1170	東大史料 (託)	216	子 正 月 ヨ リ 同 十 二 月 迄 月 々 町 違 方 勘 定 帳	筆 墨 紙 買 物、ケ 所 拝 領 銀 高 よ り 貫 銀・八 朔 銀 内 訳、諸 給 銀 書 付、ケ 所 銀 人 別 受 領 高 書 付	〔安永9〕	年	〔正〕 月 一 日	本 石 灰 町 (乙、名 本 山 重 野 右 衛 門・相 頭 平 田 新 兵 衛・同 松 本 貞 助)	—	縦 帳	25.0 × 17.5	
1171	東大史料 (託)	217-1	〔本 石 灰 町 箇 所 銀・鑑 銀 高 書 付〕	本 石 灰 町 箇 所 銀・鑑 銀 高 の 寛 え 書 き	—	年	一 月 一 日	—	—	状	16.5 × 18.0	
1172	東大史料 (託)	217-2	〔材 木 代 貨 銀 に 関 す る 書 付〕	材 木 代 の う ち 下 筑 後 町 政 吉 に 貸 し た 分 の 残 り は 私 引 き 負 い で あ る 旨	寛	年	12 月 一 日	新 大 工 町 久 次 郎	—	状	13.5 × 18.5	
1173	東大史料 (託)	218	〔断 簡 箱〕	断 簡 箱 一 括	—	年	一 月 一 日	—	—	状	— ×	
1174	東大史料 (託)	219	〔付 箋〕	別 離 付 箋 類 一 括	—	年	一 月 一 日	—	—	状	— ×	
1175	東大史料 (託)	220	〔付 札〕	別 離 付 札 類 一 括	—	年	一 月 一 日	—	—	付 札	— ×	
1176	東大史料 (託)	221	漢 語 熟 字 解 附 政 事 成 語 解	ボ ケ ッ ト 版 辞 書	明治26	年	3 月 25 日	九 鬼 隆 誠 著 述、大 阪 田 中 栄 栄 堂 蔵	—	縦 帳	11.0 × 8.0	小 口 「池 田 吉 松」
1177	東大史料 (託)	222	詩 作 必 携 新 撰 以 呂 波 韻 卷 下	ボ ケ ッ ト 版 辞 書	明治11	年	11 月 16 日	編 纂 人 京 都 府 平 民 豊 原 史 雅、出 版 人 大 阪 府 平 民 岡 田 藤 三 郎	—	縦 帳	12.5 × 9.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年 月 日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
1178	東大史料 (託)	223	改正 はうた袖かゝみ	端唄の謡本	〔近世〕 年 一 月 一 日	東都浅草広小路歌澤正譜所 能六斎、同人 形町通品川屋 久助板	—	竖帳	7.5 × 16.0	木版
1179	東大史料 (託)	224	西征詩歌 下巻	西南戦争の際に詠まれた漢詩集	明治11 年 2 月 22 日	編集人東京府 士族部大正 美、出版人東 京府平民相田 政吉	—	竖帳	12.0 × 8.5	表紙裏「西国 武士加藤清 正・末孫加藤 正雄」
1180	東大史料 (託)	225	新令字解	漢語語句集	慶応4 年 6 月 一 日	備中萩田嘯 鶴、大坂心斎 橋通南亭丁目 大野木市兵衛 他2名	—	竖帳	9.0 × 18.0	木版 裏表紙に「本 山所蔵」と墨 書あり
1181	東大史料 (託)	226	文部省 官版 語彙別 記 完	日本語文法書	明治18 年 9 月 6 日	編輯者蔵版、 翻刻出版人大 阪府平民田中 太右衛門、発 売書肆中川勘 助他1名	—	竖帳	17.0 × 12.0	木版
1182	東大史料 (託)	227	文部省 官版 語彙活 語指掌 完	日本語文法書	明治18 年 9 月 6 日	編輯者蔵版、 翻刻出版人大 阪府平民田中 太右衛門、発 売書肆中川勘 助他1名	—	竖帳	17.0 × 12.0	木版
1183	東大史料 (託)	228	執行又記□□	書道手本	— 年 一 月 一 日	—	—	横長	12.0 × 30.5	開版不能
1184	東大史料 (託)	229-1	金響玉振 新撰詩学活 法 天	漢詩語句集	明治26 年 晩春 月 一 日	掛雲福井淳先 生編、田中栄 栄堂梓	—	竖帳	13.0 × 9.0	
1185	東大史料 (託)	229-2	金響玉振 新撰詩学活 法 地	漢詩語句集	明治26 年 5 月 30 日	編輯者福井 淳、発行者田 中太右衛門他 2名	—	竖帳	13.0 × 9.0	
1186	東大史料 (託)	230	〔見当板〕	状態文書をいため、紙を折るときに、その幅を決めるた めに当てる木板	文政12 年 初秋 月 一 日	役場	—	木板	22.0 × 4.5	
1187	東大史料 (託)	231	〔鑑れ〕 慶応三年寅 十一月改盜賊改方	盜賊改方から西古川町で古手屋を営む吉川屋松兵衛あて 交付された「慶応三年寅十一月改」の鑑れ。「十番」との番 号が割り振られている。古手屋の営業許可れとしての役割 を果たしたものと考えられる。失効後に回収されたもののカ	慶応3 年 5 月 一 日	西古川町古手 屋吉川屋松兵 衛	—	木板	17.0 × 12.0	盜賊改方焼 印裏面「十番」
1188	東大史料 (託)	232	〔鑑れ〕 慶応三年寅 十一月改盜賊改方	盜賊改方から今石灰町で古手屋を営む桐山かめあて交付 された「慶応三年寅十一月改」の鑑れ。「七番」との番号が 割り振られている。古手屋の営業許可れとしての役割を果た したものと考えられる。失効後に回収されたもののカ	慶応3 年 11 月 一 日	今石灰町古手 屋桐山かめ	—	木板	17.0 × 12.0	盜賊改方焼 印裏面「七番」
1189	東大史料 (託)	233	寛政九年巳四月川中畑 地三拾八坪之所返上仕 石場所御地邊被下度願 書ニ添差出候絵図控	寛政9年に行われた本石灰町横町通川端畑地の没没にとち なう工事図面。本石灰町の北側半分の区画を収める	〔寛政9〕 年 (4) 月 一 日	—	—	絵図	80.0 × 77.0	

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
1190	東大史料 (託)	234	本石灰町中接地新水帳	正徳3年に行われた本石灰町の接地新水帳。当時の乙名は嶋谷佐實右衛門とあり、乙名としての引継史料にあたりと考えられる。「延宝4(原年御改)」として「間数合226間2尺2寸、此方所六間八ヶ所、ほかに「本石灰町々所餘屋敷」として「間数5間3尺」、「新地ヶ所除」として「間数40間」が計上されている	正徳3年	5月	1日	乙名嶋谷佐實 右衛門	—	竖帳	30.0 × 22.0	
1191	東大史料 (託)	235	本石灰町宗旨改帳	天保7年正月8日付で本石灰町町人の檀那寺・宗旨・年齢・名前を記した宗旨改帳。前後の落丁の可能性が考えられ、乙名の本山家分の記述や文未の本石灰町町人数の記述が脱落している	天保7年	正月	8日	—	—	竖帳	32.0 × 23.5	前後欠
1192	東大史料 (託)	236	本石灰町宗旨改帳	天保8年正月8日付で本山重之丞以下740人(男344人、女396人)の本石灰町町人の檀那寺・宗旨・年齢・名前を記した宗旨改帳。筆頭者の本山重之丞は「一、浄土宗 三寶寺 歳計拾九 本山重之丞」とある。子として重之助(弍ツ、病死)の名がある。	天保8年	正月	8日	—	—	竖帳	32.0 × 23.0	
1193	東大史料 (託)	237	本石灰町宗旨改帳	天保9年正月8日付で本山重之丞以下743人(男350人、女393人)の本石灰町町人の檀那寺・宗旨・年齢・名前を記した宗旨改帳。筆頭者の本山重之丞は「一、浄土宗 三寶寺 歳三拾 本山重之丞」とある。	天保9年	正月	8日	—	—	竖帳	31.0 × 22.5	
1194	東大史料 (託)	238	本石灰町宗旨改帳	天保12年正月8日付で本山重之丞以下727人(男344人、女383人)の本石灰町町人の檀那寺・宗旨・年齢・名前を記した宗旨改帳。筆頭者の本山重之丞は「一、浄土宗 三寶寺 歳三拾三 本山重之丞」とある。倅として福重(四ツ)の名がある。	天保12年	正月	8日	—	—	竖帳	31.0 × 22.5	
1195	東大史料 (託)	239	本石灰町宗旨改帳	天保10年正月8日付で本山重之丞以下740人(男348人、女392人)の本石灰町町人の檀那寺・宗旨・年齢・名前を記した宗旨改帳。筆頭者の本山重之丞は「一、浄土宗 三寶寺 歳三拾壹 本山重之丞」とある。倅として福重(弍ツ)の名がある。	天保10年	正月	8日	—	—	竖帳	31.0 × 22.5	
1196	東大史料 (託)	240	本石灰町宗旨改帳	天保13年正月8日付で本山重之丞以下736人(男364人、女372人)の本石灰町町人の檀那寺・宗旨・年齢・名前を記した宗旨改帳。筆頭者の本山重之丞は「一、浄土宗 三寶寺 歳三拾四 本山重之丞」とある。倅として福重(五ツ)、駒之助(三ツ)の名がある。	天保13年	正月	8日	—	—	竖帳	31.0 × 22.5	
1197	東大史料 (託)	241	本石灰町宗旨改帳	天保15年正月8日付で本山重之丞以下732人(男358人、女374人)の本石灰町町人の檀那寺・宗旨・年齢・名前を記した宗旨改帳。筆頭者の本山重之丞は「一、浄土宗 三寶寺 歳三拾六 重之丞」とある。倅として福重(七ツ)、駒之助(五ツ)、廉之助(三ツ)、娘としてゆう(弍ツ)の名がある。	天保15年	正月	8日	—	—	竖帳	31.0 × 22.5	
1198	東大史料 (託)	242	頼母誦請帳	本山膳之丞ほか9人が参加する頼母子誦帳	自寛政10年 至〔文化3〕	5月	1日	謹元本山膳之丞	—	竖帳	31.0 × 22.5	
1199	東大史料 (託)	243	本石灰町宗旨改帳	文政3年正月8日付で本山重兵衛以下の本石灰町町人の檀那寺・宗旨・年齢・名前を記した宗旨改帳。筆頭者の本山重兵衛は「一、浄土宗 三寶寺 歳五拾 本山重兵衛」とある。倅として本山邦松(拾弍)、娘としてとみ(拾四)、ふさ(六ツ)の名がある。	文政3年	正月	8日	乙名本山重兵衛・相頭佐藤豊兵衛・同平田新三郎	—	竖帳	31.0 × 22.5	
1200	東大史料 (託)	244	本石〔灰町〕宗旨改帳	天保5年正月8日付で本山重之丞以下19人(男3人、女16人)の檀那寺・宗旨・年齢・名前を記した宗旨改帳。筆頭者の本山重之丞は「一、浄土宗 三寶寺 歳計拾六 本山重之丞」とある。	天保5年	正月	8日	乙名本山重之丞・相頭竹谷権兵衛・同佐藤徳三郎	—	竖帳	31.0 × 22.0	後欠

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦 × 横	備考
1201	東大史料 (託)	245	〔耶蘇路総宗教調へに 関する書類売り立て に関する書付〕	耶蘇路総宗教調へに關する書類は、東京大坂では一枚五 円内外で売れる旨のメモ書き。表は帝國在郷軍人会長崎市 分会嘱託状用紙 (大正期)	—	年	— 月 — 日	—	—	状	23.5 × 32.0	
1202	東大史料 (託)	246-1	〔包紙〕上	包紙のみ	—	年	— 月 — 日	八尾榮左衛門	—	包紙	39.0 × 28.0	
1203	東大史料 (託)	246-2	〔包紙〕	包紙のみ	—	年	— 月 — 日	銅座跡彦合印 兵衛倅卯三郎	—	包紙	30.5 × 27.5	
1204	東大史料 (託)	246-3	〔断簡〕	銀高の内ヶ所割凡算用錢高	—	年	— 月 — 日	—	—	状	24.5 × 7.0	
1205	東大史料 (託)	247	乍澤口上書	本石灰町住吉屋七兵衛より私相手取る呉服物代錢滿出入 一件、市中取締方御役場へ願い出につき、七兵衛願書面の 趣について答書	—	年	— 月 — 日	—	—	状	31.5 × 46.0	
1206	東大史料 (託)	248	〔袋〕兵庫表迄急御用 中書類	袋のみ	—	年	— 月 — 日	本山・池島	—	袋	30.0 × 24.0	
1207	東大史料 (託)	249	覚	「長崎之惣図」他絵図類14件書付	酉	年	11 月 — 日	松浦百三郎	—	状	16.5 × 51.5	
1208	東大史料 (託)	250	親類書	本山重左衛門養子信右衛門につき、養方・実方親類書付	巳	年	8 月 — 日	本山信右衛門 門殿・田口惣 兵衛殿・田口 惣八郎殿・荒 木文蔵殿・賀 古政太郎殿	—	状	28.0 × 88.0	
1209	東大史料 (託)	251	卯四番南京船頭櫓樹堂	自分荷物 (脇荷) 書付	卯	年	— 月 — 日	—	—	状	26.0 × 36.0	
1210	東大史料 (託)	252	〔断簡〕 (食品類買物代金書付)	かます・かまぼこ・あけどふ・さば等	—	年	— 月 — 日	—	—	状	22.5 × 16.0	
1211	東大史料 (託)	253	〔包紙〕 (野名 亡父 四七日 三浦辰之助)	包紙のみ	—	年	— 月 — 日	—	—	状	31.0 × 20.5	
1212	東大史料 (託)	254	出錢	出錢・品物代金書付、三宝寺ほか寺宛の出錢、かわら代・ 銅網・表具切代など	—	年	— 月 — 日	—	—	状	26.0 × 18.5	
1213	東大史料 (託)	255	〔袋〕善操院三十三廻 忌法事諸書留	袋のみ	天保9	年	11 月 — 日	荒木高道	—	袋	35.0 × 13.0	
1214	東大史料 (託)	256	去十二月二日新地前曉 亜附属南唐人止宿所曉 失之前場所二而取上	火災消失時に回収した貿易商品名・数量の書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	24.0 × 33.5	
1215	東大史料 (託)	257	〔銅座跡重太郎事幸之 助〕まだ同宅ささる 旨書付)	当十月頃より旅行いたし、いまだ同宅不仕、銅座跡重太郎 事幸之助、当時中門屋茶屋近辺で借家罷在	—	年	— 月 — 日	—	—	状	15.0 × 12.0	
1216	東大史料 (託)	258	覚	年賦銀元利皆済の件につき	—	年	— 月 — 日	—	—	状	15.5 × 18.5	後欠
1217	東大史料 (託)	259	〔包紙〕御仏前	香典袋	—	年	— 月 — 日	岡本佐太郎	—	包紙	26.0 × 37.5	
1218	東大史料 (託)	260	〔断簡〕 (贈客品宛先書付)	「配り菓子」などの項目にて本山御母公他40名の名前書 付。在大阪・在横浜の人名もあり。	〔近代〕	年	— 月 — 日	—	—	状	38.0 × 27.0	
1219	東大史料 (託)	261	〔包紙〕白砂糖	袋のみ	—	年	— 月 — 日	三輪興市	—	包紙	26.5 × 37.5	
1220	東大史料 (託)	262	〔断簡〕 (箇所持助人連印)	「難有泰存候、依之連印仕差上申候、以上 五ヶ所五合 本山隣之丞、式ヶ所 嶋谷市左衛門 (印)、同 海老屋惣 四郎 (印)、同 青木屋隣助 (印)」	—	年	— 月 — 日	本山隣之丞他 3名 (以下破断 に付不明)	—	状	23.5 × 13.0	前後欠
1221	東大史料 (託)	263	〔断簡〕 (買物代金書付)	「一、三錢 よふし…。もめん・いも・たひなど。	〔近代〕	年	— 月 — 日	—	—	状	24.5 × 18.5	
1222	東大史料 (託)	264	〔断簡〕 (町内入別箇所親書付)	住吉屋太兵衛他11名分。	—	年	— 月 — 日	—	—	状	24.5 × 33.0	
1223	東大史料 (託)	265	〔断簡〕 (宗門人別帳部分)	金剛院姪あひ借家とく (歳52) の前後の箇所	—	年	— 月 — 日	—	—	状	30.5 × 14.5	前後欠

通番	収蔵機関	収蔵番号	表題	概要	作成年	月	日	作成・差出	宛先	形態	縦	横	備考
1224	東大史料(託)	266	〔断簡〕 (本右灰町町人名書付)	火事駆けつけ人(本火・助火)を決めた書類か。借屋12名の 名前を書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	24.5 × 33.0		
1225	東大史料(託)	267	覚	筆簡・長持・上下・小袖など家財道具書付	—	年	— 月 — 日	—	—	状	31.0 × 41.0		
1226	東大史料(託)	268-1	〔包紙〕上	包紙のみ	—	年	— 月 — 日	石工 林太郎	—	包紙	25.5 × 37.0		
1227	東大史料(託)	268-2	〔包紙〕御茶	包紙のみ。亡祖母五回忌・亡妻七回忌。香典か。	—	年	— 月 — 日	桜瀬福太郎	—	包紙	30.0 × 20.0		
1228	東大史料(託)	268-3	〔包紙〕御仏前 菓料 金廿円也	包紙のみ。香典袋	—	年	— 月 — 日	野口昇	本仕様	包紙	20.0 × 28.0		
1229	東大史料(託)	268-4	〔断簡〕 (買物代金書付)	〔五月分 〆四円四拾四銭…〕	〔近代〕	年	— 月 — 日	—	—	状	25.0 × 35.5		
1230	東大史料(託)	269	名刺など張ませ帳	近世より明治初頭までの名刺などの張りませ帳	〔近代〕	年	— 月 — 日	—	—	整帳	21.5 × 33.8		
1231	東大史料(託)	270-1	封筒	270-2及び270-3を一括した封筒。板垣退助は本山家との 縁戚にあたる	〔近代〕	年	— 月 — 日	板垣退助	本山膳十郎	封筒	8.0 × 20.0		
1232	東大史料(託)	270-2	〔書簡〕	板垣が姉の法事に遠方のため欠席することの連絡と為替 を送る旨を連絡した書簡	—	年	6 月 22 日	きぬ子	本山和雄	状	17.8 × 81.0		
1233	東大史料(託)	270-3	〔書簡〕	本山から器を3点贈ったことにの甥例として菓子器と珊瑚 樹玉1個を返礼として贈る旨を連絡した書簡	—	年	5 月 6 日	板垣退助	本山膳十郎	状	18.0 × 77.0		
1234	東大史料(託)	271	〔断簡〕	〔寅正月十一日…〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	19.0 × 28.3		
1235	東大史料(託)	272	〔断簡〕	〔三河屋より…〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	— × —		
1236	東大史料(託)	273	一札之事	銀借用につき書付	天保15	年	12 月 — 日	煙草屋平兵衛・口屋金兵衛	諸伊助	状	26.0 × 31.4		
1237	東大史料(託)	274	〔断簡〕	〔文政二卯年長崎詰御勘定…〕文政年間より安政年間まで の長崎詰幕臣一覧	—	年	— 月 — 日	—	—	状	— × —		
1238	東大史料(託)	275	〔借用証文案〕	〔御借用…〕	—	年	正 月 元 日	—	—	状	— × —		
1239	東大史料(託)	276	〔断簡〕	〔十一月十九日…〕金銭出入帳断簡カ	—	年	— 月 — 日	—	—	状	— × —		
1240	東大史料(託)	277	反故紙袋	反故紙袋のみ	—	年	— 月 — 日	—	—	袋	— × —		
1241	東大史料(託)	278	〔断簡〕	〔九月七日…〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	— × —		
1242	東大史料(託)	279	〔断簡〕	〔一、同茶碗…〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	— × —		
1243	東大史料(託)	280	〔断簡〕	本山重助右衛門あて断簡	—	年	— 月 — 日	—	本山重助右衛門 門殿	状	— × —		
1244	東大史料(託)	281	〔断簡〕	〔生肴 一折〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	— × —		
1245	東大史料(託)	282	〔断簡〕	〔一、昆布一疋百六拾三枚〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	— × —		
1246	東大史料(託)	283	〔断簡〕	〔乍恐以書附奉申上候…〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	— × —		
1247	東大史料(託)	284	〔断簡〕	〔天保六未六日二日大崎村〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	— × —		
1248	東大史料(託)	285	〔断簡〕	〔松屋伊三郎方江罷越…〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	— × —		
1249	東大史料(託)	286	〔断簡〕	〔二年酉十一月十五日〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	— × —		
1250	東大史料(託)	287	〔断簡〕	〔一、此者儼まへの品…〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	— × —		
1251	東大史料(託)	288	〔断簡〕	〔一、八厘 まめ…〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	— × —		
1252	東大史料(託)	289	〔断簡〕	〔一、三河屋より むぎのこ〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	— × —		
1253	東大史料(託)	290	〔断簡〕	〔代 三貫八分弐厘弍毛…〕	—	年	— 月 — 日	—	—	状	— × —		